

科目ナンバリング： UGS002
授業形態： 講義
科目名： 日本国憲法
担当教員： 金子 匡良(KANEKO Masayoshi)

【授業の紹介】

この授業では、日本国憲法の土台をなす立憲主義およびそれを生み出した歴史的背景について理解した上で、日本国憲法の構造および主要な規定内容について学んでいく。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|--------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1．豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|-----------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |

【到達目標】

この授業は、以下の事項を修得することを目標とする。
憲法の土台をなす立憲主義の内容について理解し、それを説明することができる。
立憲主義が誕生した歴史的背景と立憲主義の変遷について理解し、それを説明することができる。
日本国憲法の制定経緯について理解し、それを説明することができる。
日本国憲法の構造および主要な規定内容について理解し、それを説明することができる。
憲法の知識を通じて現代社会の諸問題を分析することができる。

【成績の評価】

成績評価は、定期試験の点数に基づいて行う（100％）。試験後に試験内容についてフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし。毎回の授業時に配布するプリントに基づいて授業を進める。

【参考文献】

長谷部恭男(解説)『日本国憲法』（岩波文庫、2019年）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。それを生かし、講義の中で憲法と現実政治との関連についても触れる。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|--|----|
| 1 | 【憲法の意義と機能】 立憲主義の意義と憲法の規範構造について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 2 | 【憲法の歴史：近代憲法の成立】 近代憲法が成立した経緯について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 3 | 【憲法の歴史：近代憲法の変遷と現代憲法の成立】 近代憲法の変遷と現代憲法の成立について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 4 | 【日本国憲法の概要】 日本国憲法の全体構造と特徴について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 5 | 【国民主権】 国民主権の意義、およびその規範的意味について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 6 | 【天皇制】 象徴天皇制の概要と天皇の国事行為について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 7 | 【平和主義】 平和主義の意義と憲法9条に関する解釈・判例について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 8 | 【平等権】 平等権の意義と保障範囲、およびそれに関する判例について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 9 | 【表現の自由】 表現の自由の意義と保障範囲、およびそれに関する判例について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 10 | 【参政権】 参政権の意義と保障範囲、およびそれに関する判例について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 11 | 【社会権】 社会権の意義と保障範囲、およびそれに関する判例について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 12 | 【権力分立】 権力分立の意義およびその現代的変容について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 13 | 【違憲審査制】 違憲審査制の意義とその限界について学ぶ。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 14 | 【司法権の独立】 司法権の独立の意義とそれを脅かす要因につ | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|--|----|
| | いて学ぶ。 | 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| 15 | 【授業のまとめ】 授業内容を振り返るとともに、試験を行った上でフィードバックを行う。 | 予習：プリントを読んでおく。（2時間程度） 復習：プリントを読み直し、問題点や疑問点を確認する。（2時間程度） | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： UCI102

授業形態： 演習

科目名： 情報基礎演習

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業では、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、「数理・データサイエンス」の基礎知識についても併せて学習します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|---------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Wordを対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック office2021版』（実教出版株式会社，2022）ISBN:9784407359435

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------------------------|--|----|
| 1 | 受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力 | 準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は当該回の予習などです（第1回目は高校まででどんな情報の学びをしたかまとめておいてください）。事後学習は自分のその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 2 | 文書作成（1） 基本操作と印刷 | 準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 3 | 情報と社会（1） 電子メールによるコミュニケーション | 準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。 | |
| 4 | 文書作成（2） 表の作 | 準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 5 | 文書作成（3） 書式の設定 | 準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 6 | 情報と社会（2） 個人情報保護 | 準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。 | |
| 7 | 文書作成（4） 図・画像などの挿入 | 準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 8 | 文書作成（5） Webブラウザとの連携 | 準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 9 | 数理・データサイエンス（1） 数理・データサイエンスとは何か？ | 準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。 | |
| 10 | 情報と社会（3） 情報倫理・情報モラル | 準備学習1時間、事後学習1時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------------------------|--|--------------------------------|
| | | 関係する情報を調べ学習することが挙げられます。 | |
| 11 | 情報と社会（４） 知的財産権 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。 | |
| 12 | 文書作成（６） 図の作成と編集 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 13 | 文書作成（７） 縦書き、PDF変換 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 14 | 情報と社会（５） ネット犯罪 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。 | |
| 15 | 数理・データサイエンス（２） 身の周りの数理・データサイエンス | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、インターネットでその回に関係する情報を調べ学習することが挙げられます。 | |
| | 定期試験(実施しない) | | 授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。 |

科目ナンバリング： UCI103
授業形態： 演習
科目名： 情報応用演習
担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint）の機能について学習します。また、「数理・データサイエンス」の基礎知識についても併せて学習します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|---------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

1. Microsoft Excelを対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPointを対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック office2021版』（実教出版株式会社，2022）ISBN:9784407359435

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|----------------------------------|---|----|
| 1 | 受講ガイダンス、表計算（１） 基本操作と印刷 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は当該回の予習などです（第 1 回目は前期の情報基礎演習などのような情報の学びをしたかまとめておいてください）。事後学習は自分のその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 2 | 表計算（２） 表の作成 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 3 | 表計算（３） 基本編集 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 4 | 表計算（４） 表の書式設定と印刷 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 5 | 表計算（５） 数式（１） 絶対参照と相対参照、基本関数 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 6 | 表計算（６） 数式（２） 順位取得、条件判断 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 7 | 表計算（７） 数式（３） 表参照によるデータ取得、端数処理 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 8 | 表計算（８） 数式（４） エラー回避、文字列操作 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 9 | 数理・データサイエンス（１） データは人を騙す | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 10 | 数理・データサイエンス（２） Excelを使ったデータ処理の基礎 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------------------------|--|--------------------------------|
| | | の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 11 | プレゼンテーション（１） 基本操作と印刷 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 12 | プレゼンテーション（２） 図やオブジェクトの挿入 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 13 | プレゼンテーション（３） SmartArt、グラフ、表の挿入 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 14 | プレゼンテーション（４） 作図機能を用いた複雑な図の作成 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| 15 | プレゼンテーション（５） 特殊効果と自動実行 | 準備学習 1 時間、事後学習 1 時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りや当該回の予習などです。事後学習はその回の復習をしたり、自分のPCを用いてその回の内容を再度行ってみることが挙げられます。 | |
| | 定期試験(実施しない) | | 授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。 |

科目ナンバリング： UHH001
授業形態： 講義
科目名： 健康とスポーツ【発】
担当教員： 宮本 賢作(MIYAMOTO Kensaku)

【授業の紹介】

成長期から成人期に移行するこの時期に、正しいヘルスリテラシーを身につけるとともに、今後起こりうる健康問題について理解することで、その予防としての運動、食事、休養の重要性と、それをサポートする社会的なシステムについて理解する。またこれらを主体的かつ科学的に捉え、行動変容を意識した実践力と、その基盤となるエビデンスに基づいた健康づくりについて考察する。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|--------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1. 豊かな人間性や主体的に生きる力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|-----------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |

【到達目標】

健康な生活を営む上で必要な基礎知識の理解を深めることができる。
ヒトの生涯のさまざまな場面で生じる疾病の予防および健康の維持と生体機能の関係について理解を深めることができる。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60%）、レポート・ミニテスト（30%）、学習態度（10%）によって行い、総計60%以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

シンプル衛生公衆衛生学2022（南江堂）
これからの健康とスポーツの科学 第5版（講談社）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|----------------------------------|--|----|
| 1 | オリエンテーション・健康（及び疾病）の概念とヘルスプロモーション | 毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 2 | 健康を取り巻く環境についての理解 | 毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 3 | 健康情報とヘルスリテラシー | 毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 4 | 幼少期～成長期の健康問題 | 毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 5 | 成人期の健康問題 | 毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 6 | 高齢期の健康問題 | 毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 7 | 死生観と生命倫理 | 毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 8 | 健康と運動・労働 | 毎回、授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着す | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------------------------|--|----|
| | | るよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 9 | 健康と食事・栄養 | 毎回、授業の概要を紹介したレジюмеを配布します。レジюмеをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 10 | 健康と休養・睡眠 | 毎回、授業の概要を紹介したレジюмеを配布します。レジюмеをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 11 | 喫煙，飲酒，薬物乱用，メディアリテラシーと健康 | 毎回、授業の概要を紹介したレジюмеを配布します。レジюмеをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 12 | 運動の科学と健康 | 毎回、授業の概要を紹介したレジюмеを配布します。レジюмеをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 13 | 体力の評価と分析 | 毎回、授業の概要を紹介したレジюмеを配布します。レジюмеをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 14 | エビデンスに基づいた医療と健康づくり&持続可能な健康づくり | 毎回、授業の概要を紹介したレジюмеを配布します。レジюмеをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| 15 | まとめ（生涯にわたる健康増進とスポーツライフの継続を目指して） | 毎回、授業の概要を紹介したレジюмеを配布します。レジюмеをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい（毎回2時間程度）。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい（毎回2時間程度）。 | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： UHH002
授業形態： 実習
科目名： 健康とスポーツ実習【発A】
担当教員： 奥田 直希(OKUDA Naoki)

【授業の紹介】

この授業の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、授業のはじめには、文化としてスポーツを捉えることの必要性を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動におけるグループワークやプレゼンテーションを通して、スポーツの文化性についての理解を深めます。次に、ゴール型スポーツ（主にアルティメット、フラッグフットボール）、ネット型スポーツ（主にバドミントン、インディアカ）、ターゲット型スポーツ（主にユニカール、グラウンドゴルフ）といった様々なスポーツを題材として、スポーツの楽しさを理解し、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。そして、これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。

なお、この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：nnu3ezl）を活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|-------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1．豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 3．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|-----------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

- 1．文化としてのスポーツの捉え方を理解できる
- 2．新スポーツを企画・実行できる
- 3．スポーツの楽しさを理解し表現できる
- 4．他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【成績の評価】

- ・プレゼンテーションに関する課題 30%
- ・グループワークに関する課題 40%
- ・小レポート 30%

《フィードバックの方法》

プレゼンテーションに関する課題およびグループワークに関する課題については、授業時間中に講評を行うことでフィードバックを実施します。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス，1982年） 図書館に配架

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-------------------------|---|----|
| 1 | オリエンテーション | 【予習】GoogleClassroomに参加し、事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分） | |
| 2 | 新スポーツ創造の意義 | 【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分） | |
| 3 | 新スポーツの創造：発案 | 【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分） | |
| 4 | 新スポーツの創造：計画 | 【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの実行可能性を検討する。（30分） | |
| 5 | 新スポーツの創造：修正 | 【復習】新スポーツの創造に関するプレゼンテーション資料を作成する。（1時間） | |
| 6 | 新スポーツの創造：発表 | 【復習】新スポーツの実践に伴う準備事項を検討する。（1時間） | |
| 7 | 新スポーツの創造：実践 | 【復習】新スポーツの創造に関する活動を振り返り、レポートにまとめて提出する。（1時間） | |
| 8 | アルティメット（1）：ルールを理解する | 【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間） | |
| 9 | アルティメット（2）：競技を楽しむ | 【復習】GoogleClassroomを通じて配布される事後アンケートに回答する。（1時間） | |
| 10 | フラッグフットボール（1）：ルールを理解する | 【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間） | |
| 11 | フラッグフットボール（2）：競技を楽しむ | 【復習】GoogleClassroomを通じて配布される事後アンケートに回答する。（1時間） | |
| 12 | ネット型競技（1）：バドミントンの実践 | 【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間） | |
| 13 | ネット型競技（2）：インディアカの実践 | 【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間） | |
| 14 | ターゲット型競技（1）：グラウンドゴルフの実践 | 【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間） | |
| 15 | ターゲット型競技（2）：ユニカールの実践 | 【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間） | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： UHH002
授業形態： 実習
科目名： 健康とスポーツ実習【発B】
担当教員： 奥田 直希(OKUDA Naoki)

【授業の紹介】

この授業の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、授業のはじめには、文化としてスポーツを捉えることの必要性を説明あるいは表現するとともに、新スポーツの創造活動におけるグループワークやプレゼンテーションを通して、スポーツの文化性についての理解を深めます。次に、ゴール型スポーツ（主にアルティメット、フラッグフットボール）、ネット型スポーツ（主にバドミントン、インディアカ）、ターゲット型スポーツ（主にユニカール、グラウンドゴルフ）といった様々なスポーツを題材として、スポーツの楽しさを理解し、より深くその楽しさを味わう技能を学びます。そして、これらスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。

なお、この授業ではGoogle Classroom（クラスコード：6hu244f）を活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|-------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1．豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 3．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|-----------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

- 1．文化としてのスポーツの捉え方を理解できる
- 2．新スポーツを企画・実行できる
- 3．スポーツの楽しさを理解し表現できる
- 4．他者と協力しスポーツを楽しむことができる

【成績の評価】

- ・プレゼンテーションに関する課題 30%
- ・グループワークに関する課題 40%
- ・小レポート 30%

《フィードバックの方法》

プレゼンテーションに関する課題およびグループワークに関する課題については、授業時間中に講評を行うことでフィードバックを実施します。小レポートについては、第15回終了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス，1982年） 図書館に配架

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|-------------------------|---|----|
| 1 | オリエンテーション | 【予習】GoogleClassroomに参加し、事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分） | |
| 2 | 新スポーツ創造の意義 | 【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分） | |
| 3 | 新スポーツの創造：発案 | 【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの創造に関するアイデアを検討し、ノートにまとめておく。（30分） | |
| 4 | 新スポーツの創造：計画 | 【予習】GoogleClassroomを通じて配布される事前アンケートに回答する。（30分） 【復習】新スポーツの実行可能性を検討する。（30分） | |
| 5 | 新スポーツの創造：修正 | 【復習】新スポーツの創造に関するプレゼンテーション資料を作成する。（1時間） | |
| 6 | 新スポーツの創造：発表 | 【復習】新スポーツの実践に伴う準備事項を検討する。（1時間） | |
| 7 | 新スポーツの創造：実践 | 【復習】新スポーツの創造に関する活動を振り返り、レポートにまとめて提出する。（1時間） | |
| 8 | アルティメット（1）：ルールを理解する | 【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間） | |
| 9 | アルティメット（2）：競技を楽しむ | 【復習】GoogleClassroomを通じて配布される事後アンケートに回答する。（1時間） | |
| 10 | フラッグフットボール（1）：ルールを理解する | 【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間） | |
| 11 | フラッグフットボール（2）：競技を楽しむ | 【復習】GoogleClassroomを通じて配布される事後アンケートに回答する。（1時間） | |
| 12 | ネット型競技（1）：バドミントンの実践 | 【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間） | |
| 13 | ネット型競技（2）：インディアカの実践 | 【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間） | |
| 14 | ターゲット型競技（1）：グラウンドゴルフの実践 | 【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間） | |
| 15 | ターゲット型競技（2）：ユニカールの実践 | 【予習】実施する競技のルールや成り立ちを調べてノートにまとめる。（1時間） | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： UCE101
授業形態： 演習
科目名： 英語 【発あ】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

本授業では、中学校・高等学校で習った英語文法力の定着を図るとともに、卒業後の社会において求められる英語でのコミュニケーション力の強化のために必要となる聴解力と読解力の強化に努めます。家庭では予習と復習が求められ、その確認のため毎回授業のはじめに小テストを行います。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|---------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1. 豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

バランスの取れた英語力の習得のためには、当然のことながら文法・語法の理解は不可欠です。この授業で目指すものは、以下の三つです。

基礎的な文法を確実に理解し、使うことができる。
まとまった長さの英文を読み、内容を理解することができる。
実用英語技能検定試験準2級程度の英文を聞き、理解することができる。

【成績の評価】

小テスト(40%)、宿題(10%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。毎時間行なう小テストは、その直後に解答を解説します。また宿題としての提出物は、評価したものをその後の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

山田久美 他、 Starting Gate (「基礎から始める英語演習」) (南雲堂)

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-------------------------------|--|----|
| 1 | オリエンテーション・英語のbe動詞 | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 2 | 一般動詞（現在）+ Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 3 | 一般動詞（過去）+ Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 4 | 進行形 + Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 5 | 未来形 + Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 6 | 助動詞 + Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 7 | 名詞・冠詞 + Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 8 | 代名詞 + Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 9 | 前置詞 + Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 10 | 形容詞・副詞+ Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。（15分） 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。（15分） 3. 次回の授業の予習をすること。（30分） | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-------------------------------------|--|----|
| | | 分) | |
| 11 | 比較 + Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。(15分) 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。(15分) 3. 次回の授業の予習をすること。(30分) | |
| 12 | 命令文・感嘆文 + Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。(15分) 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。(15分) 3. 次回の授業の予習をすること。(30分) | |
| 13 | 接続詞() + Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。(15分) 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。(15分) 3. 次回の授業の予習をすること。(30分) | |
| 14 | 不定詞()・動名詞() + Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。(15分) 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。(15分) 3. 次回の授業の予習をすること。(30分) | |
| 15 | 受動態 + Reading & Listening | 1. 毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。(15分) 2. 宿題として課された提出物の準備をすること。(15分) 3. 次回の授業の予習をすること。(30分) | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： UCE101

授業形態： 演習

科目名： 英語 【発い】

担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っているまとまった内容の英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。75語～100語から成るReadingの素材は、天気、旅行、文化など身近な話題が中心で、受講生にとって取り組みやすいものとなっています。

受講生には、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が必須です。 Google Classroom Code: t2tpafg

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|---------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1. 豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

1. まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
2. 本文を音読することで英語に慣れ、覚えた英文を用いてコミュニケーションを図ることができる。
3. 自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「提出物等授業時間外に課す課題」15%、「小テスト」20%、「音読テスト」15%、「定期試験」40%の5項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

Reading Links 2 (Andrew E. Bennett著、南雲堂、2021年)

【参考文献】

なし

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高校現場での英語指導の経験を活かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|--|----|
| 1 | オリエンテーション | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 2 | Unit 1 Weather | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 3 | Unit 1 Weather Unit 2 The Internet | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 4 | Unit 2 The Internet Unit 3 Animals | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 5 | Unit 3 Animals | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 6 | Unit 4 Friends | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 7 | Unit 4 Friends Unit 5 Helping Others | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 8 | Unit 5 Helping Others Unit 6 Traveling | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 9 | Unit 6 Traveling | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 10 | Unit 7 Collections and Gifts | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 11 | Unit 7 Collections and Gifts Unit 8 Careers | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| | | | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|--|----|
| 12 | Unit 8 Careers Unit 9 European Cultures | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 13 | Unit 9 European Cultures | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 14 | Unit 10 Gifted Children Part 1: Child Prodigies | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 15 | Unit 10 Gifted Children Part 2: What makes a prodigy? | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： UCE102
授業形態： 演習
科目名： 英語 【発あ】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

英語 に引き続き、この授業では文法力のさらなる定着を図るとともに、身近な話題を扱いながら、英語の4技能の運用能力をさらに高め、将来社会人として最低限必要な英語力の涵養に努めます。また、実用英語技能検定試験やTOEICの問題にあたりながら、英語による問題解決能力の向上をもめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|---------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1. 豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

1. 基本的な英文法を理解し、使うことができる。
2. 平易な英文の読解ができる。
3. 日常的な英文を聞いて、概要をつかむことができる。
4. 英検準2級の問題は、ほぼ解くことができる。

【成績の評価】

小テスト(40%)、提出物(10%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は、評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

前期の進度により、後期に使用するテキストは、前期の最後に指示します。

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------------------|---|----|
| 1 | オリエンテーション・前期の復習 | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 2 | 比較 + Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 3 | 接続詞 + Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 4 | 5文型 + Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 5 | 各種疑問文 + Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 6 | 不定詞 + Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 7 | Itの特別用法 + Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 8 | 時制 + Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 9 | 関係代名詞（1）（基本 + Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 10 | 関係代名詞（2）（発展）+ Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 11 | 完了形（結果、継続）+ Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 12 | 完了形（経験）+ Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|----------------------------------|---|----|
| | | 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 13 | 仮定法（基本）+ Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 14 | 仮定法（過去完了）+ Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| 15 | 英語の重要構文と熟語 + Reading & Listening | 1．毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。（15分） 2．提出物の準備をすること。（15分） 3．次回の授業の予習をすること。（30分） | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： UCE102

授業形態： 演習

科目名： 英語 【発い】

担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

英語 に引き続き、英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配し、テキストに載っているまとまった内容の英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。75語～100語から成るReadingの素材は、宇宙、文化、言語など身近な話題が中心で、受講生にとって取り組みやすいものとなっています。

受講生には、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、本文を何度も音読しながら、継続的に学ぶ姿勢が必須です。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|---------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1. 豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

1. まとまった英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
2. 本文を音読することで英語に慣れ、覚えた英文を用いてコミュニケーションを図ることができる。
3. 自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「提出物等授業時間外に課す課題」15%、「小テスト」20%、「音読テスト」15%、「定期試験」40%の5項目を総合的に評価します。小テスト及び授業時間外に課す課題については、その都度評価及びフィードバックを行います。
なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

Reading Links (Andrew E. Bennett著、南雲堂、2021年)

【参考文献】

なし

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。高校現場での英語指導の経験を活かして授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|--|----|
| 1 | オリエンテーション | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 2 | Unit 11 Restaurants | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 3 | Unit 11 Restaurants Unit 12 Transportation | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 4 | Unit 12 Transportation Unit 13 Homes | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 5 | Unit 13 Homes | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 6 | Unit 14 Space | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 7 | Unit 14 Space Unit 15 Personality | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 8 | Unit 15 Personality Unit 16 Design and Fashion | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 9 | Unit 16 Design and Fashion | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 10 | Unit 17 Asian Cultures | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 11 | Unit 17 Asian Cultures Unit 18 Modern Life | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 12 | Unit 18 Modern Life Unit 19 Growing Things | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|--|----|
| | | 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 13 | Unit 19 Growing Things | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 14 | Unit 20 Languages Part 1: Sign Language | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| 15 | Unit 20 Languages Part 2: Learning English | 予習として、次回に行うLessonの問題を解いてくること。（30分） 復習として、音読テストを3回実施するとともに、小テストを5回実施します。そのためのワークシートを5枚課します。（1時間） | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： UCF101

授業形態： 演習

科目名： フランス語

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

「フランス語が難しければ、フランス人でも話せません!」という出発点から始まります。赤ちゃんは周りの音から少しずつ意味が取れるようになり、自分から表現できるようになります。このフランス語に参加される皆さんは赤ちゃんではありませんが、同じやり方で少しずつフランス語を自分のものにしていきます。ポイントは実際に話される内容を生かせることです。つまり、テキストの登場人物がやっていることを学んでいくのではなく、自分について、自分がやっていることについて、自分がやりたいことについて、そしてそれぞれについて仲間に尋ねる、という覚え方です。

15回の授業を2つのプロジェクトに分けます。それをさらに3つのテーマに分けて、各テーマに対して2つの授業をします。1つ目の授業は先生の話しているモデルに従った簡単な会話を中心に(話す力)、そして、その会話について簡単な文書を読みます(読む力)。2つ目の授業は身についた内容について簡単な作文をし(書く力)、それを発表して、会話に戻します(一つの「聞く、話す、読む、書く」循環が完成できました)。テーマを通じて、語彙や使える表現が少しずつ増やしていきます。プロジェクトごとにまとめ(復習)の授業があります。最後の授業は次のステップにつなげる内容を導入します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|-----------------|------|---------------------------|
| 201904 ~ 202404 | 大学 | 1. 豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|-----------------|------|------------------------|-----|
| 201904 ~ 202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

1. 実際の状況に応じて、コミュニケーションを図ることができる。
2. 総合的なフランス語能力を身につけるため、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開できる。

【成績の評価】

授業中の積極的な参加の評価 80%
テーマの復習 20% 総合合格点は60点以上です。
授業時間内に随時コメントを行うことでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|------------------------------|---|----|
| 1 | （初級）自分について、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 2 | （初級）自分について、書く（発表） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 3 | （初級）家族、親戚について、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 4 | （初級）家族、親戚について、書く（発表） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 5 | （初級）友達、先生、バイト先の仲間について、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 6 | （初級）友達、先生、バイト先の仲間について、書く（発表） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 7 | （初級）テーマの復習 | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 8 | （中級）自分について、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|------------------------------|---|----|
| | | ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 9 | （中級）自分について、書く（発表） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 10 | （中級）家族、親戚について、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 11 | （中級）家族、親戚について、書く（発表） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 12 | （中級）友達、先生、バイト先の仲間について、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 13 | （中級）友達、先生、バイト先の仲間について、書く（発表） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 14 | （中級）テーマの復習 | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 15 | （初級）日常生活について、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： UCF102

授業形態： 演習

科目名： フランス語

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

フランス語 を参照。

フランス語 は、同じ方法で、別のプロジェクトを通じてフランス語能力を高めていきます。フランス語検定5級を受けたい生徒に対して独学で受けられるようにヒントを提示します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|--------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1．豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

- 1．実際の状況に応じて、コミュニケーションを図ることができる。
- 2．総合的なフランス語能力を身につけるため、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開できる。
- 3．独学でフランス語検定5級を受けられる力を身につけることができる。

【成績の評価】

授業中の積極的な参加の評価 80%
テーマの復習 20% 総合合格点は60点以上です。
授業時間内に随時コメントを行うことでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|------------------------|---|----|
| 1 | （初級）日常生活について、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 2 | （初級）日常生活について、書く（発表） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 3 | （中級1）日常生活について、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 4 | （中級1）日常生活について、書く（発表） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 5 | （中級2）日常生活について、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 6 | （中級2）日常生活について、書く（発表） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 7 | テーマの復習（第1回～第6回） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 8 | （初級）最近あったことについて、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------------------------|---|----|
| | | ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 9 | （初級）最近あったことについて、書く（発表） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 10 | （初級）これからあることについて、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 11 | （初級）これからあることについて、書く（発表） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 12 | （中級）最近あったこと、これからあることについて、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 13 | （中級）最近あったこと、これからあることについて、書く（発表） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 14 | テーマの復習（第8回～第13回） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| 15 | （初級）自分の好みとその理由について、話す（読む） | 授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度） | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： UCC101
授業形態： 演習
科目名： 中国語
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業では、中国語を話し読むための発音記号（ピンイン）や中国語の基本文型を学習し、そのうえ、漢字を読み、単語を覚え、簡単な会話や挨拶を練習していきます。発音の練習は通信媒体の機能を利用して楽しく学習していきます。また、中国社会や中国文化についても紹介し、グローバルな思考を養います。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|--------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1．豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

- 1．中国語の発音記号（ピンイン）を学習することによって中国語の漢字をすべて読むことができる。
- 2．中国語での挨拶や簡単な会話ができるようになる。
- 3．中国語基本文型の構造が理解できる。

【成績の評価】

授業中の各活動（10％）、授業時間外の学習ための問題（10％）、中間テスト（30％）、期末テスト（50％）
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

陳淑梅・劉光赤 著 「実学実用 初級中国語」 朝日出版社

【参考文献】

日中・中日辞書
自編教材『ピンインをマスターできる』

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------|--|----|
| 1 | オリエンテーションと単母音 | 予習：教科書の8ページの単母音 復習：学習内容をノートにまとめ。 | |
| 2 | 子音と単母音 | 予習：教科書の14ページの子音 復習：配ったプリントで復習する。 | |
| 3 | 子音と複合母音 | 予習：教科書の複合母音 復習：配ったプリントで復習する。 | |
| 4 | 子音と鼻音 | 予習：教科書の鼻音 復習：配ったプリントで復習する。 | |
| 5 | ピンインの復習と簡単な挨拶 | 予習：教科書20ページまで 復習：配ったプリントで復習する。 | |
| 6 | ピンインテスト | 予習：教科書20ページまで 復習：配ったプリントで復習する。 | |
| 7 | 名前の言い方 | 予習：自分の名前を中国語で読めるようにピンインを付ける。 復習：自己紹介の練習 | |
| 8 | 「是」の使い方 | 予習：教科書の24 - 27ページ 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。 | |
| 9 | 動詞述語 | 予習：教科書の7課の内容 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。 | |
| 10 | 動詞「喜欢」の使い方 | 予習：教科書の8課の内容 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。 | |
| 11 | 動詞「有」の使い方 | 予習：教科書の9課の内容 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。 | |
| 12 | 時間名詞と使い方 | 予習：教科書の内容 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。 | |
| 13 | 「在」 | 予習：教科書の内容 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。 | |
| 14 | 形容詞述語 | 予習：教科書の内容 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。 | |
| 15 | 復習 | 予習：教科書の内容 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間） / 復習内容（時間） | 備考 |
|---|------------|---------------------------------|----|
| | | 復習：学習内容をノートにまとめ、配ったプリントで復習する。 | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： UCC102
授業形態： 演習
科目名： 中国語
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業では、中国語 を学習した学生を対象にさらに語彙を増やし、基本文型を学習し、それを使って会話をしたり、中国語の文章を読んだり、書いたりします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|--------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1．豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

- 1．簡単な会話ができる。
- 2．簡単な中国語を読んだり、書くことができる。

【成績の評価】

小テスト（プリント）（25％）、中間テスト（25％）、期末テスト（50％）
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

陳 淑梅・劉光赤著 「実学実用 初級中国語」（朝日出版社）

【参考文献】

『中日・日中辞典』

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-------------------|---|----|
| 1 | 前置詞「从・往・离」 | 予習：教科書の11課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 2 | 動詞「在」と文末の「了」 | 予習：教科書の12課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 3 | 時刻、時量詞 | 予習：教科書の13課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 4 | 比較の言い方 | 予習：教科書の14課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 5 | 助動詞「可以」、方向補語 | 予習：教科書の15課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 6 | 復習 | 予習：教科書の11課～15課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 7 | 中間テスト | 予習：教科書の11課～15課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 8 | 結果補語、助動詞「会」 | 予習：教科書の16課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 9 | 二重目的語、様態補語と助動詞「能」 | 予習：教科書の17課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 10 | 可能補語 | 予習：教科書の18課の前半 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 11 | 程度補語 | 予習：教科書の18課の後半 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 12 | 「是...的」の使い方 | 予習：教科書の19課の前半 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 13 | 進行と持続の表現 | 予習：教科書の19課の後半 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 14 | 存現文 | 予習：教科書の20課 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|------------|---|----|
| | | 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| 15 | 復習 | 予習：教科書の16課～20課 復習：学習した内容をノートにまとめ、単語と文型を応用して作文する。 | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： UCK101
授業形態： 演習
科目名： 韓国語 【A】
担当教員： 崔 榮晋(CHOI Youngjin)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当しています。授業では、韓国語を読む・書くための文字であるハングルの基本文字（24字）と基本文法を学習します。日本語の文法と似ているので、単語を覚えていくと会話がより豊になります。多くの学習者が苦手とする、発音は日本語の単語から分かりやすく説明し練習して綺麗な発音が習得できます。また、韓国の文化・社会などについても紹介し理解を深め、グローバルな思考力も養います。楽しく学んで韓国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|---------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1. 豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

1. 韓国語の固有文字であるハングルの読み書きを正確な発音として習得できる。
2. 韓国語での基本的な挨拶や簡単な会話が出来ることによってコミュニケーションの楽しさを体験できる。
3. 韓国語の語順や文型は、日本語と同様な部分が多く日本語ベースで構造を理解することができる。
4. 韓国語だけではなく、社会・文化・経済・政治・歴史などにも理解を深めることができる。

【成績の評価】

授業への取り組みや各活動（20%）、小テスト・課題・レポート（50%）、期末試験（30%）小テスト。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評します。定期試験については、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】

「WE CAN 韓国語」（入門から初級へ） 金世徳・張京花 著（博英社） ISBN 978-4-910132-15-0

【参考文献】

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|-------------------------------|----|
| 1 | オリエンテーションと基本母音（10個） | | |
| 2 | 基礎子音（14個）合成母音 | | |
| 3 | 韓国語の仕組み | | |
| 4 | 終声(パッチム)と発音のルール | | |
| 5 | まとめ（母音・子音の発音と成り立ちの習得を確認） | | |
| 6 | ～です/ですか / ～は（自己紹介） | | |
| 7 | ～ではありません。 | | |
| 8 | あります/います / ～に | | |
| 9 | ありません/いません | | |
| 10 | まとめ（母音・子音を用いて自由に書き取りができる。自己紹介などの基本挨拶の表現ができる） | | |
| 11 | 「この、その、あの」+N | | |
| 12 | 助詞「～と、～も」 | | |
| 13 | ～です・～ます「名詞文の 体」 | | |
| 14 | 助詞「～を、～で」 | | |
| 15 | 漢数字の言い方 | | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： UCK101
授業形態： 演習
科目名： 韓国語 【B】
担当教員： 朴 英信

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当しています。授業では、韓国語を読む・書くための文字であるハングルの基本文字（24字）と基本文法を学習します。日本語の文法と似ているので、単語を覚えていくと会話がより豊になります。多くの学習者が苦手とする、発音は日本語の単語から分かりやすく説明し練習して綺麗な発音が習得できます。また、韓国の文化・社会などについても紹介し理解を深め、グローバルな思考力も養います。楽しく学んで韓国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|--------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1．豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2．課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3．学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

- 1． 韓国語の固有文字であるハングルの読み書きを正確な発音として習得できる。
- 2． 韓国語での基本的な挨拶や簡単な会話が出来ることによってコミュニケーションの楽しさを経験できる。
- 3． 韓国語の語順や文型は、日本語と同様な部分が多く日本語ベースで構造を理解することができる。
- 4． 韓国語だけではなく、社会・文化・経済・政治・歴史などにも理解を深めることができる。

【成績の評価】

授業への取り組みや各活動（20%）、小テスト・課題・レポート（50%）、期末試験（30%）小テスト。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評します。定期試験については、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】

「WE CAN 韓国語」（入門から初級へ） 金世徳・張京花 著（博英社） ISBN 978-4-910132-15-0

【参考文献】

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|-------------------------------|----|
| 1 | オリエンテーションと基本母音（10個） | | |
| 2 | 基礎子音（14個）合成母音 | | |
| 3 | 韓国語の仕組み | | |
| 4 | 終声(パッチム)と発音のルール | | |
| 5 | まとめ（母音・子音の発音と成り立ちの習得を確認） | | |
| 6 | ～です/ですか / ～は（自己紹介） | | |
| 7 | ～ではありません。 | | |
| 8 | あります/います / ～に | | |
| 9 | ありません/いません | | |
| 10 | まとめ（母音・子音を用いて自由に書き取りができる。自己紹介などの基本挨拶の表現ができる） | | |
| 11 | 「この、その、あの」+N | | |
| 12 | 助詞「～と、～も」 | | |
| 13 | ～です・～ます「名詞文の 体」 | | |
| 14 | 助詞「～を、～で」 | | |
| 15 | 漢数字の言い方 | | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： UCK102
授業形態： 演習
科目名： 韓国語 【A】
担当教員： 崔 榮晋(CHOI Youngjin)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当しています。「韓国語」を履修した学生を対象とします。「韓国語」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習します。また、韓国の文化・社会などについても紹介し理解を深め、グローバルな思考力も養います。楽しく学んで韓国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|---------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1. 豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

1. 「韓国語」で学んだ内容を理解し、韓国の日常生活や文化を深める。
2. より複雑な表現と文法を理解することができる。
3. 学習した内容を実際に利用し、多様な場面でコミュニケーションすることができる。
4. 簡単な文の内容と書き手の意図を理解し、自分の意見を表現することができる。
5. 韓国語だけではなく、社会・文化・経済・政治・歴史などにも理解を深めることができる。
6. ハングル能力検定4級以上の合格を目標とする。

【成績の評価】

授業への取り組みや各活動(20%)、小テスト・課題・レポート(50%)、期末試験(30%)
小テスト。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評します。定期試験については、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】

「WE CAN 韓国語」(入門から初級へ) 金世徳・張京花 著 (博英社) ISBN 978-4-910132-15-0

【参考文献】

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------------------------|-------------------------------|----|
| 1 | オリエンテーションと韓国語 のまとめ | | |
| 2 | 過去形（でした、ました、でしたか、ましたか） | | |
| 3 | ～ （～する前に） | | |
| 4 | ～ （～ましょうか） | | |
| 5 | ～ （～したいです） | | |
| 6 | ～ 「勧誘や希望の言い方（ きましょう 。 したい）」 | | |
| 7 | ～ （～した後に） | | |
| 8 | ～ （～ただ、ひたすら、だけ、のみ） | | |
| 9 | ～するつもりです・～予定です「予定、意思」 | | |
| 10 | ～ （～しているところ） | | |
| 11 | ～しようとする。（予定や計画、～） | | |
| 12 | ～ ～ （～から～まで） | | |
| 13 | ～ 。（～することにする） | | |
| 14 | ～ / 。（状態の継続） | | |
| 15 | 状態の継続のまとめ（～ている） | | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： UCK102
授業形態： 演習
科目名： 韓国語 【B】
担当教員： 朴 英信

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当しています。「韓国語」を履修した学生を対象とします。「韓国語」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習します。また、韓国の文化・社会などについても紹介し理解を深め、グローバルな思考力も養います。楽しく学んで韓国語でのコミュニケーションを楽しみましょう。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|------|---------------------------|
| 201904～202404 | 大学 | 1. 豊かな人間性や主体的に生きる力 |
| | | 2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 |
| | | 3. 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|------|------------------------|-----|
| 201904～202404 | 大学 | 豊かな人間性や主体的に生きる力 | |
| | | 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 | |
| | | 学部が示す専門的知識や技能および実践的能力 | |

【到達目標】

1. 「韓国語」で学んだ内容を理解し、韓国の日常生活や文化を深める。
2. より複雑な表現と文法を理解することができる。
3. 学習した内容を実際に利用し、多様な場面でコミュニケーションすることができる。
4. 簡単な文の内容と書き手の意図を理解し、自分の意見を表現することができる。
5. 韓国語だけではなく、社会・文化・経済・政治・歴史などにも理解を深めることができる。
6. ハングル能力検定4級以上の合格を目標とする。

【成績の評価】

授業への取り組みや各活動（20%）、小テスト・課題・レポート（50%）、期末試験（30%）小テスト。レポートについては、その都度、結果を授業時に講評します。定期試験については、教務課窓口で模範解答を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】

「WE CAN 韓国語」（入門から初級へ） 金世徳・張京花 著（博英社） ISBN 978-4-910132-15-0

【参考文献】

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------------------------|-------------------------------|----|
| 1 | オリエンテーションと韓国語 のまとめ | | |
| 2 | 過去形（でした、ました、でしたか、ましたか） | | |
| 3 | ～ （～する前に） | | |
| 4 | ～ （～ましょうか） | | |
| 5 | ～ （～したいです） | | |
| 6 | ～ 「勧誘や希望の言い方（ きましょう 。 したい）」 | | |
| 7 | ～ （～した後に） | | |
| 8 | ～ （～ただ、ひたすら、だけ、のみ） | | |
| 9 | ～するつもりです・～予定です「予定、意思」 | | |
| 10 | ～ （～しているところ） | | |
| 11 | ～しようとする。（予定や計画、～） | | |
| 12 | ～ ～ （～から～まで） | | |
| 13 | ～ 。（～することにする） | | |
| 14 | ～ / 。（状態の継続） | | |
| 15 | 状態の継続のまとめ（～ている） | | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： KARA6
授業形態： 演習
科目名： 子どもと健康
担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

この授業では、乳幼児の発育発達原則を解説したうえで、運動発達、基本的な生活習慣の形成、安全な生活などの専門事項を修得します。保育の基本理念をふまえ、子どもにとっての健康の意義を探求することを何よりも大切にしたいと思います。

<Google Classroom クラスコード> gcex3d6

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 使命感・倫理観 | 3 |
| | | 向上心 | 3 |
| | | 専門的知識と実践力 | 4 |

【到達目標】

1. 健康の定義をふまえて、乳幼児期の健康の意義を理解することができる。
2. 乳幼児の体の発達的特徴を修得することができる。
3. 乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明することができる。
4. 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解することができる。

【成績の評価】

授業態度：50%

授業内に作成する小レポート：30%

最終レポート：20%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

原則として、対面授業で行います。また、単位認定には、授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

原田碩三 『幼児健康学』（黎明書房、1997年）

河邊貴子編 『演習 保育内容 健康』（建帛社、2008年）

井狩芳子 『演習 保育内容 健康 - 大人から子どもへつなぐ健康の視点 -』（萌文書林、2014年）

内閣府 文部科学省 厚生労働省 『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（チャイルド本社、2017年）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は実務経験のある教員の授業科目です。中学校・高等学校の保健体育科における学校現場指導の経験を生かし、子どもの身体や運動の発達について具体的な事例を提示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------------------|---|----|
| 1 | 保育の基本理念と領域「健康」 | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 2 | 領域「健康」の特徴 | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 3 | 子どもの健康（乳幼児期の健康とは） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 4 | 子どもの健康（乳幼児期の心の健康と体の健康について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 5 | 子どもの発達と健康（乳幼児の発達の考え方について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 6 | 子どもの発達と健康（乳幼児の身体の発達について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 7 | 子どもの発達と健康（乳幼児の運動の発達について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 8 | 子どもの発達と健康（乳幼児の精神機能の発達について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 9 | 子どもの基本的生活習慣の発達（乳幼児における基本的生活習慣とは） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 10 | 子どもの基本的生活習慣の発達（乳幼児における基本的生活習慣の各論） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|---|----|
| | | (30分)。 | |
| 11 | 子どもの基本的な生活習慣の発達（乳幼児の基本的な生活習慣形成の方法について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 12 | 子どもの安全教育と健康教育（乳幼児の安全能力と事故防止について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 13 | 子どもの安全教育と健康教育（園における安全管理の実際について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 14 | 子どもの安全教育と健康教育（幼稚園・保育所における健康教育の具体的な取り組み） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 15 | 総括（子どもの健康とは何か） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、この期を振り返り、「子どもと健康」についてレポートを作成し、提出してください（30分）。 | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： KOK011
授業形態： 演習
科目名： 子どもと人間関係
担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

本授業では、幼稚園や保育所等で直接に子どもの保育・教育に必要となる子どもたちの人間関係に関する諸理論およびその基礎となる社会性に関する諸理論を学ぶことを通じて、子どもと様々な人との関係性の質が子どもの発達にどのような影響を与えるのか検討します。また、保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における人間関係のねらいや内容についての考え方の根拠について学びます。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けることができる。
2. 乳幼児の人間関係に関する理論やその背景にある研究を検討・考察することで、乳幼児における人との関わりがどのような意味を持つかについて、理論と実践を結びつけながら理解することができる。

【成績の評価】

- ・ 定期試験（70%）、授業時に出される課題（30%）。
- ・ 定期試験及び課題については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）

【参考文献】

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
岩立京子・西坂小百合（2018）『保育内容 人間関係』（光生館）
無籬隆・古賀松香（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」』（北大路書房）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------------|---|----|
| 1 | オリエンテーション | 予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 2 | 現代社会と人と関わる力 | 予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 3 | 子どもの生活と人間関係 | 予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 4 | 幼児期の教育・保育と人間関係 | 予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 5 | 保育内容としての人間関係（1）幼稚園教育要領に基づいて | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 6 | 保育内容としての人間関係（2）幼稚園教育要領の変遷から | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 7 | 保育内容としての人間関係（3）保育所保育指針に基づいて | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 8 | 幼児教育における遊び | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 9 | 子どもの発達と遊び | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 10 | 遊びの実際（1）象徴遊び | 予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 11 | 遊びの実際（2）伝承遊び | 予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 12 | 遊びの実際（3）ルールのある遊び | 予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------------|---|----|
| | | (40分)。 | |
| 13 | 遊びの実際(4)ゲーム | 予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと(20分)。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること(40分)。 | |
| 14 | 遊びにみる人と関わる力の育ち | 予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと(20分)。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること(40分)。 | |
| 15 | まとめ(人と関わる力の育ちを支援する) | 予習として、授業の範囲に関わる情報を集め、必要に応じて用語等を書き出しておくこと(20分)。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること(40分)。 | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： KOK012
授業形態： 演習
科目名： 子どもと環境
担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業では、領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する基本的な知識や技能を身に付けていきます。特に、領域「環境」の基盤である子どもを取り巻く環境の諸側面から、幼児の活動と発達等との関連について学びます。具体的には、保育内容の環境についての理解をもとに、子どもの環境との関わりについて実際の活動を体験します。その後、幼児の発達に適した環境についてグループワークなどを通して考えを深めていきます。また、この授業を通して、日常生活においても身近な環境に意識を向け、継続的に学ぶ力を養うことをめざします。

この授業では Google Classroom (クラスコード : tre3tgp) を活用し、課題提出や連絡事項を伝えます。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|-----------------|-------|--|
| 201904 ~ 202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |
| | | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|-----------------|-------|-----------|-----|
| 201904 ~ 202404 | 発達科学部 | 向上心 | 4 |
| | | 専門的知識と実践力 | 6 |

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めることができる。
2. 子どもを取り巻く環境の意義を理解し、説明できる。
3. 子どもを取り巻く環境の諸側面から、乳幼児の活動と発達等を関連づけて考えることができる。
4. 領域「環境」に関連する基本的な知識や技術を身に付け、教育・保育の実践的な活動を自分なりに構想することができる。

【成績の評価】

授業時のワークシート（50%）、レポート（25%）、授業時に実施する確認テスト（25%）により、評価する。

ワークシート、レポート、小テストについては、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

- ・文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説 フレーベル館
- ・厚生労働省（2018）保育所保育指針解説 フレーベル館

【参考文献】

- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館
 - ・田宮縁（2018）体験する・調べる・考える 領域「環境」 萌文書林
 - ・小櫃智子（2021）実践例から学びを深める 環境指導法 わかば社
- その他、授業で適宜紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|----------------------------------|--|------|
| 1 | オリエンテーション・保育と「環境」 | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 2 | 領域「環境」とは | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 3 | 子どもの育ちと領域「環境」 | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 4 | 子どもを取り巻く自然環境（身近な自然） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 5 | 子どもを取り巻く自然環境（動植物や生き物） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 6 | 子どもを取り巻く自然環境（季節や生活の変化） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 7 | 子どもを取り巻く物的環境（物の性質と仕組み） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 8 | 子どもを取り巻く物的環境（数量・図形） 小テストとその解説 | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | 小テスト |
| 9 | 子どもを取り巻く物的環境（文字・標識） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめ | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|------------------------------|--|------|
| | | に関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 10 | 子どもを取り巻く社会的環境（文化・伝統） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 11 | 子どもを取り巻く社会的環境（生活に関する情報・地域施設） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 12 | 子どもを取り巻く社会的環境（多文化共生保育） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 13 | 子どもを取り巻く人的環境 | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 14 | 保育におけるESD（SDGs） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 15 | まとめ：要点の整理・質疑応答 小テストとその解説 | 【予習】今までの授業を振り返り、気付いたことや疑問点についてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | 小テスト |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： TISE2
授業形態： 演習
科目名： 子どもと言葉
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

言葉の獲得は乳幼児期の発達課題として重要なものである。子どもの言葉の育ちを支えるための必要な言語環境の重要性について学び、教育・保育の実践と関連づけて理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、言語発達に沿った保育・教育の在り方を模索することができる。
2. 言葉に関して理論的背景に裏打ちされた保育指導場面を構想することができる。

【成績の評価】

レポート(10%)、定期試験(80%)、授業への参加度(10%)
課題(試験やレポートなど)に対して、研究室で個人的にフィードバックする。

【使用テキスト】

徳安 敦、堀 科編『生活事例からはじめる－保育内容－言葉』（青鞥社 2016 1900円）

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|----------------------------------|--|----|
| 1 | 保育内容としての言葉の独自性と5領域 | 保育内容が5領域に制定された歴史的経緯について調べ、なぜ5領域に変遷したのか自分の考えをノートに整理しておくこと。（2時間） 保育内容の領域の中で言葉の独自性に関して自分の考えをノートに整理しておくこと。（2時間） | |
| 2 | 保育内容としての言葉のねらい（保育指針に照らして） | 保育指針を読み、ねらいについてノートに整理しておくこと。（2時間）保育内容の言葉のねらいの方向性（3項目）を考えノートに記述し提出すること。（2時間） | |
| 3 | 言語獲得以前の母子のコミュニケーション エントレインメント | 言語獲得以前の母子コミュニケーションを授乳場面に限定して調べ、ノートに整理しておくこと。（2時間）エントレインメント、パンギング、呼気についてまとめノートに記述しておくこと。（2時間） | |
| 4 | 言語獲得以前の母子のコミュニケーション マザーリース | 授乳場面における母子のコミュニケーションの特徴について教科書を読みノートに記述しておくこと。（2時間）授業で説明されるマザーリースを想起し自分で演じてみた感想をノートに記述しておくこと。（2時間） | |
| 5 | 言葉の先駆的行動（共同注意、ポインティング、三項関係） | 共同注意、共同注視、三項関係を事前に読んで確認しそれぞれの特徴についてまとめておくこと。（2時間）三項関係が言葉の成立に果たす役割をノートに記述しておくこと。（2時間） | |
| 6 | 言葉と環境 人的環境 | 親子関係、同年齢集団の中で育つ言葉の特徴について整理しノートに記述しておくこと。（2時間）言葉の社会化についてまとめておくこと。（2時間） | |
| 7 | 言葉と環境 子どもの生活と言葉 | 保育所実習で経験した子ども達言葉の特徴について想起しまとめておくこと。（2時間） 授業中に強調された四つの育つための力についてまとめノートに記述しておくこと。（2時間） | |
| 8 | 言葉と環境 言葉と発達の連関 | 歩行開始期における言語、トイレ訓練、離乳の特徴について時系列的に整理したものを文章化すること。（2時間）授業中に例示する領域が別の領域の発達に影響する事例を考え文章化して提出すること。（2時間） | |
| 9 | 言葉と幼児理解 | 自分が今まで体験してきた保育実習や観察・参加における子ども理解の方法について整理し文章化して提出すること。（2時間） | |
| 10 | 言葉と思考 ヴィゴツキーの理論 | ヴィゴツキーの理論について調べ「思考は言葉によって行われる」について自分の考えをノートにまとめておくこと。（2時間）内言語、外言語の関係、それらと発達の意義についてノートにまとめておくこと。（2時間） | |
| 11 | 言葉と思考 言語調整機能 | 日常場面において言葉によって集中が高まる事例を想起し、文章としてノートにまとめておくこと。（2時間）ルリアの理論の代表的実験例についてまとめノートに記述しておくこと。（2時間） | |
| 12 | 保育者の役割と援助 | 保育内容としての「言葉」の領域において保育者の役割を自分なりに考えノートに列挙し | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------|---|----|
| | | ておくこと。（2時間）言葉数の少ない子どもに対してどのような援助が考えられるか授業中に提案された内容を参考にしてまとめノートに記述しておくこと。（2時間） | |
| 13 | 障がい児とのかかわり 学習困難 | 学習困難についてしかるべき方法で調べ、その概要をノートにまとめておくこと。（2時間） 書字困難児に自分ができる援助についてノートにまとめておくこと。（2時間） | |
| 14 | 障がい児とのかかわり 自閉症 | 自閉症について文献などで調べ、その特徴についてノートに文章化しておくこと。（2時間） 授業中に提案されるかかわり方をヒントにして自分で可能と思われる対応を文章にまとめること。（2時間） | |
| 15 | 障がい児とのかかわり ADHD | ADHDの症状の特徴を事前に調べ、主なものについてまとめノートに記述しておくこと。（2時間） ADHD児への教育的配慮を授業中に提供される内容をヒントにまとめること。（2時間） | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現 【発A】
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】

定期試験の演奏（80%）、毎週の授業課題への取り組み（20%）
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|---|---|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。 | シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日30分以上）を行う。 | |
| 2 | 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 3 | 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 4 | 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 5 | 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 6 | 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 7 | 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 8 | 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | | | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容(時間) / 復習内容(時間) | 備考 |
|----|---|---|--------------------------|
| 9 | 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 10 | 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 11 | 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 12 | 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 13 | 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 14 | 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 15 | 呼吸法・発声練習 全母音・子音(バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： ONGA6

授業形態： 演習

科目名： 音楽表現 【発A】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】

定期試験の演奏（80%）、毎週の授業課題への取り組み（20%）
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|---|---|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。 | シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日30分以上）を行う。 | |
| 2 | 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 3 | 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 4 | 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 5 | 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 6 | 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 7 | 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 8 | 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | | | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容(時間)/復習内容(時間) | 備考 |
|----|---|---|--------------------------|
| 9 | 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 10 | 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 11 | 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 12 | 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 13 | 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 14 | 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 15 | 呼吸法・発声練習 全母音・子音(バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現 【発A】
担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探求し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】

定期試験の演奏（80%）、毎週の授業課題への取り組み（20%）
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|---|---|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。 | シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日30分以上）を行う。 | |
| 2 | 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 3 | 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 4 | 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 5 | 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 6 | 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 7 | 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 8 | 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | | | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容(時間) / 復習内容(時間) | 備考 |
|----|---|---|--------------------------|
| 9 | 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 10 | 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 11 | 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 12 | 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 13 | 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 14 | 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 15 | 呼吸法・発声練習 全母音・子音(バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現 【発A】
担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】

定期試験の演奏（80％）、毎週の授業課題への取り組み（20％）
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|---|---|-------------------------|
| 1 | オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。 | シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日30分以上）を行う。 | |
| 2 | 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| 3 | 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| 4 | 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| 5 | 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| 6 | 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| 7 | 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| 8 | 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| | | | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容(時間) / 復習内容(時間) | 備考 |
|----|---|---|-------------------------|
| 9 | 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| 10 | 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| 11 | 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| 12 | 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| 13 | 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| 14 | 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| 15 | 呼吸法・発声練習 全母音・子音(バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現 【発B】
担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】

定期試験の演奏（80%）、毎週の授業課題への取り組み（20%）
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|---|---|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。 | シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日30分以上）を行う。 | |
| 2 | 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 3 | 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 4 | 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 5 | 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 6 | 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 7 | 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 8 | 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | | | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容(時間) / 復習内容(時間) | 備考 |
|----|---|---|--------------------------|
| 9 | 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 10 | 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 11 | 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 12 | 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 13 | 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 14 | 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 15 | 呼吸法・発声練習 全母音・子音(バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： ONGA6

授業形態： 演習

科目名： 音楽表現 【発B】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探求し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】

定期試験の演奏（80%）、毎週の授業課題への取り組み（20%）
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|---|---|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。 | シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日30分以上）を行う。 | |
| 2 | 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 3 | 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 4 | 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 5 | 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 6 | 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 7 | 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 8 | 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | | | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容(時間)/復習内容(時間) | 備考 |
|----|---|---|--------------------------|
| 9 | 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 10 | 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 11 | 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 12 | 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 13 | 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 14 | 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 15 | 呼吸法・発声練習 全母音・子音(バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現 【発B】
担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】

定期試験の演奏（80%）、毎週の授業課題への取り組み（20%）
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|---|---|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。 | シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題（毎日30分以上）を行う。 | |
| 2 | 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 3 | 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 4 | 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 5 | 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 6 | 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 7 | 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 8 | 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | | | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容(時間) / 復習内容(時間) | 備考 |
|----|---|---|--------------------------|
| 9 | 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 10 | 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 11 | 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 12 | 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 13 | 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 14 | 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 15 | 呼吸法・発声練習 全母音・子音(バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： ONGA6
授業形態： 演習
科目名： 音楽表現 【発B】
担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業です。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行い、個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる高い使命感・倫理感や豊かな心を持って表現活動に取り組むことができる。

【成績の評価】

定期試験の演奏（80%）、毎週の授業課題への取り組み（20%）
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集（平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版）

【参考文献】

童謡は心のふるさと（平成13年 川田正子著、東京新聞出版局）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容(時間) / 復習内容(時間) | 備考 |
|---|---|---|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション：幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現について関心を持つようにする。クラス分けを行い、譜読みの基礎を説明する。 | シラバスを読み、授業内容を把握しておくこと。復習として教員から個々に課された練習課題(毎日30分以上)を行う。 | |
| 2 | 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 3 | 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 4 | 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 5 | 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 6 | 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 7 | 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 8 | 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | | | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容(時間)/復習内容(時間) | 備考 |
|----|---|---|--------------------------|
| 9 | 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 10 | 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 11 | 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 12 | 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 13 | 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 14 | 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| 15 | 呼吸法・発声練習 全母音・子音(バスごっこ、虹)歌唱と弾き歌い | 次に学習する弾き歌い曲の模範演奏を見つけて聴きこんでおくこと。毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習では録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜に慣れ、読譜力を付けるように努力すること。 | 曲目は受講者の進度に合わせ、変更することがある。 |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： TISE23
授業形態： 演習
科目名： 造形表現 【発A】
担当教員： 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】

造形表現は、「もの」との関わりによって感性・表現力・創造力を豊かにします。そして、集団の場での造形表現体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、造形表現の基礎的知識や技能を修得することで、情操豊かな人として子育て支援社会に貢献します。
また、保育士資格取得、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等は、Google Classroomを通じて行います。クラスコードは、fnp73nkです。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 造形表現に関する基礎的な知識や各種の技法を身に付けることができる。
2. 造形素材を用いることによって、造形表現の幅を広げることができる。
3. ものの色や形、感触やイメージ等に親しむことによって思考力を育むことができる。
4. 子どもの遊びや経験を造形表現に結びつけることができる。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80%）、授業態度・意欲・準備物（20%）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

授業時にプリントを配布します。

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』（渡辺一洋著、ななみ書房、2015年）
- 『保育をひらく造形表現』（榎英子著、萌文書林、2008年）
- 『幼稚園教育要領』（平成30年 文部科学省）
- 『保育所保育指針』（平成30年 厚生労働省）
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』（平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|--|----|
| 1 | 授業の内容と進め方の説明、 絵の具等の材料・用具についての説明 Google classroomへの参加 | 予習として、本授業のシラバス内容について確認しておくこと。（30分） 復習として、モダンテクニックと呼ばれる技法はどのようなものがあるか調べておくこと。（30分） | |
| 2 | 抽象表現 クレヨンを使った平面構成 | 予習として、抽象・具象とは何かをインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、抽象と具象の違いについて説明できるようにしておくこと。（30分） | |
| 3 | 技法のいろいろ 「デカルコマニー」「マーブリング」「プロウイング」 | 予習として、モダンテクニックの「デカルコマニー」「マーブリング」「プロウイング」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や特徴について記述しておくこと。（30分） | |
| 4 | 技法のいろいろ 「スパッターリング」「フロッターージュ」「スクラッチ」 | 予習として、モダンテクニックの「スパッターリング」「フロッターージュ」「スクラッチ」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や特徴について記述しておくこと。（30分） | |
| 5 | 技法のいろいろ 「コラージュ」仕上げ作業 | 予習として、モダンテクニックの「コラージュ」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や特徴について記述しておくこと。（30分） | |
| 6 | 染紙 和紙・インクを使った染紙 | 予習として、染紙についてインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や特徴について記述しておくこと。（30分） | |
| 7 | ドリームキャッチャー 土台製作 | 予習として、ドリームキャッチャーとは何かをインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、ドリームキャッチャーの土台の修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分） | |
| 8 | ドリームキャッチャー たこ糸の編み込み作業 | 予習として、ドリームキャッチャーの意図の編み込み方をインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、糸の編み込みで修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分） | |
| 9 | ドリームキャッチャー 仕上げ装飾 | 予習として、どのような装飾仕上げにするか考えて材料を用意すること。（30分） 復習として、ドリームキャッチャーの作業工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分）（30分） | |
| 10 | 紙粘土工作 テーマ「食品」紙粘土を使った成型 | 予習として、紙粘土で作るテーマ「食品」の何を作るかを決めて、その資料を用意すること。（30分） 復習として、紙粘土で成形した作品の修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分） | |
| 11 | 紙版画 下絵製作 | 予習として、紙版画のモチーフを何にするか | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------|--|----|
| | | を考え資料を用意しておくこと。また、1枚の画面としてどのような構成にするかアイデア展開しておくこと。（1時間） 復習内容：なし | |
| 12 | 紙版画 版の製作 | 予習として、版となるモチーフのデザインを再度確認し、バック画面とのバランスを考えておくこと。（1時間） 復習内容：なし | |
| 13 | 紙版画 刷り・仕上げ作業 | 予習として、メインとなる版の部分とバックの画面構成を再度確認し修正しておくこと。（30分） 復習として、紙版画の製作工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分） | |
| 14 | 紙粘土工作 彩色 | 予習として、紙粘土の着彩計画を立て、アクリル絵の具を準備しておくこと。（30分） 復習として、塗り残しがないか、テカリが必要な部分がないかを確認し、修正しておくこと。（30分） | |
| 15 | 紙粘土工作 仕上げ | 予習として、見本画像と見比べて彩色仕上げのより細かな個所を確認し修正すること。アクリル絵の具を準備しておくこと。（30分） 復習として、紙粘土工作の作業工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分） | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： TISE23
授業形態： 演習
科目名： 造形表現 【発B】
担当教員： 辻野 栄一(TSUJINO Eiichi)

【授業の紹介】

造形表現は、「もの」との関わりによって感性・表現力・創造力を豊かにします。そして、集団の場での造形表現体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、造形表現の基礎的知識や技能を修得することで、情操豊かな人として子育て支援社会に貢献します。
また、保育士資格取得、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目でもあります。なお、学生への連絡等は、Google Classroomを通じて行います。クラスコードは、fnp73nkです。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 造形表現に関する基礎的な知識や各種の技法を身に付けることができる。
2. 造形素材を用いることによって、造形表現の幅を広げることができる。
3. ものの色や形、感触やイメージ等に親しむことによって思考力を育むことができる。
4. 子どもの遊びや経験を造形表現に結びつけることができる。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80%）、授業態度・意欲・準備物（20%）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

授業時にプリントを配布します。

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』（渡辺一洋著、ななみ書房、2015年）
- 『保育をひらく造形表現』（槇英子著、萌文書林、2008年）
- 『幼稚園教育要領』（平成30年 文部科学省）
- 『保育所保育指針』（平成30年 厚生労働省）
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』（平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|--|----|
| 1 | 授業の内容と進め方の説明、 絵の具等の材料・用具についての説明 Google classroomへの参加 | 予習として、本授業のシラバス内容について確認しておくこと。（30分） 復習として、モダンテクニックと呼ばれる技法はどのようなものがあるか調べておくこと。（30分） | |
| 2 | 抽象表現 クレヨンを使った平面構成 | 予習として、抽象・具象とは何かをインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、抽象と具象の違いについて説明できるようにしておくこと。（30分） | |
| 3 | 技法のいろいろ 「デカルコマニー」「マーブリング」「プロウイング」 | 予習として、モダンテクニックの「デカルコマニー」「マーブリング」「プロウイング」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や特徴について記述しておくこと。（30分） | |
| 4 | 技法のいろいろ 「スパッターリング」「フロッターージュ」「スクラッチ」 | 予習として、モダンテクニックの「スパッターリング」「フロッターージュ」「スクラッチ」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、それぞれの技法や特徴について記述しておくこと。（30分） | |
| 5 | 技法のいろいろ 「コラージュ」仕上げ作業 | 予習として、モダンテクニックの「コラージュ」とはどのようなものをインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、その技法や特徴について記述しておくこと。（30分） | |
| 6 | 染紙 和紙・インクを使った染紙 | 予習として、染紙についてインターネット等で検索してどのような技法かを確認しておくこと。（30分） 復習として、その技法や特徴について記述しておくこと。（30分） | |
| 7 | ドリームキャッチャー 土台製作 | 予習として、ドリームキャッチャーとは何かをインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、ドリームキャッチャーの土台の修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分） | |
| 8 | ドリームキャッチャー たこ糸の編み込み作業 | 予習として、ドリームキャッチャーの意図の編み込み方をインターネット等で検索して確認しておくこと。（30分） 復習として、糸の編み込みで修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分） | |
| 9 | ドリームキャッチャー 仕上げ装飾 | 予習として、どのような装飾仕上げにするか考えて材料を用意すること。（30分） 復習として、ドリームキャッチャーの作業工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分）（30分） | |
| 10 | 紙粘土工作 テーマ「食品」紙粘土を使った成型 | 予習として、紙粘土で作るテーマ「食品」の何を作るかを決めて、その資料を用意すること。（30分） 復習として、紙粘土で成形した作品の修正箇所がないか確認し、修正しておくこと。（30分） | |
| 11 | 紙版画 下絵製作 | 予習として、紙版画のモチーフを何にするか | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------|--|----|
| | | を考え資料を用意しておくこと。また、1枚の画面としてどのような構成にするかアイデア展開しておくこと。（1時間） 復習内容：なし | |
| 12 | 紙版画 版の製作 | 予習として、版となるモチーフのデザインを再度確認し、バック画面とのバランスを考えておくこと。（1時間） 復習内容：なし | |
| 13 | 紙版画 刷り・仕上げ作業 | 予習として、メインとなる版の部分とバックの画面構成を再度確認し修正しておくこと。（30分） 復習として、紙版画の製作工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分） | |
| 14 | 紙粘土工作 彩色 | 予習として、紙粘土の着彩計画を立て、アクリル絵の具を準備しておくこと。（30分） 復習として、塗り残しがないか、テカリが必要な部分がないかを確認し、修正しておくこと。（30分） | |
| 15 | 紙粘土工作 仕上げ | 予習として、見本画像と見比べて彩色仕上げのより細かな個所を確認し修正すること。アクリル絵の具を準備しておくこと。（30分） 復習として、紙粘土工作の作業工程、注意すべき点等を記述しておくこと。（30分） | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： TISE24
授業形態： 演習
科目名： 造形表現 【発A】
担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

本授業では、造形表現に関する基本的な描法や造形と材料や各種の道具の使い方などによって、創造活動の大切さを味わい、子どもの造形力を育てるための基礎的な知識と技能を修得します。また、子どもの成長や発達段階に応じた教材や用具、場所などを提供できる力を身につけ、子どもならではの表現を理解し支援する力を養います。

本授業科目は、発達科学部子ども発達学科の選択科目であり、また幼稚園教諭一種免許状取得するための必修科目です。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. さまざまな素材、用具、教材等の特性を理解し活用することができる。
2. 造形表現の基礎的な知識と技能を身につけ、発展させる造形力を身につけることができる。
3. 子どもたちの成長や実態に応じて、題材設定やねらいを明確にもちながら場や材料を提供するなど、創造活動の動機付けを図ることができる。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育所保育指針』(平成29年3月告示 厚生労働省)
- 『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示 文部科学省)
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省)

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------------------------|---|----|
| 1 | 造形表現について、ペーパーカッティングの基本的な制作について | 予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 2 | ペーパーカッティング(1)試作、スケッチ | 予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 3 | ペーパーカッティング(2)レイアウト、配色 | 予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 4 | ペーパーカッティング(3)配色、仕上げ | 予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 5 | 『生活』を描く(1)レイアウト、スケッチ | 予習として、『保育の場面』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 6 | 『生活』を描く(2)スケッチ、着色 | 予習として、『保育の場面』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 7 | 『生活』を描く(3)着色、仕上げ | 予習として、『保育の場面』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 8 | 紙による立体表現(1)アイデアスケッチ、レイアウト | 予習として、『紙による立体表現』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 9 | 紙による立体表現(2)下絵、カッティング | 予習として、『紙による立体表現』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 10 | 紙による立体表現(3)カッティング、仕上げ | 予習として、『紙による立体表現』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 11 | 壁面の装飾(1)アイデアスケッチ | 予習として、『壁面の構成』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 12 | 壁面の装飾(2)レイアウト、配色 | 予習として、『壁面の構成』についての資料収集をしておくこと(30分) | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------------|---|----|
| | | 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 13 | 壁面の装飾(3)配色 | 予習として、『壁面の構成』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 14 | 壁面の装飾(4)配色、仕上げ | 予習として、『壁面の構成』についての資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 15 | 講評、これまでの制作についてのまとめ | 予習として、これまで収集した課題の資料を整理して、今後の造形表現活動や教育現場などの参考資料とする(30分) 復習として、これまでの課題作品についての反省点をまとめておくこと(30分) | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： TISE24
授業形態： 演習
科目名： 造形表現 【発B】
担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

本授業科目では、造形表現に関する基本的な描法や造形と材料や各種の道具の使い方などによって、創造活動の大切さを味わい、子どもの造形力を育てるための基礎的な知識と技能を修得します。また、子どもの成長や発達段階に応じた教材や用具、場所などを提供できる力を身につけ、子どもならではの表現を理解し支援する力を養います。

本授業科目は、発達科学部子ども発達学科の選択科目であり、また幼稚園教諭一種免許状取得するための必修科目です。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

- 1.さまざまな素材、用具、教材等の特性を理解し活用することができる。
- 2.造形表現の基礎的な知識と技能を身につけ、発展させる造形力を身につけることができる。
- 3.子どもたちの成長や実態に応じて、題材設定やねらいを明確にもちながら場や材料を提供するなど、創造活動の動機付けを図ることができる。

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容（80%）、授業態度・意欲・準備物（20%）
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』（渡辺一洋著、ななみ書房、2015年）
- 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省）
- 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省）
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------------------------|---|----|
| 1 | 造形表現について、ペーパーカッティングの基本的な制作について | 予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 2 | ペーパーカッティング(1)試作、スケッチ | 予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 3 | ペーパーカッティング(2)レイアウト、配色 | 予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 4 | ペーパーカッティング(3)配色、仕上げ | 予習として、『ペーパーカッティング』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 5 | 『生活』を描く(1)レイアウト、スケッチ | 予習として、『保育の場面』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 6 | 『生活』を描く(2)スケッチ、着色 | 予習として、『保育の場面』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 7 | 『生活』を描く(3)着色、仕上げ | 予習として、『保育の場面』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 8 | 紙による立体表現(1)アイデアスケッチ、レイアウト | 予習として、『紙による立体表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 9 | 紙による立体表現(2)下絵、カッティング | 予習として、『紙による立体表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 10 | 紙による立体表現(3)カッティング、仕上げ | 予習として、『紙による立体表現』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 11 | 壁面の装飾(1)アイデアスケッチ | 予習として、『壁面の構成』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイデアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 12 | 壁面の装飾(2)レイアウト、配色 | 予習として、『壁面の構成』について資料収集をしておくこと(30分) | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------------|---|----|
| | | 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 13 | 壁面の装飾(3)配色 | 予習として、『壁面の構成』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 14 | 壁面の装飾(4)配色、仕上げ | 予習として、『壁面の構成』について資料収集をしておくこと(30分) 復習として、アイディアスケッチをして、指定した時に提出できるようにしておくこと(30分) | |
| 15 | 講評、これまでの制作についてのまとめ | 予習として、これまで収集した課題の資料を整理して、今後の造形表現活動や教育現場などの参考資料とする(30分) 復習として、これまでの課題についての反省点をまとめておくこと(30分) | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： TISE13
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 表現 【発A】
担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この科目は、図画工作科で児童の造形表現力を育てるために必要な指導力を身に付けるための科目です。そのため、学校現場で指導することができるよう、小学校低学年から中学年の図画工作科で取り扱われている実施頻度の高い造形遊びを中心とした教材を体験します。同時に、そのことで、造形活動に必要な基礎的な知識や技能を身に付けるとともに、造形的なセンスを高めることができるよう、造形性の高い作品づくりを行います。

また、現在、教室など校内に掲示されている多くの子どもたちの作品を画像で知るとともに、子どもたちのつまずきへの対応など、現場の実態に応じた具体的な指導方法を学ぶことで、授業者としての指導力を身に付けることができると考えています。

なお、この科目は、小学校教諭一級免許状取得のための必修科目です。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

- ・ 保育の現場で実践されている様々な技法遊び（絵の具遊び）を習得するとともに、偶然できる形や色の面白さや美しさに気付くとともに、造形表現の楽しみながら、その良さや可能性を感じ取ることができる。
- ・ 自他の作品の良さや美しさを感じ取ることができる。

【成績の評価】

課題作品（技能、創意工夫）50%、授業態度（制作態度、準備物、発表など）50%
課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する。
20分以上の遅刻は欠席とする。また欠席3回で欠席1回とする。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 「幼児造形の基礎」（樋口一成 編著、萌文書林、2022年）
- 「保育者をめざす 楽しい造形表現」（齋藤正人 監修・編著、圭文社、2018年）
- 「保育所保育指針 解説」（厚生労働省 平成30年2月）
- 「幼稚園教育要領 解説」（文部科学省 平成30年2月）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

本授業を担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、香川県教育委員会の図画工作科担当指導主事として、長きに渡って現場の先生方に図画教育科の指導を行ってきました。

また、香川県教育委員会から幼児の造形活動の指導員として委嘱され、4年間、県内の幼稚園や保育所等で、2歳児から5歳児までの子どもたちと造形活動を行ってきました。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|---|----|
| 1 | <p>オリエンテーション、幼児の作品鑑賞 授業計画や活動内容、評価の観点について知り、授業に臨む心構えを自覚する。 保育園・幼稚園等での技法遊びを中心とした子どもたちの造形活動（造形遊び）の様子を見たり、作品を鑑賞したりして、幼児の造形表現の意義や目的について考える。</p> | <p>授業で配布された「鑑賞シート」「アンケート」を仕上げておくこと（1時間） 予習として、「ビー玉転がし」の技法や作品について、ネットで調べ、材料を持参する（1時間）</p> | |
| 2 | <p>【共通課題】 技法遊び「ビー玉転がし」 箱やトレイの中に画用紙を入れ、絵の具を付けたビー玉を転がすと、転がり跡が画用紙に模様となって残る。ビー玉を転がし模様ができていく過程を楽しむ。</p> | <p>授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（1時間以上）</p> | |
| 3 | <p>技法遊び -1「バブルアート」制作 シャボン液に絵の具で色を付けて、画用紙にシャボン液の泡を落とし込み、シャボン玉が割れると、丸く弾けた形で色がつく。色の着いた泡がどんどんと盛り重なっていくことを楽しむことができる。</p> | <p>予習として、「バブルアート」の技法や作品についてネットで調べ、材料を持参する（1時間）</p> | |
| 4 | <p>技法遊び -2「バブルアート」 トリミング・額装</p> | <p>授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（1時間以上）</p> | |
| 5 | <p>技法遊び -1「ローラーペインティング、スタンプング」制作 マスキングやスパッタリングの技法も併用しながら、様々なローラーで模様を描いたり、身の回りにある様々な素材を使ってスタンプをしたりして、自由に模様をつくる。ローラーを転がした跡や、スタンプングで生まれる形の面白さや美しさに気付く。</p> | <p>予習として、「ローラーペインティング、スタンプング」の技法や作品について、ネットで調べ、「スタンプング」の材料を持参する（1時間）</p> | |
| 6 | <p>技法遊び -2「ローラーペインティング、スタンプング」制作・仕上げ</p> | <p>授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って作業を進めておく。（1時間以上）</p> | |
| 7 | <p>技法遊び -3「ローラーペインティング、スタンプング」 トリミング・額装</p> | <p>授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（1時間以上）</p> | |
| 8 | <p>技法遊び の台紙への貼付や額装をする。</p> | <p>授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（1時間以上）</p> | |
| 9 | <p>【選択課題】 3つの選択課題（技法）の試作をする。 「デカルコマニー」 吸水性の低い紙に絵の具を置き、紙を押し当てて転写する技法。絵の具の濃さや剥がし方によって様々な効果を楽しむことができる。 「スパッタリング」 画用紙の上に型紙を置き、金網にのせた絵の具をブラシで擦り、その網目から絵の具の粒子を飛び散らせ、そこから現れる模様を楽しむ。 「ドリッピング」 絵の具を垂らしたり、振りかけたりしてできた偶然の形や色の面白さや美しさに気付く。</p> | <p>予習として、「デカルコマニー、スパッタリング、ドリッピング」の技法や作品について、ネットで調べ、必要な材料を持参する（1時間）</p> | |
| 10 | <p>技法遊び -1 制作</p> | <p>授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って作業を進めておく。（1時間以上）</p> | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|---|----|
| 11 | 技法遊び -2 制作・仕上げ | 授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って完成させておく。（1時間以上） | |
| 12 | 技法遊び -3 トリミング・額装 | 授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（1時間以上） | |
| 13 | 技法遊び -1 制作 次の3つの技法から1つを選んで制作をする。 °「フロッタージュ」 凹凸がある物に紙をあて、その上からクレパスなどで擦り、紙に模様を写し取ることを楽しむ。 「にじみ絵」 湿らせた紙に色を置いていたり、水性ペンで描いた部分に水を垂らしたりするなどして、色がにじみ合う美しさを楽しむ。技法遊び 「スクラッチ」 ボール紙に明るい色のクレパスを塗り重ね、最後にアクリル絵の具の黒を塗り、先の尖った物で表面を削り取って絵や模様を描く。 | 予習として、「フロッタージュ、にじみ絵、スクラッチ」の技法や作品について、ネットで調べ、必要な材料を持参する（1時間） | |
| 14 | 技法遊び -2 構成・額装 | 授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（1時間以上） | |
| 15 | 作品の自己評価、相互評価 自他の作品を並べて、作品鑑賞会を開催する。 | 授業で配布された「作品鑑賞会 評価シート」を仕上げしておくこと（1時間） | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： TISE13
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 表現 【発B】
担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この科目は、保育内容5領域の表現領域に係り、子どもたちの造形表現力を育てるために必要な指導力を身に付けるための科目です。

そのため、子どもたちが夢中になって取り組むことができる造形活動（造形遊び）を自ら体験するとともに、子どもたちの造形教材を基に、造形的センスを身に付けるため、より造形性の高い作品づくりを行います。

また、保育や教育の現場で、どのような造形活動（造形遊び）が行われているかを画像等で知るとともに、子どもたちのつまずきへの対応など、現場の実態に応じた具体的な指導方法を学ぶことで、保育者としての指導力を身に付けることができます。

なお、この科目は、保育士資格、幼稚園教諭一級免許状取得のための必修科目です。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

- ・ 保育の現場で実践されている様々な技法遊び（絵の具遊び）を習得するとともに、偶然できる形や色の面白さや美しさに気付くとともに、造形表現の楽しみながら、その良さや可能性を感じ取ることができる。
- ・ 自他の作品の良さや美しさを感じ取ることができる。

【成績の評価】

課題作品（技能、創意工夫）50%、授業態度（制作態度、準備物、発表など）50%

課題についてはその都度評価し、評価基準を説明する。

20分以上の遅刻は欠席とする。また欠席3回で欠席1回とする。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 「幼児造形の基礎」（樋口一成 編著、萌文書林、2022年）
- 「保育者をめざす 楽しい造形表現」（齋藤正人 監修・編著、圭文社、2018年）
- 「保育所保育指針 解説」（厚生労働省 平成30年2月）
- 「幼稚園教育要領 解説」（文部科学省 平成30年2月）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

本授業を担当する教員は、小学校で8年間の実務経験（図画工作科の専科教員）を有するとともに、香川県教育委員会の図画工作科担当指導主事として、長きに渡って現場の先生方に図画教育科の指導を行ってきました。

また、香川県教育委員会から幼児の造形活動の指導員として委嘱され、4年間、県内の幼稚園や保育所等で、2歳児から5歳児までの子どもたちと造形活動を行ってきました。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|---|----|
| 1 | オリエンテーション、幼児の作品鑑賞 授業計画や活動内容、評価の観点について知り、授業に臨む心構えを自覚する。 保育園・幼稚園等での技法遊びを中心とした子どもたちの造形活動（造形遊び）の様子を見たり、作品を鑑賞したりして、幼児の造形表現の意義や目的について考える。 | 授業で配布された「鑑賞シート」「アンケート」を仕上げておくこと（1時間） | |
| 2 | 【共通課題】 技法遊び 「ビー玉転がし」 箱やトレイの中に画用紙を入れ、絵の具を付けたビー玉を転がすと、転がり跡が画用紙に模様となって残る。ビー玉を転がし模様ができていく過程を楽しむ。 | 予習として、「ビー玉転がし」の技法や作品について、ネットで調べ、材料を持参する（1時間） 授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（1時間以上） | |
| 3 | 技法遊び -1「バブルアート」 制作 シャボン液に絵の具で色を付けて、画用紙にシャボン液の泡を落とし込み、シャボン玉が割れると、丸く弾けた形で色がつく。色の着いた泡がどンドンと盛り重なっていくことを楽しむことができる。 | 予習として、「バブルアート」の技法や作品についてネットで調べ、材料を持参する（1時間） | |
| 4 | 技法遊び -2「バブルアート」 トリミング・額装 | 授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（1時間以上） | |
| 5 | 技法遊び -1「ローラーペインティング、スタンピング」 制作 マスキングやスパッタリングの技法も併用しながら、様々なローラーで模様を描いたり、身の回りにある様々な素材を使ってスタンプをしたりして、自由に模様をつくる。ローラーを転がした跡や、スタンピングで生まれる形の面白さや美しさに気付く。 | 予習として、「ローラーペインティング、スタンピング」の技法や作品について、ネットで調べ、「スタンピング」の材料を持参する（1時間） | |
| 6 | 技法遊び -2「ローラーペインティング、スタンピング」制作・仕上げ | 授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って作業を進めておく。（1時間以上） | |
| 7 | 技法遊び -3「ローラーペインティング、スタンピング」 トリミング・額装 | 授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（1時間以上） | |
| 8 | 技法遊び の台紙への貼付や額装をする。 | 授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。（1時間以上） | |
| 9 | 【選択課題】 3つの選択課題（技法）の試作をする。 「デカルコマニー」 吸水性の低い紙に絵の具を置き、紙を押し当てて転写する技法。絵の具の濃さや剥がし方によって様々な効果を楽しむことができる。 「スパッタリング」 画用紙の上に型紙を置き、金網にのせた絵の具をブラシで擦り、その網目から絵の具の粒子を飛び散らせ、そこから現れる模様を楽しむ。 「ドリッピング」 絵の具を垂らしたり、振りかけたりしてできた偶然の形や色の面白さや美しさに気付く。 | 予習として、「デカルコマニー、スパッタリング、ドリッピング」の技法や作品について、ネットで調べ、必要な材料を持参する（1時間） | |
| 10 | 技法遊び -1 制作 | 授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って作業をすすめておく。（1時 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|---|----|
| | | 間以上) | |
| 11 | 技法遊び -2 制作・仕上げ | 授業時間内に完成しないと見込まれる場合は、持ち帰って完成させておく。(1時間以上) | |
| 12 | 技法遊び -3 トリミング・額装 | 授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。(1時間以上) | |
| 13 | <p>技法遊び -1 制作 次の3つの技法から1つを選んで制作をする。</p> <p>「フロッタージュ」 凹凸がある物に紙をあて、その上からクレパスなどで擦り、紙に模様を写し取ることを楽しむ。</p> <p>「にじみ絵」 湿らせた紙に色を置いていたり、水性ペンで描いた部分に水を垂らしたりするなどして、色がにじみ合う美しさを楽しむ。</p> <p>技法遊び 「スクラッチ」 ボール紙に明るい色のクレパスを塗り重ね、最後にアクリル絵の具の黒を塗り、先の尖った物で表面を削り取って絵や模様を描く。</p> | 予習として、「フロッタージュ、にじみ絵、スクラッチ」の技法や作品について、ネットで調べ、必要な材料を持参する(1時間) | |
| 14 | 技法遊び -2 構成・額装 | 授業時間内に完成しない場合は、持ち帰って完成させておく。(1時間以上) 授 | |
| 15 | 作品の自己評価、相互評価 自他の作品を並べて、作品鑑賞会を開催する。 | 授業で配布された「作品鑑賞会 評価シート」を仕上げしておくこと(1時間) | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： ONGA12
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 表現 【発A】
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の一環として音楽的表現活動を指導するために必要な専門的知識、技能および実践力を修得する。幼稚園教育要領の示す領域「表現」のうち音楽に関わる内容を理解し、種々の音楽的表現と指導法を学ぶ。グループワークによる課題を通して各々の自由な発想を呼び起こし、豊かに創造する力と園児に伝える力を育成する。またほぼ毎回行う発表や模擬授業を通して保育者としての実践力を高めると同時に、観察および評価の力を養う。保育現場において専門性を持つ人材と協働し子どもとの音楽活動に十分に対応できる幅広い音楽知識を修得する。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|---|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |
| | | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |
| | | 4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 領域「表現」のねらいと内容を理解できる。
2. 保育者に問われる基礎的な音楽能力と身体表現力（楽しんで発表できる力）を身に付ける。
3. 子どもの発達に合わせた保育内容の計画と実践、および適切な評価ができる。
4. レパートリーの習得（15曲）に加え、自由な発想による振付が短時間でできる。
5. 子どもに寄り添う音楽を理解し、堅実な実践力により彼らの豊かな音楽経験をサポートできる。
6. 音楽に関わる指導場面を具体的に想定し保育を構想することができる。

【成績の評価】

レポート、ワークシート等提出物（35%）、授業における発表（35%）、課題に取り組む姿勢（30%）
授業における発表に対してはその都度コメントを与える。
提出物は添削し、返却する。

【使用テキスト】

本廣明実・加藤照恵著 「幼稚園・保育園のうた/ピアノ伴奏曲集」ドレミ楽譜出版社

【参考文献】

幼稚園教育要領（2017年 文部科学省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|--|----|
| 1 | オリエンテーション（授業の進め方）、幼稚園教育要領の領域「表現」、音楽表現の芽生えと発達、他領域との関連 | 予習（30分）：各季節の歌を4曲ずつリストアップする。 復習（45分）：ワークシートに従って、授業の振り返りを纏める。 | |
| 2 | 手遊び歌・体遊び歌（1）「季節の歌」 | 予習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 | |
| 3 | 手遊び歌・体遊び歌（2）「園生活の歌」 | 予習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 | |
| 4 | 手遊び歌・体遊び歌（3）「人気のダンス」 | 予習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 | |
| 5 | わらべ歌、遊びと表現、音楽を伴ったさまざまな遊び、遊びの創作 | 予習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 | |
| 6 | リズム遊び「ボディー・パーカッション」「簡単なクラッピング・ミュージック」 | 予習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 | |
| 7 | リトミック「さまざまなリズムを聴きとり、反応する」「さまざまな音の表情を聴き取り、反応する」「リズムカード」ICT機器の活用 | 予習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 | |
| 8 | 音楽表現における教材選び、指導案の作成 | 予習（30分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（30分）：ワークシートに従い、復習を行う。 | |
| 9 | トーンチャイムを使ったさまざまな音楽活動 | 予習（30分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（30分）：ワークシートに従い、トーンチャイム活動の振り返りを纏める。 | |
| 10 | 簡単な楽器を使った合奏（鍵盤楽器、打楽器、トーンチャイム等） | 予習（30分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（30分）：ワークシートに従い、合奏の振り返りを纏める。 | |
| 11 | 指導案に沿った模擬保育とその振り返り | 予習（30分）：ワークシートに従い、音楽遊びのアイデアを纏める。 復習（30分）：ワークシートに従い、音楽遊びの振り返りを行う。 | |
| 12 | 簡単な音楽劇の制作についてのオリエンテー | 予習（45分）：ワークシートに従い、音楽 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|--|----|
| | シヨン（素材や手法の説明、計画の立て方、表現指導上の留意点、援助のあり方）ICT機器の活用 | 劇に関するアイデア、意見を纏める。 復習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行ったうえで、チェック項目に回答する。 | |
| 13 | 音楽劇の準備・練習（１）（小道具の製作、楽器伴奏、振り付け） | 予習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行う、必要であれば製作物の準備を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行ったうえで、チェック項目に回答する。 | |
| 14 | 音楽劇の準備・練習（２）（総合的な練習） | 予習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行う、必要であれば製作物の準備を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行ったうえで、チェック項目に回答する。 | |
| 15 | 音楽劇の発表会、振り返り、評価の考え方 | 予習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行う、必要であれば製作物の準備を行う。 復習（４５分）：ワークシートに従い、音楽劇の振り返りを纏める。 | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： ONGA12
 授業形態： 演習
 科目名： 保育内容 - 表現 【発B】
 担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の一環として音楽的表現活動を指導するために必要な専門的知識、技能および実践力を修得する。幼稚園教育要領の示す領域「表現」のうち音楽に関わる内容を理解し、種々の音楽的表現と指導法を学ぶ。グループワークによる課題を通して各々の自由な発想を呼び起こし、豊かに創造する力と園児に伝える力を育成する。またほぼ毎回行う発表や模擬授業を通して保育者としての実践力を高めると同時に、観察および評価の力を養う。保育現場において専門性を持つ人材と協働し子どもとの音楽活動に十分に対応できる幅広い音楽知識を修得する。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|---|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |
| | | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |
| | | 4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 領域「表現」のねらいと内容を理解できる。
2. 保育者に問われる基礎的な音楽能力と身体表現力（楽しんで発表できる力）を身に付ける。
3. 子どもの発達に合わせた保育内容の計画と実践、および適切な評価ができる。
4. レポートリーの習得（15曲）に加え、自由な発想による振付が短時間でできる。
5. 子どもに寄り添う音楽を理解し、堅実な実践力により彼らの豊かな音楽経験をサポートできる。
6. 音楽に関わる指導場面を具体的に想定し保育を構想することができる。

【成績の評価】

レポート、ワークシート等提出物（35%）、授業における発表（35%）、課題に取り組む姿勢（30%）
 授業における発表に対してはその都度コメントを与える。
 提出物は添削し、返却する。

【使用テキスト】

本廣明実・加藤照恵著 「幼稚園・保育園のうた/ピアノ伴奏曲集」ドレミ楽譜出版社

【参考文献】

幼稚園教育要領（2017年 文部科学省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|--|----|
| 1 | オリエンテーション（授業の進め方）、幼稚園教育要領の領域「表現」、音楽表現の芽生えと発達、他領域との関連 | 予習（30分）：各季節の歌を4曲ずつリストアップする。 復習（45分）：ワークシートに従って、授業の振り返りを纏める。 | |
| 2 | 手遊び歌・体遊び歌（1）「季節の歌」 | 予習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 | |
| 3 | 手遊び歌・体遊び歌（2）「園生活の歌」 | 予習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 | |
| 4 | 手遊び歌・体遊び歌（3）「人気のダンス」 | 予習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 | |
| 5 | わらべ歌、遊びと表現、音楽を伴ったさまざまな遊び、遊びの創作 | 予習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 | |
| 6 | リズム遊び「ボディー・パーカッション」「簡単なクラッピング・ミュージック」 | 予習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 | |
| 7 | リトミック「さまざまなリズムを聴きとり、反応する」「さまざまな音の表情を聴き取り、反応する」「リズムカード」ICT機器の活用 | 予習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 復習（45分）：ワークシートに従って、実技練習を行い、示されたチェック項目に回答する。 | |
| 8 | 音楽表現における教材選び、指導案の作成 | 予習（30分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（30分）：ワークシートに従い、復習を行う。 | |
| 9 | トーンチャイムを使ったさまざまな音楽活動 | 予習（30分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（30分）：ワークシートに従い、トーンチャイム活動の振り返りを纏める。 | |
| 10 | 簡単な楽器を使った合奏（鍵盤楽器、打楽器、トーンチャイム等） | 予習（30分）：ワークシートに従い、予習を行う。 復習（30分）：ワークシートに従い、合奏の振り返りを纏める。 | |
| 11 | 指導案に沿った模擬保育とその振り返り | 予習（30分）：ワークシートに従い、音楽遊びのアイデアを纏める。 復習（30分）：ワークシートに従い、音楽遊びの振り返りを行う。 | |
| 12 | 簡単な音楽劇の制作についてのオリエンテー | 予習（45分）：ワークシートに従い、音楽 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|--|----|
| | シヨン（素材や手法の説明、計画の立て方、表現指導上の留意点、援助のあり方）ICT機器の活用 | 劇に関するアイデア、意見を纏める。 復習（45分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行ったうえで、チェック項目に回答する。 | |
| 13 | 音楽劇の準備・練習（1）（小道具の製作、楽器伴奏、振り付け） | 予習（45分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行う、必要であれば製作物の準備を行う。 復習（45分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行ったうえで、チェック項目に回答する。 | |
| 14 | 音楽劇の準備・練習（2）（総合的な練習） | 予習（45分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行う、必要であれば製作物の準備を行う。 復習（45分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行ったうえで、チェック項目に回答する。 | |
| 15 | 音楽劇の発表会、振り返り、評価の考え方 | 予習（45分）：ワークシートに従い、音楽劇中の曲の実技練習を行う、必要であれば製作物の準備を行う。 復習（45分）：ワークシートに従い、音楽劇の振り返りを纏める。 | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： KARA16
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 表現
担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

幼稚園・保育園の保育の基本理念をふまえ、「子どもにとって表現とは何か」「保育における表現とは何か」さらには「人間にとって表現とは何か」を考察した上で“動きのスケッチ”による表現の方法を身につけます。

この授業では、今までにみなさんが行ってきた“創作ダンス”とは一味違う身体運動を行います。踊ることが“キライ”という人、からだか“カタイ”という人、人前でパフォーマンスをするのは“ニガテ”という人...も安心して授業を受けてください。
授業では、グルーブワークをとおして、様々なテーマに沿って動きづくりを行い、“子どもにとって表現とは何か”を探究します。

<Google Classroom クラスコード> vem6baa

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 使命感・倫理観 | 2 |
| | | 向上心 | 2 |
| | | 専門的知識と実践力 | 3 |
| | | 自己研修力 | 3 |

【到達目標】

1. 自分が見たこと、感じたこと、考えたこと、想像したことなどを自分の身体を媒体にして自由に伸び伸びと動きで表現することができる。
2. 子どもの身体表現の基礎的知識を理解し、実践できる。
3. 子どもの発達発達に即して、主体的・対話的な学びが実現できる家庭をふまえ、実際の指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。
4. 表現活動をとおして、豊かな心と創造力を身につけることができる。

上記の到達目標を達成することで、本学の卒業認定・学位授与の方針に示す、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を身につけることができる。

【成績の評価】

授業時間内での作品評価：70%

授業態度：20%

授業中に作成する小レポート：10%

全体の60%以上の得点で合格とします。

授業内で発表する作品の評価は、ビデオ等により振り返り、フィードバックします。

小レポートの評価は、オフィスアワーにてフィードバックします。

原則として、対面授業で行います。また、単位認定には、授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）

杉浦 とく他 『子どもの表現力を高める舞踊』（明治図書 1988年）

黒川 建一他編 『保育内容 表現』（ミネルヴァ書房 1990年）

高橋 和子他編 『表現 - 風の卵がころがったとき - 』（不昧堂出版 1995年）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|------------------------------------|--|----|
| 1 | 人間と表現の関係について 《講義》 | 次回の授業内容を把握し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておいてください（30分）。また、実施された授業の内容要約をA4 1枚程度、行ってください（30分）。 | |
| 2 | 子どもと表現の関係について 《講義》 | 次回の授業内容を把握し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておいてください（30分）。また、実施された授業の内容要約をA4 1枚程度、行ってください（30分）。 | |
| 3 | 保育の基本と表現（子どもにとって表現とは何か） 《講義》 | 次回の授業内容を把握し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておいてください（30分）。また、実施された授業の内容要約をA4 1枚程度、行ってください（30分）。 | |
| 4 | 保育の基本と表現（子どもの表現活動の実際） 《講義》 | 次回の授業内容を把握し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておいてください（30分）。また、実施された授業の内容要約をA4 1枚程度、行ってください（30分）。 | |
| 5 | 身体の部分を使ってのいろいろな動き 《実技》 | 授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。 | |
| 6 | 身体の全体を使ってのいろいろな動き（2人組での動き） 《実技》 | 授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。 | |
| 7 | 身体の全体を使ってのいろいろな動き（音楽に合わせての動き） 《実技》 | 授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。 | |
| 8 | 主題に対する表現（指導案の作成を含む）＜小さな動物＞ 《実技》 | 授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。 | |
| 9 | 主題に対する表現（指導案の作成を含む）＜大きな動物＞ 《実技》 | 授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。 | |
| 10 | 主題に対する表現（指導案の作成を含む）＜小さな乗り物＞ 《実技》 | 授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。 | |
| 11 | 主題に対する表現（指導案の作成を含む）＜大きな乗り物＞ 《実技》 | 授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。 | |
| 12 | 子どもの生活における表現活動を考える（模擬保育） 《実技》 | 授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|------------------------------|--|----|
| | | 予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。 | |
| 13 | 子どもの表現活動へのアプローチの実際（模擬保育）《実技》 | 授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。 | |
| 14 | 総括（子どもの表現活動をの本質を考える）《講義》 | 次回の授業内容を把握し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておいてください（30分）。また、実施された授業の内容要約をA4 1枚程度、行ってください（30分）。 | |
| 15 | 総括（子どもと表現活動のまとめ）《レポート作成》 | ”子どもにとって表現とは何か”について、予習として、ノート等にまとめておいてください（30分）。また、実施された授業の内容要約をA4 1枚程度、行ってください（30分）。 | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： KARA8
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 健康
担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

最近では、子どもの運動能力の低下や身の自立ができていないことなどが話題となっています。本来、子どもにとって『健康』とは何でしょうか？”

健康 および健康 では、幼稚園・保育園の保育の基本と領域「健康」の関係を明らかにし、そのねらい、内容、方法に関して理解を深めるとともに、本来の子どもの健康を考えます。健康 では、「子どもの健康」の考え方をふまえ、健康にかかわる子どもの生活実態を中心に学びます。

また、少人数のディスカッションをとおして、自身の生活や子ども時代を振り返り、これから出会う子どもたちへのアプローチを考察します。

<Google Classroom クラスコード> 5vcejsn

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 『健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う』という目標を達成するために、どのように子どもにかかわればよいのかを探求できる。
2. 子どもがたくましく生きるための健康や体力について修得できる。
3. 子どもの心と体の「理論」と子どもが健康で安全な生活を送ることができるための「実践力」を身につけることができる。

【成績の評価】

期末試験レポート：65%（この授業は、期末試験レポートを提出しなければ単位を修得することはできません）

授業中に作成する小レポート：20%

授業態度：15%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

原則として、対面授業で行います。また、単位認定には、授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）

菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』（萌文書林、1990年）

森下はるみ 池田裕恵 『健康 - 乳幼児のこころとからだ -』（不昧堂出版、1992年）

生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』（北大路書房、1993年）

原田碩三 『幼児健康学』（黎明書房、1997年）

無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』（萌文書林、2007年）

河邊貴子編 『演習 保育内容 健康』（建帛社、2008年）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-------------------------------|--|----|
| 1 | 「健康」の考え方 | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 2 | 子どもの健康の考え方 | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 3 | 領域「健康」において育むもの | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 4 | 領域「健康」と他の領域との関係 | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 5 | 小学校教育と領域「健康」の関連性 | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 6 | 健康にかかわる子どもの生活実態（睡眠について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 7 | 健康にかかわる子どもの生活実態（食生活について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 8 | 健康にかかわる子どもの生活実態（日中の活動について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 9 | 子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動の発達について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 10 | 子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動能力について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------------------|--|----|
| | | いてください。（30分） | |
| 11 | 子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動能力低下の背景について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 12 | 子どもの身体の発達と運動能力（子どもの運動発達の特徴について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 13 | 子どもの身体の発達と運動能力（子どもと運動遊びについて） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 14 | 総括（指導案の作成を含む）＜子どもと生活について＞ | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読して、ノート等にまとめておいてください。（30分） | |
| 15 | 総括（指導案の作成を含む）＜子どもと運動について＞ | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録してください（30分）。また、提示する5つのテーマについて、指定のレポート用紙にまとめて期日までに提出してください。（30分） | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： KARA9
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 健康
担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

健康 の内容をふまえ、さらに「子どもの体や健康」について学習していきます。健康 では、子どもの身体の発達や運動の発達を中心に学び、それらの基礎理論をもとに、実際の園生活を考えます。乳幼児は、100%大人が保護し、守る義務があります。したがって、保育者として、どのような安全の管理と指導および援助の方法があるのかを実際の事例をもとに修得します。

<Google Classroom クラスコード> qzrz7gq

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 子どもの身体および運動の発育発達の原則を理解することができる。
2. 子どもを取り巻くすべてに対して、生命を守るための安全をどのように捉え、子どもたちにどのように指導していくかについて実践的な立場から具体的に考察できる。
3. 健康 に引き続き、子どもの基本的な生活習慣の「理論」、その基本的な生活習慣を形成するための「実践力」を身につけることができる。

【成績の評価】

最終レポート：70%（この授業は、最終レポートを提出しなければ単位を修得することはできません）

授業態度：20%

授業中に作成する小レポート：10%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

原則として、対面授業で行います。また、単位認定には、授業の2/3以上の出席が必要です。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領開設』（平成30年3月）

菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』（萌文書林 1990年）

森下はるみ 池田裕恵 『健康 - 乳幼児のこころとからだ -』（不昧堂出版 1992年）

生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』（北大路書房 1993年）

原田碩三 『幼児健康学』（黎明書房 1997年）

無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』（萌文書林 2007年）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は実務経験のある教員の授業科目です。中学校・高等学校の保健体育科における学校現場指導の経験を生かし、子どもの身体や運動の発達について具体的な事例を提示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------------------|--|----|
| 1 | 子どもの身体の発達の原則（身長と体重について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 2 | 子どもの身体の発達の原則（骨の形成について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 3 | 子どもの身体の発達の原則（脊柱の湾曲について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 4 | 子どもの身体の発達の原則（生理的機能の発達について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 5 | 子どもの身体と発達の原則（さまざまな発育曲線から発達の原則をよむ） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 6 | 子どもの身体と運動の発達のまとめ | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 7 | 基本的な生活習慣の形成（食事について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 8 | 基本的な生活習慣の形成（睡眠について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 9 | 基本的な生活習慣の形成（衣服の着脱，排泄について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 10 | 基本的な生活習慣の形成（生活リズムについて） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------------------------|--|----|
| | | 分）。 | |
| 11 | 安全の指導（けが・事故の実態について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 12 | 安全の指導（事故のメカニズムについて） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 13 | 安全の指導（子どもの安全の指導） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 14 | 安全の指導（子どものルール・きまりの理解） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。 | |
| 15 | 総括（子どもの成長・発達の原則を踏まえた子どもの健康について） | 授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。また、提示されたテーマについてまとめ、提出してください（30分）。 | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： KOK04
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 人間関係
担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

子どもたちを取り巻く「人間関係」の希薄さ、子ども自身の「人間関係」づくりの弱さなどの問題に対し、保育者として、また、親としてどのように対応すればいいのだろうか。領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指す領域です。幼稚園教育要領および保育所保育指針における基本理念をふまえながら、乳幼児の様々な生活場面での「人との関わり」の育ちについて、心理学的な知識を仲立ちとした保育理念と保育実践の統合という観点から検討します。子どもの育ちについて理論と実践力を兼ね備えた、子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けることを目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |
| | | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 学生が、幼稚園教育等において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して理論と結びついた実践的な保育を構想する方法を身に付けることができる。

【成績の評価】

- ・授業時に出される課題（60％）、レポート（40％）の総合評価。
- ・未提出の課題、レポートがある場合は、単位を認定しない。
- ・課題及びレポートに関しては、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

岩立京子・西坂小百合（2021）『保育内容 人間関係 第2版』（光生館）

【参考文献】

- 文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
無籐隆・古賀松香（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」』（北大路書房）
小田豊・奥野正義（2009）『保育内容 人間関係』（北大路書房）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|----------------------------------|---|----|
| 1 | オリエンテーション 領域「人間関係」の保育内容 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 2 | 現代社会と人と関わる力 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 3 | 0歳児の育ちと人との関わり（1）発達の特徴 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 4 | 0歳児の育ちと人との関わり（2）園生活における人との関わり | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 5 | 1～2歳児の育ちと人との関わり（1）発達の特徴 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 6 | 1～2歳児の育ちと人との関わり（2）園生活における人との関わり | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 7 | 3歳児の育ちと人との関わり（1）安心・安定を基盤として過ごす | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 8 | 3歳児の育ちと人との関わり（2）人間関係の広がり | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 9 | 4歳児の育ちと人との関わり（1）人と関わる力の発達の特徴 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 10 | 4歳児の育ちと人との関わり（2）仲間との出会いと関わり | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 11 | 5歳児の育ちと人との関わり（1）遊びや生活の中で育つ人と関わる力 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 12 | 5歳児の育ちと人との関わり（2）園行事 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------------------------|---|----|
| | | 分)。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 13 | 5歳児の育ちと人との関わり（3）小学校への接続 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 14 | 乳幼児期の遊びの発達と人との関わり（1）遊びの種類とその発達 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 15 | 乳幼児期の遊びの発達と人との関わり（2）遊びを通した指導 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： KOK05
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 人間関係
担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。本授業では、保育内容 - 人間関係 に引き続き、幼稚園教育要領、および、保育所保育指針の基本理念をふまえた上で、子どもの人間関係をどのようにとらえるのか、また指導はどのようにあるべきかについて、人間関係に関するさまざまな心理学的知見をもとに検討します。特に、日々の保育の中で起こりうる子どもの「人との関わり」に関する具体的な問題を多くとりあげ、そのような問題に対処する理論に基づいた基本的な考え方と対処方法について学びます。保育や教育で必要となる理論と実践を備え、子育て支援社会を支えるための実践力の向上を目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、乳幼児の「人との関わり」に関するさまざまな事項を検討・考察することで、人間関係全般に関する基礎的指導力のさらなる育成を目標とする。
3. 学生が、子どもにとっての人とのかかわりの意味の重要性をあらためて理解し、主観に陥らない子どもと問題のとらえ方を身に付け、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざす。

【成績の評価】

- ・定期試験（60％）、授業時に出される課題（40％）。
- ・定期試験及び課題については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

岩立京子・西坂小百合（2021）『保育内容 人間関係 第2版』（光生館）

【参考文献】

- 文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）
岩立京子・西坂小百合（2018）『保育内容 人間関係』（光生館）
無籐隆・古賀松香（2016）『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」』（北大路書房）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|------------------------------|---|----|
| 1 | 保育の構想と展開（１）３歳未満児 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 2 | 保育の構想と展開（２）３歳以上児 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 3 | 保育の評価（１）３歳未満児 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 4 | 保育の評価（２）３歳以上児 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 5 | 遊びや生活のなかで育む人と関わる力（１）理論的基盤 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 6 | 遊びや生活のなかで育む人と関わる力（２）保育における指導 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 7 | トラブルと発達（１）理論的基盤 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 8 | トラブルと発達（２）保育における指導 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 9 | 道徳性・規範意識の芽生え（１）理論的基盤 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 10 | 道徳性・規範意識の芽生え（２）保育における指導 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 11 | 協同性（１）理論的基盤 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 12 | 協同性（２）保育における指導 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------------|---|----|
| | | 分)。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 13 | 気になる子ども（1）理論的基盤 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 14 | 気になる子ども（2）保育における指導 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| 15 | まとめ（領域「人間関係」とその指導） | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等を書き出しておくこと（20分）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（40分）。 | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： KOK06
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 環境
担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

子どもは、周囲の様々な環境（人、もの、自然、社会、文化、ICTなど）に好奇心や探究心をもって関わります。子どもにとってよりよい環境や保育者が果たす役割などについて、具体的指導場面での事例や体験的な実践を通して考えながら、保育実践力を培っていきます。その中でも、主に自然との関わりに焦点をあて、大学内のフィールドワークを通して指導法や指導上の留意点等について考えていきます。また、小学校教育との連携など保育の現代的課題について考え、保育をする上での工夫や配慮等についても考えていきます。

この授業では Google Classroom（クラスコード：e5taaci）を使用し、課題指示や提出、連絡事項を伝えます。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |
| | | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解できる。
2. 保育内容「環境」のねらいや内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、自分なりに考えることができる。
3. 幼児理解と評価についての考え方を理解できる。
4. 保育の現代的課題や、領域「環境」と小学校以降の教科等とのつながりを理解できる。

【成績の評価】

授業への関心・態度（10％）、授業時のワークシート及びオリジナル植物図鑑（60％）、定期試験（30％）
ワークシートや課題については、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりします。期末試験については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

- ・文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
- ・厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館

【参考文献】

- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館
- その他、適宜授業で紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例や実際の映像等を活用しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|--|----|
| 1 | オリエンテーション、オリジナル植物図鑑について | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 2 | 保育内容「環境」の意義、「環境」のねらいと内容 | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 3 | 保育内容「環境」と幼児理解（好奇心・探究心） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 4 | 身近な自然との関わりと具体的活動（「自然」について領域から考える） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 5 | 身近な自然との関わりと具体的活動（自然に触れる：フィールドワーク） | 【予習】季節の自然に触れ、気になった自然物などを写真に撮り、植物の名前や特徴をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 6 | 身近な自然との関わりと具体的活動（グループワーク：フィールドビンゴカードの作成） | 【予習】季節の自然に触れ、気になった自然物などを写真に撮り、植物の名前や特徴をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】グループで、フィールドビンゴカードを完成させ、提出すること。 | |
| 7 | 身近な自然との関わりと具体的活動（指導法：安全性に配慮した保育者の援助） | 【予習】季節の自然に触れ、気になった自然物などを写真に撮り、植物の名前や特徴をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 8 | 身近な自然との関わりと具体的活動（フィールドビンゴの実践・振り返り・評価） | 【予習】季節の自然に触れ、気になった自然物などを写真に撮り、植物の名前や特徴をノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 9 | 数量・図形との関わりと具体的な活動（子どもの育ち・発達を捉える） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 10 | 数量・図形との関わりと具体的な活動（保 | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示した | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|------------------------------------|--|----|
| | 育者の援助や関わり) | ページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。(1時間) | |
| 11 | ICT機器との関わりと具体的な活動（保育におけるICT環境の実際） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。(1時間) | |
| 12 | ICT機器との関わりと具体的な活動（ICT機器を活用した保育の実際） | 【予習】事前に課す課題をワークシートにまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。(1時間) | |
| 13 | 幼小接続期の育ちと環境とのかかわり | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等に記載しておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。(1時間) | |
| 14 | 身近な自然との関わりと具体的活動「オリジナル植物図鑑」の作品鑑賞会 | 【予習】オリジナル植物図鑑の発表内容についてノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。(1時間) | |
| 15 | 保育の現代的課題、まとめ(これまでの学びの振り返り) | 【予習】今までの授業の内容を整理し、疑問点についてノート等にまとめておくこと。(1時間) 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。(1時間) | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： KOK07
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 環境
担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

環境では、環境の内容を発展させ、子どもが主体的に環境に関わる力を育む保育について、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付けていきます。そのため、指導案や指導計画の作成、模擬保育を行います。

また、園の室内環境や安全な環境について知識や技術を深めたり、現代的課題や保育実践の動向について学んだりすることを通して、保育構想の向上を目指します。

この授業では、Google Classroom (クラスコード：g4zf2oy) を使用し、課題の指示や連絡事項等を伝えていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |
| | | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 幼児の発達や学びの過程を理解し、環境を再構成することができる専門的知識や実践力を身に付けることができる。
2. 領域「環境」の特性及び情報機器や教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
3. 具体的な保育を構想した指導案や指導計画を作成することができる。
4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。
5. 現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【成績の評価】

関心・態度(10%)、グループ活動・ワークシート及び事前課題・指導案等の提出(60%)、定期試験(30%)

授業の振り返りやレポートは、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりします。期末試験については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

- ・文部科学省(2018)「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
- ・厚生労働省(2018)「保育所保育指針解説」フレーベル館

【参考文献】

- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館
- その他必要があれば適宜紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での経験を活かし、具体的な実践事例や実際の映像等を活用しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|--|----|
| 1 | オリエンテーション（授業の概要について）、保育内容「環境」について | 【予習】幼稚園教育要領の領域「環境」に関するページについて目を通し、大切だと思う視点についてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 2 | 園の環境をデザインする（保育環境のデザインと物的環境） | 【予習】事前に課す課題について、自分なりに調べ、ワークシートにまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 3 | 園の環境をデザインする（子どもの生活や遊びを豊かにする環境） | 【予習】事前に配布した資料に目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 4 | 園の環境をデザインする（室内環境を実際に作成する） | 【予習】事前に配布した資料に目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 5 | 物や人との関わりを深める環境の構成と保育の展開（映像資料等の活用） | 【予習】事前に配布した資料に目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 6 | 社会生活とのかかわり（文化や伝統、行事に親しむ保育の実際） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 7 | 指導形態とカリキュラム（指導計画・指導案作成：グループワーク） | 【予習】担当する行事について調べ、活動内容を検討し、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】グループで指導計画を立案し、指導案等を作成すること。（1時間） | |
| 8 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（教材準備：グループワーク） | 【予習】担当する行事について調べ、指導方法を検討し、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】グループで保育教材等を準備し、指導案等を完成させて、提出すること。（1時間） | |
| 9 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際 行事：七夕） | 【予習】配布された指導案をもとに、子どもへの援助方法を自分なりに考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】模擬保育から学んだことや課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 10 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際 行事：クリスマス） | 【予習】配布された指導案をもとに、子どもへの援助方法を自分なりに考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】模擬保育から学んだことや課題を | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|--|----|
| | | ワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 11 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際 行事：節分） | 【予習】配布された指導案をもとに、子どもへの援助方法を自分なりに考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】模擬保育から学んだことや課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 12 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際 行事：桃の節句） | 【予習】配布された指導案をもとに、子どもへの援助方法を自分なりに考え、ノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】模擬保育から学んだことや課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 13 | 指導の実際の振り返り、幼児理解と評価（記録と映像資料等の活用） | 【予習】模擬保育を振り返り、行事に関する指導について、自分なりの考えをノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 14 | 乳幼児の安全な環境について（事故の予防と対策） | 【予習】幼稚園教育要領など事前に指示したページに目を通し、専門用語を拾って意味を調べ、疑問点と合わせてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシートにまとめて提出すること。（1時間） | |
| 15 | 乳幼児の安全な環境について（安全能力形成について） まとめ（これまでの学びの振り返り） | 【予習】今までの授業の内容を整理し、疑問点についてノート等にまとめておくこと。（1時間） 【復習】授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をワークシート等にまとめて、提出すること。（1時間） | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： TISE3
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 言葉
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

保育計画、保育実践、保育評価、保育の改善・修正を、具体的保育場面において試みることができるように授業を進めます。その中で教室での学びを教育・保育の実践と関連付けて理解し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができるよう継続的な学ぶ能力の習得を図ります。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|---|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

- ・保育場面におけるPDCAサイクルを理解することができる。
- ・言語習得過程を理解することができる。
- ・表出言語が発達する以前の理解言語の重要性を認識することができる。

【成績の評価】

- レポート（10％）、定期試験（80％）、授業への参加度（10％）
- ・課題（試験やレポート等）に対して、研究室で個人的にフィードバックします。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育方針（平成29年3月告示 文部科学省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|---|-----------------------------|--|----|
| 1 | 保育内容としての言葉と乳幼児の発達 | 幼稚園教育要領を読み保育内容言葉のねらいをまとめノートに記述しておくこと。（2時間） 4か月～9か月前後の乳児の有能性の特徴についてまとめ月齢順にまとめること。（2時間） | |
| 2 | 保育内容としての言葉のねらいと内容 | 幼稚園教育要領を読み保育内容言葉の内容、方向性について調べ、ノートなどに文章化すること。（2時間）乳幼児期における言葉の3つの方向性について自分の考えをまとめノートに記述したものを提出すること。（2時間） | |
| 3 | 言葉の育ちと環境 文脈としての経験の意味 | りかいげんご、ひょうしつげんご 理解言語、表出言語の発達の特徴について調べ理解言語の発現の具体的場面についてノートにまとめておくこと。（2時間） | |
| 4 | 言葉の育ちと環境 三項関係と経験の共有化 | 言葉の獲得における二項関係から三項関係への変化の過程を調べ、三項関係の成立の意義をまとめておくこと。（2時間）三項関係の成立のための要件についてまとめ図式化したものをノートに記述しておくこと。（2時間） | |
| 5 | 言葉の育ちと環境 メタ言語能力、メタコミュニケーション | 4歳前後のメタ言語能力の概要をノートにまとめ提出すること。（2時間）なぞなぞ、早口言葉、さかさ言葉など日常場面で見られる具体例をまとめ事例をノートに列挙すること。（2時間） | |
| 6 | 身体言語の意味 | 1歳前後の身体言語の種類をリストアップし、言語獲得に特に関係が深いと思われる事項をまとめておくこと。（2時間）指差し行動の種類とそれらの役割について考えたことをノートに記述しておくこと。（2時間） | |
| 7 | 好奇心・疑問と言葉（内言語） | 4～5歳期の言葉の爆発期における質問内容の特徴について調べ、ノートにまとめること。（2時間）4～5歳ころの外言語から内言語の移行期について行動的特徴をまとめておくこと。（2時間） | |
| 8 | 見立て遊びと言葉 | 幼児のごっこ遊び場面における見立ての具体例を挙げノートに整理しておくこと。（2時間）何を、何に見立ててるのかその特徴について考えをノートに文章化すること。（2時間） | |
| 9 | 絵本の中の言葉 | 0,1,2,3歳児用の絵本を読みその発達の特徴を述べノートに文章化しておくこと。（2時 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------------|--|----|
| | | 間) 絵本の中に見られるオノマトペについて、自分の考えをノートに文章化しておくこと。 (2時間) | |
| 10 | 保育の専門性と言葉 | 保育において問われる専門性の中で、子ども理解の方法について調べノートにまとめておくこと。(2時間)子どもの活動を援助する際自己効力感を育てるための言語的援助について考えノートにまとめておくこと。(2時間) | |
| 11 | 言葉と保育指導計画(保育指導案の作成) | 保育指導案に必要な項目を考えフォーマットを事前に作成しておくこと。(2時間)指導案のどの項目の内容が難しかったかを述べその理由をノートにまとめておくこと。(2時間) | |
| 12 | 言葉と環境構成 | 保育実習や観察・参加で経験したであろう子ども達の遊びや活動の盛り上がりを感じその場面を具体的に文章としてノートにまとめておくこと。(2時間)環境に誘われ思わず遊びたくなるような環境がなぜ言葉と関連するのかについて文章化したものをノートにまとめておくこと。(2時間) | |
| 13 | 言葉と保育実践(模擬保育) | 自分が保育者として保育を実践するということを想定し、指導案を作成しておくこと。(2時間) 模擬保育を実施した後の自己評価の結果をノートにまとめておくこと。(2時間) | |
| 14 | 言葉と保育の評価 | 保育における評価の種類を調べ、それぞれの特徴についてノートにまとめておくこと。(2時間) 保育におけるPDCAサイクルと援助行動の修正についてまとめノートに整理すること。(2時間) | |
| 15 | 総合的指導と言葉(生活科との関連) | 事前に文献などで総合的指導について調べ、5領域との関連をノートにまとめておくこと。(2時間)総合的指導と生活科の関連について自分の考えをノートにまとめておくこと。(2時間) | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： TISE4
授業形態： 演習
科目名： 保育内容 - 言葉
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な言語発達の知識を幅広く体系的に理解し、文化的刺激と言葉の重要性について理解を深める。お遊戯会や生活発表会において台本の制作や演劇指導の基本的スキルなどを習得し、その知識を基盤として教育・保育の実践を行うことができることをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

- ・領域「言葉」のねらいや内容を児童文化財に見出し、保育計画の中に取り入れたらいいかかを考えることができる。
- ・絵本や劇活動などについて理解し、構想し、創作することができる。

【成績の評価】

レポート（10％）、定期試験（70％）、作品（20％）
・課題（試験やレポート等）は、個人的に研究室でフィードバックします。パネルシアターや絵本は授業時にコメントを付けて返却します。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）2200円

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|-------------------|---|----|
| 1 | オリエンテーション | 幼稚園教育要領の歴史的変遷について調べその特徴についてノートにまとめておくこと。（2時間）6領域から5領域へ移行した背景について自分の考えをまとめノートに記述すること。（2時間） | |
| 2 | 保育の場とエピソードの意味 | 保育の場における観察・記録とエピソードの違いについて調べノートにまとめておくこと。（2時間）保育の場におけるエピソードの利点について自分の考えをノートにまとめておくこと。（2時間） | |
| 3 | 領域「言葉」についてに意義 | 領域「言葉」のねらいの方向性（3項目）について調べノートにまとめておくこと。（2時間）子ども達が出会う言語的文化が発達にもたらす影響についてノートにまとめ提出すること。（2時間） | |
| 4 | 領域「言葉」のねらい | 幼稚園教育要領を読み領域「言葉」のねらい、内容について調べノートにまとめておくこと。（2時間）領域「言葉」のねらいの内自分にとって最も重要と思われるものについて自分の考えをまとめノートに文章化すること。（2時間） | |
| 5 | 環境構成と保育の意図性 | 保育における環境構成の意義について自分の体験から割り出した考えをノートにまとめておくこと。（2時間）保育実践において環境構成に潜む保育者に意図について自分の考えをノートにまとめておくこと。（2時間） | |
| 6 | 観察法と記録の実際 | 2年次に行った観察・記録の自分の初期、中期、終期を振り返り見えてくるものをノートにまとめておくこと。（2時間）保育者の様子、子どもの様子の記録に関して重要と思われる事柄をノートにまとめておくこと（2時間） | |
| 7 | 指導計画のなぜ（保育指導案の作成） | 日案で用いられる指導案のフォーマットを用意しねらい、保育教材などを可能な限り準備しておくこと。（2時間）授業中にグループ内で話し合った内容の内保育教材の適切性についてまとめておくこと。（2時間） | |
| 8 | 保育の評価の意義と指導計画 | ある保育実践を評価する際どのような観点にポイントを置けばよいかについて事前に調べノートにまとめておくこと。（2時間）指導計画の適切性とはどのようなことを意味するのか自分の考えをまとめ記述すること。（2時間） | |
| 9 | 童話の中の言葉 | 0,3,5歳児用の絵本や童話に見られる語彙や表現を事前に調べその傾向についてまとめノートに記述しておくこと。（2時間）絵本や童話に見られる言葉の「繰り返し」を列記しその特徴についてまとめノートに記述しておくこと。（2時間） | |
| 10 | 紙芝居と言葉 | 幼少時代に体験した紙芝居などで印象に残っている場面を思い出し文章化すること。（2時間）紙芝居などで話されたセリフなどの喜怒哀楽表現の音声による（パラ言語情報）の演出場面を文章化すること。（2時間） | |
| 11 | パネルシアターと言葉 | パネルシアターについて調べ谷川俊太郎の | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-------------------|---|----|
| | | <p>「もこ、もこもこ」の絵本を読みストーリーに沿ってパネルを制作しておくこと。（2時間） 「もこ、もこもこ」のストーリー伴う演じ方（セリフ）の工夫点をまとめノートに文章化しておくこと。（2時間）</p> | |
| 12 | <p>ペープサートの制作</p> | <p>高島 純の「だれのじてんしゃ」フレーベル館、1932を読み、ストーリーに沿って基本人形、活動人形を考えておくこと。（2時間） 喜怒哀楽を表すために表と裏にどのような絵を描くことに工夫したかをまとめノートに記述しておくこと。（2時間）</p> | |
| 13 | <p>絵本の読み聞かせ</p> | <p>「絵本の読み聞かせ」について文献などで調べ重要な点をノートにまとめておくこと。（2時間） 「絵本の読み聞かせ」が子ども達に及ぼす影響についてノートにまとめておくこと。（2時間）</p> | |
| 14 | <p>四季の行事と言葉</p> | <p>日本における四季にまつわる代表的行事の【いわ（謂れ）】についてノートに記述しておくこと。（2時間）</p> | |
| 15 | <p>総合的指導とは</p> | <p>文献などで「総合的指導」について調べ総合的指導が幼児の育ちにどのような意味を持つのかノートに記述しておくこと。（2時間） 遊びの中で「総合的指導」に関係すると思われる具体的場面について自分の考えをノートに文章化しておくこと。（2時間）</p> | |
| | <p>定期試験(実施する)</p> | | |

科目ナンバリング： KIS02
授業形態： 講義
科目名： 教育学原論
担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

Google Classroom クラスコード：ku26zyk

教育学原論では、教育課程編成・実施の方針に基づき、教育に関係する領域を広範囲に、かつ、多角的に追求することをおして、この領域の基礎的な知識を獲得するための科目として位置づけられます。今日、人々の教育に関する意見や要望、そして批判には、いろんな立場から多様な意見が噴出して、答えを出すのが非常に難しい状況にあります。教育学原論では、教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識を獲得します。そして、自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力を形成します。なお、「教育」と言うと幼児の段階からの教育を意識するかもしれませんが、保育においては養護と教育を一体的に実現するところに特色があります。そこで、0歳児からの教育の可能性や目的および目標についても検討します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。 |
| | | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識を獲得することができる。
2. 教育の基本的概念や教育の理念の基礎を理解することができる。
3. 教育の歴史や思想の学習をおして、今日の教育の基本理念の形成過程を理解することができる。
4. 自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力の獲得することができる。
5. 上の4つの到達目標を達成することで、卒業認定・学位授与の方針に示す、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解することができる。

【成績の評価】

毎回の授業終了時に課するミニレポート（約30%）、レポート（約20%）、定期試験（約50%）の3つを以て、総合的に評価します。

- ・ミニレポートについては、次の授業の冒頭の部分で内容についてコメントします。
- ・主たるレポート課題については、15回目の授業でフィードバックします。
- ・定期試験の内容については、学内ネットを通じてフィードバックします。

【使用テキスト】

新初等教育原理（平成26年 佐々木正治編著、福村出版）

【参考文献】

授業時に、適宜、紹介します。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|-------------------------|--|----|
| 1 | オリエンテーション・教育の意味と本質 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 2 | 教育の目的と目標 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 3 | 人間社会における教育の役割 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 4 | 家族や社会における教育の思想と教育の役割 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 5 | 主要な教育思想 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 6 | 近代学校制度の成立と展開 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 7 | 日本の学校教育の歴史 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 8 | 義務教育の概要 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 9 | 今日の我が国における学校制度と主要国の学校制度 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|------------|--|----|
| | | 提出。(1時間) | |
| 10 | 教育課程の基礎 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 11 | 学習指導の基礎 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 12 | 家庭教育 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 13 | 生涯学習 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 14 | 教員養成 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 15 | 今日の教育課題 | 予習：1～14回のワークシートの点検。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： KIS04
授業形態： 講義
科目名： 教師論
担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

教職や保育職は、皆さんにとって最も身近な職業の一つです。幼稚園や小学校でお世話になった先生に憧れて、この大学に入学した人も多いのではないのでしょうか。では、先生の仕事はどのようなものなのか知っていますか。先生の仕事の実際は、保育や教育を受ける立場からは見えづらいものです。教職や保育職を目指すならば、教師や保育者としての視点を持つことが必要です。

そこで本授業では、教職や保育職にかかわる歴史、制度、理論など様々な視点から検討し、その理解を深めていきます。また、現代社会における教職や保育職の重要性や課題を通して、教職への意欲を高め、各自の教職の在り方を考えることを目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。 |
| | | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|--------------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 使命感・倫理観 | 3 |
| | | 向上心 | 1 |
| | | 多様な人材との協力・協働 | 1 |
| | | 専門的知識と実践力 | 5 |

【到達目標】

1. 公教育の担い手である教職・保育職の社会的意義やその役割について理解できる。
2. 教師観や保育者観の変遷を通して、今日に求められる資質能力を理解できる。
3. 教師・保育者の職務内容や、服務上・身分上の義務を理解できる。
4. 教職・保育職が学校内外の専門家等と連携・分担し、チームとして諸課題に対応する重要性を理解できる。
5. 教職・保育職についての自分の考えを深め、自分の適性や意欲を確かめることができる。

【成績の評価】

毎回授業後に配布する振り返りシートの提出（30％）、4回行う小レポートの作成（20％）、定期試験の結果（50％）から総合的に評価する。

定期試験のフィードバックは、試験終了後に解答例を配付する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- ・ 佐々木司・三山緑編著『これからの学校教育と教師 - 「失敗」から学ぶ教師論入門 - 』ミネルヴァ書房、2014年。
- ・ 大豆生田啓友他編著『アクティベート保育学 保育者論』ミネルヴァ書房、2019年。
- ・ 佐久間亜紀・佐伯胖編著『アクティベート教育学 現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------------------|--|----|
| 1 | オリエンテーション、教師・保育者とは何か | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。 | |
| 2 | 教師観・保育者観の歴史（1）江戸時代の教師・保育者 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。 | |
| 3 | 教師観・保育者観の歴史（2）戦前の教師・保育者 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。 | |
| 4 | 教師観・保育者観の歴史（3）戦後の教師・保育者 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、教師観・保育者観の歴史に関する全体の内容を振り返り、整理した内容や自分の考えを小レポートにまとめること（2時間）。 | |
| 5 | 教師・保育者の役割（1）保育者の仕事とその魅力 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。 | |
| 6 | 教師・保育者の役割（2）教師の仕事とその魅力 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。 | |
| 7 | 教師・保育者の役割（3）教師・保育者の職業的特徴 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、教師・保育者の役割に関する全体の内容を振り返り、整理した内容や自分の考えを小レポートにまとめること（2時間）。 | |
| 8 | 教師・保育者の専門性（1）授業づくり | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。 | |
| 9 | 教師・保育者の専門性（2）子ども理解 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。 | |
| 10 | 教師・保育者の専門性（3）学級経営 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、教師・保育者の専門性に関する全体の内容を振り返り、整理した内容や自分の考えを小レポートにまと | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------------------|--|----|
| | | めること（2時間）。 | |
| 11 | 教師・保育者の職務内容（1）服務上・身分上の義務 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。 | |
| 12 | 教師・保育者の職務内容（2）教員研修 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。 | |
| 13 | 教師・保育者の職務内容（3）勤務条件 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。 | |
| 14 | 教師・保育者の職務内容（4）チーム学校運営への対応 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、教師・保育者の職務内容に関する全体の内容を振り返り、整理した内容や自分の考えを小レポートにまとめること（2時間）。 | |
| 15 | 全体のまとめ、これからの教師・保育者を取り巻く課題 | 予習として、教員から指示された資料を読み、疑問点や気づいた点をノートに整理すること（2時間）。復習として、授業後に、講義資料を読み返し、感想や意見をノートに整理した上で授業クラスルームに投稿すること（2時間）。 | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： KIS03
授業形態： 講義
科目名： 教育制度論
担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

Google Classroom クラスコード：kcvykpI

「教育制度」という言葉は、やや「お堅い」言葉に聞こえるかもしれませんが、また、制度や法規に関連することは難しいのでできれば避けて通りたい…と思う人も少なくないと思います。

しかし、学校は、今日、私たちの暮らしを支える制度の1つとして機能しています。それ故に、学校には、その目的や制度のあり方、保育内容について様々な規定が設けられるとともに、多くの税金やその他の財貨が投入され、そこに教員をはじめといたくさんの人々が関わって、子どもたちの生活を支えています。それゆえに、教員に対する社会的使命や期待には大きなものがあると同時に厳しいものがあります。

本講義は、そのような点を考慮して、責任を果たせる教員としての意識づくりを図りたいと思います。また、採用試験も考慮して、法制面からのアプローチによって教育制度の理解を目指します。できるだけ、丁寧にわかりやすく講義することに努めますので、肩肘張らず受講して下さい。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

- ・教育現場での1つ1つの行為が、社会的な制度の枠の中で運営されていることを理解し、自らの教育実践に取り組む姿勢を形成することができる。
- ・この授業では、教育制度の基本的な枠組みを理解すると共に、制度構築の理念を理解して、教育制度に関する問題に自分なりの意見表明ができる。

【成績の評価】

毎回の授業時におけるミニレポートへのコメント(約30%)、レポート(約20%)及び定期試験(約50%)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】

河野和清編著『現代教育の制度と行政 改訂版』福村出版 2017

【参考文献】

文部科学省「幼稚園教育要領」2017
文部科学省「小学校学習指導要領」2017

その他、授業時に、適宜紹介します。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------------|--|----|
| 1 | オリエンテーション&教育制度を学ぶ意義 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 2 | 教育法規の全体像 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 3 | 学校制度とその課題 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 4 | 教育行政制度とその課題 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 5 | 教育財政制度とその課題 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 6 | 教育課程行政 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 7 | 学校経営の理論と実際 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 8 | 学校経営における地域や保護者との連携 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 9 | 幼児・児童の管理 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 10 | 学校における安全管理 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------|--|----|
| | | 提出。(1時間) | |
| 11 | 教員養成制度 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 12 | 特別支援教育制度 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 13 | 学校を巡る社会状況の変化と学校の課題 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 14 | 生涯学習社会に向けた教育制度の在り方 | 予習：授業で扱う内容と関係するテキストの該当ページを参照してワークシートを完成させる。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| 15 | 我が国及び諸外国における教育事情と教育改革 | 予習：1～14回のワークシートの点検。(3時間) 復習：授業内容の振り返りと授業レポートの提出。(1時間) | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： KOK02
授業形態： 演習
科目名： 教育心理学
担当教員： 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki)

【授業の紹介】

教師は、幼児・児童・生徒の発達や学習状態を適切にとらえ、それに応じて指導することが求められています。本講義では、幼児・児童・生徒の発達、性格、知的能力（記憶、思考、学習）、やる気、学習指導と評価、学級集団などについての基本的知識を扱います。心理学に基づく教育の充実を目標として、学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育に関わる際に有用となる理論を紹介し、受講した学生が理論と教育実践を結びつけられることを目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 学生が子どもの教育・保育にあたるための幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、理論を含めた基礎的な知識を身に付けることができる。
2. 学生が各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。
3. 学生がそのような知識をどのようにして子どもの教育・保育の実践に生かせるのか考える態度を身に付けることができる。

【成績の評価】

- ・ 定期試験（80％）、授業時に出される課題（20％）。
- ・ 定期試験及び課題については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

富永大介・平田幹夫・竹村明子・金武育子（2016）『教職をめざすひとのための発達と教育の心理学』（ナカニシヤ出版）

【参考文献】

鎌原雅彦・竹綱誠一郎（2019）『やさしい教育心理学』（有斐閣）
武田明典（2020）『教師と学生が知っておくべき教育心理学』（北樹出版）
藤原和政・谷口弘一（2021）『学校現場で役立つ教育心理学』（北大路書房）
高櫻綾子（2021）『子どもの育ちを考える教育心理学』（朝倉書店）

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------|---|----|
| 1 | 教育心理学の内容・方法 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 2 | 学習と記憶 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 3 | 動機づけ | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 4 | 知能・創造性と学力 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 5 | 自己理解とパーソナリティ | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 6 | 心理検査 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 7 | 測定と評価 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 8 | 幼児児童生徒の理解 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 9 | 発達の原理 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 10 | 発達段階の特徴 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 11 | 社会化と個性化 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 12 | 学校不適応行動の理解 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|------------|---|----|
| | | こと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 13 | 学級経営 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 14 | 学級集団 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| 15 | 発達障害と支援 | 予習として、事前にテキストを読み、必要に応じて専門用語等の意味を調べまとめておくこと（2時間）。復習として、授業内容やそれに対する自身の考えをまとめ、提出すること（2時間）。 | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： TOKU26
授業形態： 講義
科目名： 特別支援教育
担当教員： 湯浅 恭正(YUASA Takamasa)

【授業の紹介】

特別な支援を必要とする子ども理解を進めるための基本を講義し、学校における教育内容・教育方法について学ぶ。そのために特別な支援を必要とする子どもの心理特性・発達特性、学級づくり・授業づくりの指導方法と教育課程の概要を講義する。これらを通して教師の資質・能力として必要な知識・技術・教育観について学ぶ。さらにインクルーシブ教育の理念・国際的動向・制度の基本を押さえ、「通級による指導」や「自立活動」の意義に触れるとともに、特別支援学校・学級で求められる個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義、関係機関との連携等、インクルーシブ教育時代の特別支援教育の現代的課題を学ぶ。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |
| | | 5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|--------------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 多様な人材との協力・協働 | 5 |
| | | 専門的知識と実践力 | 5 |

【到達目標】

1. 特別な支援を必要とする子どもの生活・発達・学習における困難さとニーズを把握するための基本を理解することができる。それを表現して他者に伝えることができる。
2. 特別な支援を必要とする子どもが授業や学級活動に参加するための支援に必要な知識・支援方法・関係機関との連携の在り方の基本を理解することができる。それを表現して他者に伝えることができる。
3. 特別な支援を必要とする子どもとともに生きるインクルーシブな共生社会の在り方の基本を理解することができる。それを表現して他者に伝えることができる。

【成績の評価】

授業の各回をいくつかにまとめたテーマごとに特別支援教育の基本的な知識と指導技術の理解、さらに教育観について各自が総括した報告を評価する(80%)。総括の視点は授業において適宜説明し、学生からの質問等を受けて質の高い総括報告を求める。

授業の毎回において小報告を提出し、それをトータルに評価する(20%)。毎回の小報告について特に重要だと思われる学生からの指摘や質問を取り上げて、次の授業でフィードバックする。

【使用テキスト】

『よくわかる特別支援教育 第2版』(湯浅恭正編、ミネルヴァ書房、2018)

【参考文献】

授業において適宜資料を配布する。また参考文献として、渡部昭男『障害のある子の就学・進学ガイドブック 改訂版』日本標準、2022。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|--------------------------------|---|----|
| 1 | 特別支援教育を学ぶために-授業のガイダンス | 予習内容:指定したテキストの目次を含めて特別支援教育の内容を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、特別支援教育の概要を要約し、講義で紹介した関連する文献等を図書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。 | |
| 2 | インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の理念と制度 | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、インクルーシブ教育と特別支援教育制度の関連を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、特別支援教育の理念とインクルーシブ教育の関連のポイントを整理し、図書館やネット等で関連する内容を調べて総括報告に備える(2時間)。 | |
| 3 | 特別なニーズのある子どもの発達特性 | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、特別なニーズのある子どもの発達特性を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、発達障害などの子どもの発達特性の理解についてポイントを整理し、図書館やネット等で関連する内容を調べて、総括報告に備える(2時間)。 | |
| 4 | 特別なニーズのある子どもの心理特性 | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、特別なニーズのある子どもの心理特性を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、発達障害などの子どもの心理特性の理解についてポイントを整理し、図書館やネット等で調べて総括報告に備える(2時間)。 | |
| 5 | 特別支援学校・学級に在籍する子どもの学習・発達における困難さ | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、特別支援学校・学級に在籍する子どもの学習・発達における困難さを概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、特別支援学校・学級に在籍する子どもの学習と発達の困難さを理解するためのポイントを整理し、図書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。 | |
| 6 | 特別な支援を必要とする幼児の支援方法 | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、特別な支援を必要とする幼児の支援方法について概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、特別な支援を必要とする幼児の支援方法のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。 | |
| 7 | 特別な支援を必要とする児童・生徒の支援方法 | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、通常学級での指導事例を読み、口頭発表に備える(3時間)。復習内容:口頭発表を踏まえて、通常学級での特別な支援を必要とする児童・生徒の支援方法のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。 | |
| 8 | 教育課程における「通級による指導」「自立活動」の位置づけ | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、「通級による指導」「自立活動」の内容を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、「通級による指導」「自立活動」の内容と教育課程における位置づけのポイントを整理し、図書館やネット等で調べて総括報告に備える(2時間)。 | |
| 9 | 「通級による指導」の内容と指導方法 | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、「通級による指導」の内容と指導方法を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、「通級による指導」の内容と指導方法のポイントを整理し、図 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-------------------------------------|--|----|
| | | 書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。 | |
| 10 | 「自立活動」の内容と指導方法 | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、「自立活動」の内容と指導方法を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、「自立活動」の内容と指導方法のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて総括報告に備える(2時間)。 | |
| 11 | 個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義と教育課程 | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義と教育課程の関連のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて総括報告に備える(2時間)。 | |
| 12 | 個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成する方法 | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を作成する方法をメモし、講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」作成する方法のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて総括報告に備える(2時間)。 | |
| 13 | 関係機関と連携して特別支援教育の体制を整備する意義 | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、関連機関と連携して特別支援教育の体制を整備する意義を概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、関連機関と連携して特別支援教育の体制を整備する意義のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。 | |
| 14 | 外国につながるのある子ども・貧困等により困難な課題のある子どもへの支援 | 予習内容:指定したテキストの内容のうち、外国につながるのある子どもを含めた特別なニーズのある子どもの支援について概観し、メモして講義に備える(2時間)。復習内容:講義を踏まえて、外国につながるのある子どもを含めた特別なニーズのある子どもの支援のポイントを整理し、図書館やネット等で調べて、総括報告に備える(2時間)。 | |
| 15 | インクルーシブ教育時代の特別支援教育の方向 | 予習内容:講義全体を振り返り、総括報告に備える(3時間)。復習内容:講義を踏まえて、図書館等を活用して、インクルーシブ教育時代の特別支援教育の方向を整理し、最終の総括報告のための準備をするとともに、講義全体を振り返り、教職における特別支援教育の意義を確かめる(4時間)。 | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： KIS05
授業形態： 講義
科目名： カリキュラム論
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

保育者は日々子どもと遊びを共にしながら、子どもが幼稚園や保育所、認定こども園に入園（所）してから修了するまでの生活の全貌を見通した保育の計画を立て実践しています。本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき各園で編成・作成される教育課程・全体的な計画の意義や方法を学び、保育の計画、実践、評価、改善の過程についての全体構造を理解していきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 使命感・倫理観 | 3 |
| | | 専門的知識と実践力 | 4 |
| | | 自己研修力 | 3 |

【到達目標】

1. 教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解し論理的に思考・創造することができる。
 - (1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格及び位置付け並びに編成・作成の目的が理解できる。
 - (2) 幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景が理解できる。
 - (3) 教育課程・全体的な計画が社会において果たしている役割や機能を理解し、使命感をもつことができる。
 - (4) 教育課程の基礎理論の習得により保育の営みの本質を探究しようとする態度を育むことができる。
2. 教育課程・全体的な計画の基本原則及び教育実践に即した編成・作成の方法を理解し、実践力の向上に努めることができる。
 - (1) 教育課程編成、全体的な計画作成の基本原則が理解できる。
 - (2) 幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力を例示し、多面的に課題に取り組むことができる。
 - (3) 長期的な視野からまた、乳幼児や園、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性が理解できる。
3. 園全体のカリキュラムを把握し、教育課程、全体の計画をマネジメントすることの意義を理解することができる。
 - (1) カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、柔軟な思考力を用いて課題に取り組むことができる。
 - (2) カリキュラム評価の基礎的な考え方が理解できる。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容（20％）、保育指導案作成（30％）定期試験（50％）
ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出すること。
課題、保育指導案作成については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年3月 文部科学省)
保育所保育指針解説(平成30年3月 厚生労働省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|--|---|----|
| 1 | カリキュラムについて 幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷とその背景 | 予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。 | |
| 2 | 保育の基本と計画 | 予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。 | |
| 3 | 幼稚園における教育課程の役割 | 予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。 | |
| 4 | 保育所における全体的な計画 | 予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。 | |
| 5 | 幼保連携型認定こども園における教育及び保育並びに子育て支援等における全体的な計画 | 予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。 | |
| 6 | 幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力 | 予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------------|--|----|
| | | りすること。 | |
| 7 | 長期の指導計画と短期の指導計画の実際 | <p>予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間）</p> <p>復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間）</p> <p>その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。</p> | |
| 8 | 保育の評価 | <p>予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間）</p> <p>復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間）</p> <p>その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。</p> | |
| 9 | カリキュラム・マネジメントの意義と実際 | <p>予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間）</p> <p>復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間）</p> <p>その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。</p> | |
| 10 | 小学校へつなぐ保育と計画 | <p>予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間）</p> <p>復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間）</p> <p>その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。</p> | |
| 11 | 指導計画の実際（1）指導計画の作成方法 | <p>予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間）</p> <p>復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間）</p> <p>その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。</p> | |
| 12 | 指導計画の実際（2）短期指導計画の作成 | <p>予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間）</p> <p>復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間）</p> | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------------|---|----|
| | | 間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。 | |
| 13 | 指導計画の実際（3）部分指導案の作成 | 予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。 | |
| 14 | 指導計画の実際（4）全日指導案の作成 | 予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。 | |
| 15 | 指導計画立案の発表と評価 | 予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておくこと。（2時間） 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をすること。（計15時間） その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりすること。 | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： TISE1

授業形態： 講義

科目名： 教育の方法及び技術

担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi),河田 祥司

【授業の紹介】

現代は高度情報通信社会と言われるように、スマホやタブレット等に代表される各種の情報メディアが開発され、よりに大量の情報生成、蓄積、流通等が可能になりました。このような社会で求められる能力とは、インターネットや新しいICTを活用でき、必要とする情報の選択、加工、創造、伝達等に関わる新しいコミュニケーション能力です。なおこの授業過程では、「学習者の新たな学びという、主体的で対話的な深い学び」を目標にアクティブラーニング(以下、ALと称する)の手法を取り入れた新しい教育改革の一端を経験することができます。

この科目では、学習者の豊かな発想や興味・関心に対応できる学習形態の中で、経験、観察や調査、情報検索、映像やCGなどが活用できる自由度の高いメディアの選択と活用を可能にする教育の方法と技術の修得を目指します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |
| | | 5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 教育実践に必要な教育の方法に関する基礎的・基本的な知識の理解、技術の習得ができる。
2. 新しい学力観に対応した教授学習システムを設計することができる。
3. 情報ネットワークや情報メディアなど、ICTを活用した教育技術の習得ができる。
4. ALを体験することで、新しい教育方法・技術の活用方法が習得でき、教育者としての資質・力量の向上が養われる。

【成績の評価】

予習レポート(15%)、復習レポート(15%)、研究レポート(70%)、なお、予習レポートとは、主として授業前に予習した内容を、復習レポートとは、授業後に行った復習の結果をまとめて提出するもので、後日採点したものは返却する。研究レポートとは、最終試験に代わるものとして、当該科目に関するいくつかの課題から、幾つかを選択して報告書としてまとめて提出するものを指す。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

授業の中で適宜印刷物(資料)を配布します。

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|----------------------------|---|----|
| 1 | 良い授業の調査から見る教育（保育）方法・技術の分析 | 予習（1時間）：良い授業の調査から見る教育（保育）方法・技術の分析の予習 復習（3時間）復習1時間：良い授業の調査から見る教育（保育）方法・技術の分析の復習 | |
| 2 | 子供の成長・発達段階における教育の役割の考察 | 予習（1時間）子供の成長・発達段階における教育の役割の予習 復習（3時間）子供の成長・発達段階における教育の役割の考察のまとめ | |
| 3 | 学習指導要領における「確かな学力」の分析 | 予習（1時間）学習指導要領における「確かな学力」の分析の予習 復習（3時間）学習指導要領における「確かな学力」の分析の復習 | |
| 4 | 学習意欲の向上を図る動機付け理論の考察 | 予習（1時間）学習意欲の向上を図る動機付け理論の予習 復習（3時間）学習意欲の向上を図る動機付け理論の復習 | |
| 5 | 指導技術の向上を目指す方策の検討 | 予習（1時間）指導技術の向上を目指す方策の予習 復習（3時間）指導技術の向上を目指す方策の復習 | |
| 6 | 学習と成長を支える教育目標の分類体系の検討 | 予習（1時間）指導技術の向上を目指す方策の予習 復習（3時間）指導技術の向上を目指す方策の復習 | |
| 7 | AL先進校の教育記録からみる有効性と限界の分析 | 予習（1時間）AL先進校の教育記録からみる有効性と限界の分析の予習 復習（3時間）AL先進校の教育記録からみる有効性と限界の分析の復習 | |
| 8 | ICTの特徴と教育（保育）利用の有効性と限界の検討 | 予習（1時間）ICTの特徴と教育（保育）利用の有効性と限界の検討の予習 復習（3時間）ICTの特徴と教育（保育）利用の有効性と限界の検討の復習 | |
| 9 | ICTを活用した学習指導案（教育・保育案）の作成 | 予習（1時間）ICTを活用した学習指導案（保育案）の作成の予習 予習（3時間）ICTを活用した学習指導案（保育案）の作成の復習 | |
| 10 | 情報社会の光と影（1）情報モラルと教育 | 予習（1時間）情報社会の光と影（1）情報モラルと教育の予習 復習（3時間）情報社会の光と影（1）情報モラルと教育の復習 | |
| 11 | 情報社会の光と影（2）未来への展望 | 予習（1時間）情報社会の光と影（2）未来への展望の予習 復習（3時間）情報社会の光と影（2）未来への展望の復習 | |
| 12 | AL「主体的・対話的で深い学び」の授業過程の設計 | 予習（1時間）AL「主体的・対話的で深い学び」の授業過程の設計の予習 復習（1時間）AL「主体的・対話的で深い学び」の授業過程の設計の復習 | |
| 13 | ALによる教育の円滑な実施（1）指導内容・方法の検討 | 予習（1時間）ALによる教育の円滑な実施（1）指導内容・方法の検討の予習 復習（1時間）ALによる教育の円滑な実施（1）指導内容・方法の検討の復習 | |
| 14 | ALによる教育の円滑な実施（2）人的環境等 | 予習（1時間）ALによる教育の円滑な実施 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間） / 復習内容（時間） | 備考 |
|----|------------------|---|----|
| | の検討 | (2) 人的環境等の予習 復習 (1 時間) ALによる教育の円滑な実施 (2) 人的環境等の検討復習 | |
| 15 | 教育の方法及び技術のまとめと展望 | 予習 (1 時間) 教育の方法及び技術全体の振り返り 復習 (3 時間) 教育の方法及び技術のまとめ | |
| | 定期試験 (実施しない) | | |

科目ナンバリング： TISE12
授業形態： 演習
科目名： 幼児理解
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

幼児期にふさわしい保育を行う際に必要なことは、幼児一人一人の特性を的確に把握し、理解することです。そのため、本授業では、幼児理解の意義と重要性を理解し、それらを保育実践と結びつけて考察する力を身に付けることをめざします。また、事例研究や映像視聴、ロールプレイなど様々な演習方法を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について学ぶとともに、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付けていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 向上心 | 4 |
| | | 専門的知識と実践力 | 6 |

【到達目標】

1. 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解することができる。
 - (1) 幼児の生活及び遊びの実態に即した幼児理解の意義が理解できる。
 - (2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解することができる。
 - (3) 幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解することができる。
2. 幼児理解の方法を具体的に理解することができる。
 - (1) 観察や記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
 - (2) 個と集団の関係を捉える意義や方法が理解できる。
 - (3) 幼児の発達や学びの過程で生じるつまずきやその要因を周りの幼児との関係やその他の背景から捉える原理及び方法を示すことができる。
 - (4) 保護者の心情や基礎的な対応の方法が理解できる。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みとその内容(40%)、定期試験(60%)により評価します。
ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出すること。
課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

随時、資料を配布します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)
保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)
幼保連携型こども園教育・保育要領(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、子どもたちの具体的な姿や保育活動の事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|----------------------|---|----|
| 1 | 幼児理解の必要性 | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。 | |
| 2 | 保育における「幼児理解」 子どもを見る目 | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。 | |
| 3 | 幼児の発達や学びの理解 | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。 | |
| 4 | 幼児の遊びと幼児理解 | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。 | |
| 5 | 幼児理解を深める保育者の姿勢 | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。 | |
| 6 | 幼児理解に向けて～個と集団 | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間） その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。 | |
| 7 | 保育における「理解」と「援助」 | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまと | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------|--|----|
| | | <p>めておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間）</p> <p>その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。</p> | |
| 8 | 幼児理解と保育者の意図 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間）</p> <p>その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。</p> | |
| 9 | 幼児理解の様々な方法 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間）</p> <p>その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。</p> | |
| 10 | 幼児理解を深める「観察と記録」 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間）</p> <p>その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。</p> | |
| 11 | 幼児のつまずきの理解とその対応 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間）</p> <p>その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。</p> | |
| 12 | 気になる行動への保育者の対応 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間）</p> <p>その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておくことが必要です。</p> | |
| 13 | 子育て支援における幼児理解 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間）</p> | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------------|--|----|
| | | <p>その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておく必要があります。</p> | |
| 14 | 保護者への対応のロールプレイ | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間）</p> <p>その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておく必要があります。</p> | |
| 15 | 幼児の学びのつながり 園内の協力体制と関係機関との連携 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（1時間）</p> <p>その際、実習における記録等が参考となるので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておく必要があります。</p> | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： KOK03
授業形態： 講義
科目名： 教育相談
担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

教育相談は、幼児・児童の心理的発達を支援するための日常的な教育活動であり、教育の専門家としての教師にとって、教育相談に関する基礎の習得は不可欠です。幼児・児童・生徒の発達上直面する問題について柔軟に対応し、援助するためのスキルについて、体験的な活動も取り入れながら心理的成長を支える予防的援助について学習します。
この授業ではGoogle Classroom(クラスコード：gl7ixql)を使用し、ICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-------------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | コミュニケーション能力 | 4 |
| | | 思考力・判断力・表現力 | 6 |

【到達目標】

1. 学校における教育相談の意義と理論を理解することができる。
2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解することができる。
3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解することができる。
4. 学校での予防的心理教育の方法について理解し、実践力を高めることができる。

【成績の評価】

定期試験（60％）と小レポート（40％）
小レポートについては、その都度、授業時に講評する。定期試験については教員研究室において模範解答を閲覧できるようにする。
30分以上の遅刻、離席は欠席特別な場合を除いて欠席とみなす。

【使用テキスト】

教師のための教育相談（2018年 西本絹子 萌文書林）

【参考文献】

絶対役立つ教育相談（2017年 藤田哲也監修 ミネルヴァ書房）
生徒指導提要（改訂版）デジタルバージョン（2022年 文部科学省）

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中学校の現場での教育相談担当教員やスクールカウンセラーの経験を活かし、具体的な事例を示しながら受講者が実感を持って授業内容を理解できるように工夫して授業を行います。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------------------------------|--|----|
| 1 | 現代の子どもと子育てをめぐる状況と教師に求められる役割 | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 2 | 教育相談とは何か 教師のおこなう教育相談の役割・特徴 | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 3 | 相談援助の理論 カウンセリングとカウンセリングマインドの考え方を理解する | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 4 | 相談援助の技術1 カウンセリングマインドを活かす聴き方 | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 5 | 相談援助の技術2 カウンセリングマインドを活かす保護者との関係づくり | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 6 | 子ども理解1 発達の視点から子ども理解する | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 7 | 子ども理解2 問題のアセスメント | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 8 | 子ども理解3 問題行動のとらえ方 | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 9 | いじめ問題への対応 | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 10 | 不登校への対応 | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまと | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------------|--|----|
| | | めて提出すること。（2時間） | |
| 11 | 特別な要する要する子どもへの対応1 理解と支援の考え方 | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 12 | 特別な支援を要する子どもへの対応2 支援の実際の基礎 | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 13 | 障害のある子ども・気になる子どもの保護者への対応 | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 14 | 「困った保護者」・不適切な養育環境への対応 | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| 15 | 子ども支援と学級経営 | 予習として、授業で指定する範囲の教科書を事前に読み、そこに示されるワークについて自分の考えをノート等にまとめておくこと。（2時間）復習として授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をレポートにまとめて提出すること。（2時間） | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： JISS5
授業形態： 実習
科目名： 教育実習事前事後指導 【幼】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

本授業は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うものであり、実習の前後に講義・演習を行います。幼稚園教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるように学びを深めていきましょう。また、保育に必要な知識・技能を取得しようとする意欲を高め、保育技術を身に付けることをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 使命感・倫理観 | 2 |
| | | 向上心 | 2 |
| | | 専門的知識と実践力 | 3 |
| | | 自己研修力 | 3 |

【到達目標】

1. 事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高めることができる。
2. 事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解できる。
3. これらのことを通して教育実習の意義を理解することができる。
教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解することができる。

【成績の評価】

課題・学習シートのまとめ（50%）、実習の振り返りのまとめ（50%）
なお、教育実習事前事後指導は、教育実習 及び教育実習 と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。
ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出すること。
課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|-------------------|---|----|
| 1 | 教育実習の意義と目的 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）</p> <p>部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること（10時間）</p> <p>また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。（10時間）</p> | |
| 2 | 教育実習の概要 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）</p> <p>部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること（10時間）</p> <p>また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。（10時間）</p> | |
| 3 | 保育実践の要件 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）</p> <p>部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること（10時間）</p> <p>また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。（10時間）</p> | |
| 4 | 保育を計画する 部分実習 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）</p> <p>部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること（10時間）</p> <p>また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。（10時間）</p> | |
| 5 | 保育の計画と実践、実習日誌の書き方 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）</p> <p>部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること（10時間）</p> <p>また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。（10時間）</p> | |
| 6 | 実習日誌の実際 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理して</p> | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------------|---|----|
| | | <p>おくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)</p> | |
| 7 | 実習直前の準備と心得 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)</p> | |
| 8 | 部分保育指導案の作成 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)</p> | |
| 9 | 教育実習 の振り返り | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)</p> | |
| 10 | 幼児同士のトラブルの対応（事例研究 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)</p> | |
| 11 | ロールプレイングを通して自己課題を克服する（日常保育） | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間） 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用で</p> | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--------------------------------|---|----|
| | | きるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間) | |
| 12 | ロールプレイングを通して自己課題を克服する（社会人のマナー） | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。(各1時間) 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間) | |
| 13 | 保育学生としての言葉（SST） | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。(各1時間) 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間) | |
| 14 | 教育実習 に向けて 日誌の作成 | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。(各1時間) 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間) | |
| 15 | 教育実習 に向けて 指導案の作成 | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。(各1時間) 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間) | |
| 16 | 教育実習 に向けて 自己点検 | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。(各1時間) 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間) | |
| 17 | 教育実習 の振り返り | 予習として、授業計画によるテーマに基づ | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---------------------|---|----|
| | | <p>き、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）</p> <p>部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間)</p> <p>また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)</p> | |
| 18 | 教育実習 の振り返り （グループ協議） | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）</p> <p>部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間)</p> <p>また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)</p> | |
| 19 | 教育実習報告会に向けて 発表原稿作成 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）</p> <p>部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間)</p> <p>また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)</p> | |
| 20 | 教育実習報告会に向けて 発表原稿仕上げ | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）</p> <p>部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間)</p> <p>また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)</p> | |
| 21 | 教育実習報告会に向けて 最終確認と協議 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）</p> <p>部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間)</p> <p>また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間)</p> | |
| 22 | 教育実習報告会 | <p>予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。（各1時間）</p> | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-------------|--|----|
| | | 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間) | |
| 23 | まとめと今後の課題 | 予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておくこと。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておくこと。(各1時間) 部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出すること(10時間) また、様々な保育技能を保育現場で活用できるように、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。(10時間) | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： JISS6

授業形態： 講義

科目名： 教育実習事前事後指導 【小】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

教育実習事前事後指導での学修を通して、教育実習が円滑且つ効果的に行われるよう、実習の前後に講義・演習を行うものです。教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等について理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにするとともに、教育活動に必要な知識・技能の修得をめざします。2年次に履修した「学校支援ボランティア」の体験を生かし、質の高い実践力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができますようにします。

この授業ではGoogle classroom(クラスコード：dp6cgjz)を使用し、必要に応じてICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 使命感・倫理観 | 2 |
| | | 向上心 | 1 |
| | | 専門的知識と実践力 | 6 |
| | | 自己研修力 | 1 |

【到達目標】

1. 小学校教諭の業務や職業倫理について理解し、教師としての使命感や倫理観を培うことができる。
2. 学校教育活動に必要な知識や判断力を修得することができる。
3. 学習指導計画の作成・実践・記録・評価等を体験する中で、教師として必要な技能、実践力を修得することができる。
4. 自己評価及び自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むことができる。

【成績の評価】

授業への参加態度(40%)、教材研究のあり方(30%)、実習のまとめ(30%)等から評価します。報告会において、各自の成果と課題について、説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校教育実習の手引き(2021年 高松大学)。

【参考文献】

なし。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は実務経験のある教員が担当する授業科目で、学校現場での経験を活かし具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------------|--|----|
| 1 | 教育実習の意義と目的 | 授業で配布された「実習生個人票」「誓約書」「出勤簿」等の清書や下書きを行う。(1時間) | |
| 2 | 教育実習の概要・心得・態度等 | 実習生個人票に記載する自らの学習課題の下書きについて推敲し清書する。(1時間) | |
| 3 | 教育実習の内容と方法、実習日誌の書き方 | 授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間) | |
| 4 | 学習指導案の書き方と教材準備の仕方 | 授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間) | |
| 5 | 各種トラブル等の具体的解決策 | 授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間) | |
| 6 | 実習直前の準備と心得 | 授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間) | |
| 7 | 指導案作り(略案：本時の学習指導) | 研究授業の教科を決めて、指導略案を作成する。(1時間) | |
| 8 | 指導案作り(細案：単元の目標、単元について) | 研究授業の教科を決めて、指導細案(単元の目標、単元について)を作成する。(1.5時間) | |
| 9 | 指導案作り(細案：評価規準、単元計画、本時の学習指導) | 研究授業の教科を決めて、指導細案(評価規準、単元計画、本時の学習指導)を作成する。(1.5時間) | |
| 10 | 電子黒板、タブレットの活用について | 授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間) | |
| 11 | 特別の教科道徳について(学習指導要領から) | 授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間) | |
| 12 | 道徳科の授業づくり(ロールプレイの実際) | 授業での学びをワークシートにまとめて提出する。(1時間) | |
| 13 | 教育実習の成果・課題等についての振り返り | 学校長、指導教員、子どもたちへの礼状を書く。(1.5時間) | |
| 14 | 教育実習報告会に向けて(報告資料の作成) | 報告資料原稿を完成させる。(1.5時間) | |
| 15 | 教育実習報告会に向けて(役割分担、印刷、製本等) | 報告会でのプレゼン資料及び質疑応答を見据えたQ & Aを作成する。(1.5時間) | |
| 16 | 教育実習報告会(前半発表者) | 報告会会場の設営と片付け(30分) | |
| 17 | 教育実習報告会(後半発表者) | 報告会会場の設営と片付け(30分) | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： JISS7
授業形態： 実習
科目名： 教育実習 【幼】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

教育実習 は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会です。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼児教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 使命感・倫理観 | 2 |
| | | 向上心 | 2 |
| | | 専門的知識と実践力 | 3 |
| | | 自己研修力 | 3 |

【到達目標】

(1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解することができる。

幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。

教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。

学級担任の補助的な役割を担うことができる。

(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。

保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。

学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。

様々な活動の場面で適切に幼児と関わるることができる。

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）

なお、教育実習 は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|---|---|----|
| 1 | <p>第1週</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習園の概要を知る 2 実習園の1日の流れを把握する 3 幼児の遊びの状況を理解し、参加する 4 発達の特徴により、遊び、生活、課題への取組みの違いを知る 5 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ 6 実習記録の取り方、反省、評価について学ぶ 7 安全に対する配慮、清掃、環境整備の仕方を知る <p>第2週</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年間指導計画の中での現在の保育を理解する 2 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る 3 いろいろな子どもとの関係を深める 4 保育における指導と援助のあり方を探る 5 部分実習をする 6 保育実践の反省、評価を受ける 7 園行事に参加し、行事のあり方について考える <p>上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。</p> | <p>事前：部分保育・研究保育指導案を作成しておくこと。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。（15時間）</p> <p>事後：毎日、実習日誌を記録し一日を振り返る。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載すること。</p> <p>また、実習園の教員からご指導いただいたことを記録しておくこと。（15時間）</p> | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： JISS8
授業形態： 実習
科目名： 教育実習 【幼】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

教育実習 は、教育実習 の学習を踏まえたうえで、幼児教育の特質を知り、幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うことをねらいとします。実習園では、指導教員の指導を受けながら、観察・部分保育・全日保育・研究保育などの実習を行います。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、実習生の主体的、意欲的な学習への取組が不可欠となります。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 使命感・倫理観 | 2 |
| | | 向上心 | 2 |
| | | 専門的知識と実践力 | 3 |
| | | 自己研修力 | 3 |

【到達目標】

- (1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解することができる。
幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。
教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。
学級担任の補助的な役割を担うことができる。
- (2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。
幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。
様々な活動の場面で適切に幼児と関わるることができる。

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）
なお、教育実習 は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。
日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|---|--|----|
| 1 | <p>第1週</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの成長発達を理解する 2 集団生活における子どもの学びを知る 3 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む） 4 特別な配慮を必要とする子どもへのかかわり方を知る 5 季節の行事に関するの保育を知る 6 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する） 7 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する 8 幼稚園と家庭との連携についてその意義と方法を知る <p>第2週</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育室の環境整備・経営について知り、実践する 2 幼稚園教諭についての職務内容を理解する 3 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する 4 幼稚園の特色ある保育についての理解を深める 5 子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等） 6 全日保育の計画、実践を行う 7 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する 8 実習反省会・お別れ会 9 これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける <p>上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがある。</p> | <p>事前：必ず全日及び研究保育指導案を作成しておくこと。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行うこと。（15時間）</p> <p>事後：毎日、実習日誌を記録し、一日を振り返る。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載すること。</p> <p>実習園の教員からご指導いただいたことを具体的に記録しておくこと。（15時間）</p> | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： JISS9
授業形態： 実習
科目名： 教育実習 【幼】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

教育実習 は、教育実習 ・ の実習経験を生かして、さらに子どもの特性や発達への理解を深め、教職の専門性の理論を学ぶとともに実践力を身に付けていくことをねらいとしています。

実習園では、指導教員の指導を受けながら、指導技術の向上を図るとともに、広い視野に立った幼稚園教育のあり方について学習し、将来、幼稚園の教員としての使命を認識し、保育の楽しさと責務を体感することをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 使命感・倫理観 | 2 |
| | | 向上心 | 2 |
| | | 専門的知識と実践力 | 3 |
| | | 自己研修力 | 3 |

【到達目標】

(1)事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。

教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。

教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解できる。

(2)幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。

幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。

教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。

学級担任の補助的な役割を担うことができる。

(3)大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。

保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。

学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。

様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）により評価をします。

日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|---|--|--|----|
| 1 | <p>事前事後指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習・の課題の抽出と目標の設定 2 保育の記録 3 指導計画の作成 4 保育の展開と教師の援助 5 指導計画の評価・改善 <p>6 実習後の振り返りと自己課題の明確化</p> <p>第1週</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼稚園の教育方針や特色ある保育について理解する 2 幼稚園教諭の職務内容について理解する 3 教育課程と指導計画について理解する 4 全日保育の計画を立案し、実践する 5 研究保育の計画を立案し、実践する 6 学級経営について理解する 7 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する 8 その他教員として必要な事項について理解する <p>第2週</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育室の環境整備について理解する 2 全日保育、研究保育の計画を立案し、実践する 3 地域との連携、幼稚園の社会的意義を理解する 4 小学校との連携について理解する 5 子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等） 6 人権・同和教育、特別支援教育について理解する 7 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する 8 実習反省会・お別れ会 9 これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける <p>上記内容と順序は、実習園の都合、指導方</p> | <p>実習園の評価（60％）、実習日誌・提出物（20％）、実習状況（20％）により評価をします。 日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。</p> | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： JISS10

授業形態： 実習

科目名： 教育実習 【小】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi),佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

教育実習生として、教科等の指導をはじめ、生徒指導、教育相談、学校事務などの実践を通して、学級経営、学校経営及び教育活動の特色や小学校教育全般についての理解を深めていきます。また、カリキュラム・ポリシーに掲げる「教育者に求められる使命感・倫理観の涵養」等をめざすとともに、大学で学ぶ教育理論と教育実践を関連づけて理解することをめざします。さらに、教育実習を通して、改めて教師としての自らの適性や進路を見つめ直す機会とします。

この授業ではGoogle classroom(クラスコード：dp6cgjz)を使用し、必要に応じてICTを活用した双方向型授業を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3.子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 使命感・倫理観 | 2 |
| | | 向上心 | 1 |
| | | 専門的知識と実践力 | 6 |
| | | 自己研修力 | 1 |

【到達目標】

1. 経験豊かな担当教員の指導を受けながら、学校教育の実際を体験的、総合的に理解して、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることができる。
2. 学校現場での教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を高めるとともに、その資質・能力や適性を身に付けることができる。

【成績の評価】

教育実習校からの評価(40%)、担当教員による研究授業評価(30%)、実習日誌や提出物(30%)等により評価。教育実習事前事後指導の報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

＼小学校教育実習の手引き(2021年 高松大学)

【参考文献】

小学校学習指導要領 全解説編(平成29年3月告示 文部科学省)

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は実務経験のある教員が担当する授業科目で、学校現場での経験を活かし巡回指導等を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|--|----|
| 1 | この授業計画に示す回数（日数）と内容を各学校の計画に従って実施する。 学校の教育方針や特色ある教育（校長）、配属学級での活動 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。（30～60分程度） | |
| 2 | 指導講話 実習全般（教頭）、授業参観と授業記録の取り方 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。（30～60分程度） | |
| 3 | 学級の実態と学級経営 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。（30～60分程度） | |
| 4 | 指導講話 学習指導（現職教育主任）、授業参観（学習過程、板書、発問等） | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。（30～60分程度） | |
| 5 | 指導講話 生徒指導（生徒指導主事）、授業参観（児童の反応、つぶやき等） | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。（30～60分程度） | |
| 6 | 指導講話 保健指導（養護教諭、保健主事）、師範授業の参観と研究 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。（30～60分程度） | |
| 7 | 学習指導案の立案、考え方、学級事務についての考え方と実習 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。（30～60分程度） | |
| 8 | 指導講話 褒め方、叱り方（主幹教諭等）、朝の会、帰りの会の運営 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。（30～60分程度） | |
| 9 | 児童の人間関係の把握、給食・清掃指導、授業研究（各教科等） | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。（30～60分程度） | |
| 10 | 教室環境の整備、学級事務の処理、授業研究（道徳、特別活動） | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。（30～60分程度） | |
| 11 | 日常活動、特別活動への参加、指導、授業研究（総合的な学習の時間、外国語活動） | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。（30～60分程度） | |
| 12 | 授業研究（選択した教科の学習指導案の作 | その日の実習内容を実習日誌に記録すること | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------------------|--|----|
| | 成) | によって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度) | |
| 13 | 授業研究（選択した教科外の学習指導案の作成） | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度) | |
| 14 | 問題のある児童の実態把握の仕方 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度) | |
| 15 | 授業研究 で作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度) | |
| 16 | 授業研究 で作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度) | |
| 17 | 研究授業 選択した教科の授業実践と指導、評価 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度) | |
| 18 | 研究授業 選択した教科外の授業実践と指導、評価 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度) | |
| 19 | 教育実習のまとめと反省、関係者懇談、指導 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度) | |
| 20 | 学級での諸活動、実習記録の整理 | その日の実習内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。 気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。(30～60分程度) | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： KYOU17

授業形態： 演習

科目名： 保育・教職実践演習（保・幼）

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko), 田中 美季(TANAKA Miki), 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi), 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 横川 和章(YOKOGAWA Kazuaki), 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu), 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi), 野町 真知子(NOMACHI Machiko)

【授業の紹介】

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の理論的、実践的活動を通して、学生が身につけた豊かな心や創造力等の資質・能力が保育者に最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものです。そのため、1年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレイング、演習などを通して定着を図ります。

なお、後期開講ですが、必要に応じて、前期にも時間を調整して実施することがあります。

授業は、2コマ連続で実施します。また、外部講師の都合により、授業計画を変更することがあります。

。授業は、Google Classroom (クラスコード：qwubdtx) を使用し、課題指示・提出や連絡事項等を伝えます。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。 |
| | | 7. 教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を持っている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|--------------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 使命感・倫理観 | 2 |
| | | 向上心 | 1 |
| | | コミュニケーション能力 | 1 |
| | | 思考力・判断力・表現力 | 1 |
| | | 多様な人材との協力・協働 | 1 |
| | | 専門的知識と実践力 | 3 |
| | | 自己研修力 | 1 |

【到達目標】

- (1) 幼稚園教員や保育士としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付けることができる。
- (2) 幼稚園教員や保育士としての社会性や対人関係能力を身に付けることができる。
- (3) 乳幼児についての理解や学級経営等に関する知識を身に付け、考え方や基礎的事項を例示することができる。
- (4) 教育課程・全体の指導計画等についての知識や保育内容の指導力を身に付けることができる。

【成績の評価】

グループワークなどの受講状況（20%）、毎回のワークシート・課題についてのまとめ（80%）によって、総合的に評価します。

提出されたワークシートや課題は次回以降の授業時に返却します。教員からの講評を受けることでフィードバックを行います。

また、毎回の授業時のワークシートや課題等の提出が必要です。出席、欠席にかかわらず未提出の場合は単位が出ません。なお、授業の意義と役割に鑑み、本学の欠席届の対象とならない欠席は認められません。

【使用テキスト】

必要に応じて資料を配付、または紹介します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目です。保育所、幼稚園等の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|---|--------------|
| 1 | 授業は全15回実施し、1回の授業で2コマ実施する。 社会性や対人関係能力に関する事項(1) 保育者に求められるマナーや社会性 模擬面接 | 【予習】「面接対策」のテキストを読み、気付いたことや疑問点などをノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 全教員 担当：川口 |
| 2 | 保育職を取り巻く現代的課題 講話と演習（グループワーク） | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：松原 |
| 3 | 社会性や対人関係能力に関する事項(2) 「保育者に求められる対人関係の築き方」 講話と演習（グループワーク） | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：野町 |
| 4 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1) 「保育者の倫理」 講話と演習（グループワーク） | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：松原 |
| 5 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(1) 「乳幼児の発達や保育についての理解」 講話と演習（グループワーク） | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：野町 |
| 6 | 保育内容の指導力に関する事項(1) 「表現に関する保育方法や技術の検討」 「リトミック」に関する実技と講話 | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：水嶋 |
| 7 | 社会性や対人関係能力に関する事項(3) 「ストレスとの付き合い方」 講話と演習（グループワーク） | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：横川 |
| 8 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(2) 「特別な支援を必要とする乳幼児、児童の理解」 講話と演習（グループワーク） | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：横川 |
| 9 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2) 「就学前保育施設と小学校の連携」 講話と演習（グループワーク） | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：田中 |
| 10 | 保育内容の指導力に関する事項(2) 「健康に関する保育方法や技術の検討」 講話と演習（グループワーク） | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：田中 |
| 11 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(3) 乳幼児の保護者との懇談 保護者支援に関する演習（グループワーク） | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：山田 |
| 12 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(3) 卒業生による講話と演習（グループワーク） | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：川口 |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|--|-------|
| 13 | 保育内容の指導力に関する事項（3） 「表現に関する保育方法や技術の検討」 「造形」に関する実技と講話 | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：水嶋 |
| 14 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項（4） 「遊びを豊かにする保育者の援助」 講話と演習（グループワーク） | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：山田 |
| 15 | 保育職に求められる資質・能力 保育職に求められる資質・能力の検等 まとめ（保育者としての学びの総括） | 【予習】担当教員から事前に課す課題を、ノート等にまとめておくこと。（2時間） 【復習】担当教員から授業の最後に課す課題を期日までに提出すること。（2時間） | 担当：川口 |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： JISS1

授業形態： 実習

科目名： 観察参加

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

子どもに話しかけたり一緒に遊んだりすることを通して、座学で学んだ子どもの発達を生で体験することにより、子どもについての理解が深め理論と実践の接点を見出すことが可能になるだろう。この授業を通して、より確かな子ども観や実践力の基礎を学び教育・保育に関わる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

- ・ 幼稚園での観察・参加を通して、子供理解を深め保育の流れや保育活動に必要な知識技能を習得することができる。
- ・ 子ども達とどのようにかわり、そのかわりのどこをどのように観て記録するかについて理解することができる。

【成績の評価】

- ・ 観察記録（20%）、観察参加の態度（20%）、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等（60%）を総合評価
- ・ 観察記録はクラス担任の先生のコメントが毎週返却されます。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

幼稚園実習 保育所・施設実習 [第2版] (2014年、ミネルヴァ書房、大豆生田啓友他(編))

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------|---|----|
| 1 | オリエンテーション（観察・参加の意義） | 観察・参加を通してどのような知識技能を習得するかについて文献などを読みノートにまとめておくこと。（1時間）保育活動に必要とされる子ども理解のなぜについてノートにまとめておくこと。（1時間） | |
| 2 | 参加実習の意義（ 目的・形態） | 観察参加における「参加」の意味について文献などで調べノートにまとめておくこと。（1時間） | |
| 3 | 参加実習の意義（ ）模擬体験を通して） | 子どもの役割、実習生の役割を想定し砂場遊び場面での「かかわりの展開」をイメージしたものをノートに書き留めておくこと。（1時間）授業中に例示された資料を基に参加実習の特質についてまとめノートに記述しておくこと。（1時間） | |
| 4 | 観察参加実習園について | 自分が配属される予定の幼稚園についてHPで調べノートにまとめておくこと。（1時間）幼稚園、認定こども園の制度上の違いについてまとめノートに文章化しておくこと。（1時間） | |
| 5 | 観察・参加の心得・態度 幼児とのかかわり | 観察・参加の実際において幼児とのかかわりの中で心得ておくべき注意事項を考えノートに列挙しておくこと。（1時間）幼稚園で知り得た守秘事項についてまとめノートにまとめておくこと。（1時間） | |
| 6 | 観察・参加の心得・態度 保育者とのかかわり | 観察・参加の実際において保育者とのかかわりの中で心得ておくべき注意事項を考えノートに列挙しておくこと。（1時間）観察園で知り得た保育者に関する守秘事項についてまとめノートに記載しておくこと。（1時間） | |
| 7 | 教育実習中の先輩の姿から学ぶ | 教育実習中の先輩の指導案を事前に読み見る観点をあらかじめ決めてノートに記述しておくこと。（1時間）保育を行った先輩との話し合いの中で考えたことを記録にまとめ提出すること。（1時間） | |
| 8 | クラスの子ども達の名前を覚える | クラスの子ども達に対して印象に残る自己紹介を準備しておくこと。（1時間）なぜその子の名前を覚えたのかについて理由を記録して提出すること。（1時間） | |
| 9 | クラスの子ども達の発達の特性を知る | 大学の授業で学んだそれぞれの年齢の発達の特性を再度思い起こしノートに記述しておくこと。（1時間）座学で学んだ発達特性と体験した具体像の違いについて記録して提出すること。（1時間） | |
| 10 | エピソード収集 子供の遊びの様子 | 観察・参加の期間中に見た遊びの種類を思い起こしノートに列挙しておくこと。（1時間）自分にとって興味ある遊びの様子とその理由を記録し提出すること。（1時間） | |
| 11 | エピソード収集 子どもの言葉 | 大学で学んだ3,4,5歳児の言葉の特徴を確認しノートに記述しておくこと。（1時間）最も印象的だった「言語と思考」について具体的場面を添えて記録し提出すること。（1時間） | |
| 12 | エピソード収集 お誕生日会 | お誕生日を迎える月の子ども達を事前に確認しておくこと。（1時間）日々のクラス内での行動とお誕生日会という場での行動の違いの意味するものを記録し提出すること。（1時間） | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|------------------|---|----|
| | | 時間) | |
| 13 | 私の感じた子供の成長 | この演習の初期の子ども達の姿を思い起こし印象に残ってる場面を記録しておくこと。 (1時間) 初期に見られた行動特徴がどのように変化してきたか個人、集団について記録し提出すること。(1時間) | |
| 14 | まとめ・観察・参加Iで学んだこと | この演習で学んだことを、子ども理解、保育活動について整理し記録として提出のこと。 (1時間) | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： JISS2

授業形態： 実習

科目名： 観察参加

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は観察参加 に続いての授業となるので、傍観者的観察者としてではなく、主体的なかかわり方を求めます。そこから、保育者としてのかかわり方やいろいろな遊び場面における環境構成の方法や、援助の在り方、さらに随時環境の再構成について学んでいきます。また、子どもの発達についても理解を深め、その期の保育のねらいと子どもの動き、配慮の仕方など実践的観察参加の中から学び教育・保育に関わる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することをめざします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 5. 子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができる。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

- ・子どもの特性や発達への理解を深め、保育活動に必要な知識技能を修めることができる。
- ・教育実習に向けて継続的に学ぶ態度を身に付け、保育指導の計画立案能力を試みることができる。

【成績の評価】

- ・観察記録（20％）、観察参加の態度（20％）、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等（60％）を総合評価
- ・観察記録はクラス担任の先生のコメントが毎週返却されます。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

幼稚園実習 保育所・施設実習 [第2版] (2014年、ミネルヴァ書房、大豆生田啓友他(編))

【実務経験】

無し

【実務経験と授業科目の関係性】

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）/復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------|---|----|
| 1 | オリエンテーション | 観察の種類と方法について調べノートにまとめておくこと。（1時間）自分が配属される予定の幼稚園の特徴についてHPで調べノートにまとめておくこと。（1時間） | |
| 2 | 観察の視点・教師の役割について | 観察の心構え、子ども理解のための観察の視点について調べノートにまとめておくこと。（1時間）観察記録の主観性、客観性について自分の考えをノートにまとめ提出すること。（1時間） | |
| 3 | 参加的観察法 | 観察における「参加」の意味について文献などで調べノートにまとめておくこと。（1時間）子どもとのかかわりの中で「見守る」ことについて2項目にまとめノートに記述すること。（1時間） | |
| 4 | 観察記録の方法 | 子どもや保育者の行動のどこをどのように見るかについて事前に予想しノートにまとめておくこと。（1時間）子どもの行動を見て出来事、分析、省察、考察について考えノートにまとめておくこと。（1時間） | |
| 5 | 観察・参加の実際 | 配属先の幼稚園での観察・参加のための準備を周到に行う（ネームプレート上履き子ども達への挨拶など）。（1時間）翌週の提出のための観察記録を整理しておくこと。（1時間） | |
| 6 | 子どもの名前を覚えよう | 先週の「観察・参加」の記録を整理して提出すること。（1時間）「私が見た教師の役割」について整理し記録を提出すること。（1時間） | |
| 7 | その子らしさを感じよう | 先週の「観察・参加」の記録を整理して提出すること。（1時間）「印象に残った子どもの姿」について整理し記録を提出すること。（1時間） | |
| 8 | 子どもの遊びに参加する | 先週の記録を整理し提出すること。（1時間）子どもと私（エピソード）について記録の柱を考え整理し提出すること。（1時間） | |
| 9 | 3歳児と話したり遊んだりする | 先週の記録を整理し提出すること。（1時間）「友だちとのかかわり」に焦点を当て記録の柱立てをしておくこと。（1時間） | |
| 10 | 4歳児と話したり遊んだりする | 先週の記録を整理し提出すること。（1時間）「環境構成の工夫」について記録することを整理し提出すること。（1時間） | |
| 11 | 5歳児と話したり遊んだりする | 先週の観察の視点「環境構成の工夫」について整理し記録を提出すること。（1時間）「私を感じた子どもの成長」について記録するためのポイントを焦点化しておくこと。（1時間） | |
| 12 | 環境構成の実際について | 先週の記録を整理し提出すること。（1時間）保育における「環境構成の実際」を季節感に関してまとめておくこと。（1時間） | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： TISE5
授業形態： 講義
科目名： 国語（書写を含む）
担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

○小学校や幼稚園などで国語教育に従事するための理論や表現力を身に付けることをねらいとした授業です。

○ディスカッションやプレゼンテーションなどの手法を取り入れた授業活動の中で、テキストの詳細な読解を通じて「国語」の指導力を高めます。

○また、書写については、毎授業冒頭で平仮名・片仮名の実践的な練習をします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 6. 教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-------------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 思考力・判断力・表現力 | 6 |
| | | 専門的知識と実践力 | 4 |

【到達目標】

この授業の到達目標は、発達科学部の教育課程編成・実施の方針の「教育に関する研究能力を涵養」するとともに「主体的な学びの姿勢を形成」し、「論理的に判断し、それを適切な方法で表現する能力の獲得を図るため、以下のように設定しています。

学生が、幼稚園・小学校教育に携わる教員として必要な国語を適切に表現し、理解する力をつけることができます。

学生が、授業を通じて思考力や想像力、言語感覚を養い、国語を尊重する態度を育てる力をつけることができます。

学生が、主体的に取り組むアクティブラーニングを通じ、自らの意見を表現する力を身につけることができます。

【成績の評価】

ノートの評価... ノートができていない場合はテストを受ける資格がありません。

授業に取り組む姿勢(30%)

定期試験の成績(70%)

の合計点で総合的に評価します。

フィードバック

定期試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

○ひらがな練習帳(子どものひらがな練習帳 桂聖 実務教育出版 2012年)

○自作資料集

○『やまなし』・『よだかの星』・『注文の多い料理店』・『なめとこ山の熊』(筑摩書房 宮沢賢治全集 1980年)

【参考文献】

○保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)

○幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

○小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

○関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育現場での授業経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

無し

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容(時間) / 復習内容(時間) | 備考 |
|---|---|--|----|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○授業のオリエンテーション ○書写練習 く~つ ○読み合わせ『やまなし』 ○『やまなし』の読解 <ul style="list-style-type: none"> ・第一章の内容について | 予習 ○『やまなし』全篇を読む。(30分) ○第一章を、語句などに注意して調べる。(30分) ○その疑問・感想・意見を書く。(60分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○書写練習 し~の ○『やまなし』の読解 <ul style="list-style-type: none"> ・第二章の内容について ・第一章と第二章の関連 | 予習 ○第二章を、語句などに注意して調べる。(60分) ○その疑問・感想・意見を書く。(60分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○書写練習 こ~に ○『やまなし』の読解 <ul style="list-style-type: none"> ・『やまなし』の全体像 ・作者のメッセージについて | 予習 ○全編について疑問・感想・意見を書く。(60分) ○作者のメッセージについて考える。(60分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ○書写練習 け~ひ ○文章表現の様々な技法について <ul style="list-style-type: none"> ・リフレイン ・直喩・隠喩 ・体言止め | 予習 ○「リフレイン」の例文を収集する。(60分) ○「直喩・隠喩」の例文を収集する。(60分) ○「体言止め」の例文を収集する。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ○書写練習 さ~ち ○文章表現の様々な技法について <ul style="list-style-type: none"> ・誇張 ・押韻 頭韻・中間韻 ・押韻 脚韻 | 予習 ○「誇張」の例文を収集する。(60分) ○「押韻」「頭韻」・「中間韻」の例文を収集する。(60分) ○「押韻」「脚韻」の例文を収集する。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ○書写練習 ら~め ○文章表現の様々な技法について <ul style="list-style-type: none"> ・擬音語 ・擬声語 ・擬態語 | 予習 ○擬音語の例文を収集する。(60分) ○擬声語の例文を収集する。(60分) ○擬態語の例文を収集する。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ○書写練習 す~ね ○文章表現の様々な技法について <ul style="list-style-type: none"> ・擬人法 ・擬物法 ・対句法 | 予習 ○擬人法の例文を収集する。(60分) ○擬物法の例文を収集する。(60分) ○対句法の例文を収集する。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ○書写練習 め~な ○文章表現の様々な技法について <ul style="list-style-type: none"> ・倒置法 ・リズム 五七調 ・リズム 七五調 | 予習 ○倒置法の例文を収集する。(60分) ○リズム 五七調の例文を収集する。(60分) ○リズム 七五調の例文を収集する。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> ○書写練習 え~を ○表現技法に関する練習 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの整理 ・問題演習 | 予習 ○様々な技法を用いて短文を作る。(180分) 復習 ○書写練習(60分) | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|--|--|----|
| | ・技法を使用して表現する | | |
| 10 | ○書写練習 フ～マ ○『注文の多い料理店』読み合わせ ○『注文の多い料理店』読解 ・登場人物について ・構成について | 予習 ○『注文の多い料理店』全篇を読む。(40分) ○登場人物の像について考える。(40分) ○構成について考える(40分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 11 | ○書写練習 ヌ～ナ ○『注文の多い料理店』読解 ・印象的な表現 ・虚構の役割について ・作者のメッセージ | 予習 ○印象的な表現について考える。(40分) ○虚構の役割について考える。(40分) ○作者のメッセージについて考える。(40分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 12 | ○書写練習 チ～カ ○『よだかの星』読み合わせ ○『よだかの星』読解 ・よだかについて ・構成について | 予習 ○『よだかの星』全篇を読む。(40分) ○「よだか」について考える。(40分) ○構成について考える。(40分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 13 | ○書写練習 テ～リ ○『よだかの星』読解 ・印象的な表現 ・風景と感情表現の関係 ・作者のメッセージ | 予習 ○印象的な表現について考える。(40分) ○風景と感情表現の関係について考える。(40分) ○作者のメッセージについて考える。(40分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 14 | ○書写練習 サ～ツ ○『なめとこ山の熊』読み合わせ ○『なめとこ山の熊』読解 ・登場人物の像 ・作者のメッセージ | 予習 ○『なめとこ山の熊』全篇を読む。(40分) ○登場人物について考える。(40分) ○作者のメッセージについて考える。(40分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| 15 | ○書写練習 ン～コ ○これまでの書写・技法の整理 ○宮沢賢治の考えたことについて ○定期試験予告 | 予習 ○これまでの書写・技法を整理する。(60分) ○宮沢賢治の考えたことをまとめる。(60分) ○他の作品を読む。(60分) 復習 ○書写練習(60分) | |
| | 定期試験(実施する) | | |

科目ナンバリング： TISE9
授業形態： 講義
科目名： 生活
担当教員： 高橋 佳生(TAKAHASHI Yoshio)

【授業の紹介】

生活科教育の目標や内容，創設の背景，現状や課題などを把握し，その在り方を考える学習を通して，現在の学校教育についての認識を深めます。また，フィールドワーク（自然探索）やものづくり，討論，思考ツールの活用など体験的な学習を通じて，生活科の特徴や他教科との関連，幼児教育との接続などに気づき，関心・意欲や技能など実践力を高めていくようにします。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|--|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 2. 教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 生活科の目標や内容，創設の背景を理解するとともに，フィールドワークやものづくり，討論などを通して体験的に学び，教育実践のあり方について考えを深めることができる。
2. 学習指導要領や生活科にかかわる学習論の学びを通して，児童主体の教育方法の理解を深め，教育・保育について学ぶための資質・能力を身に付けることができる。

【成績の評価】

授業ワークシート(80%)，小テスト2回(10%)，授業への参加態度・日常活動(10%)。
授業ワークシート，小テストについては，その都度，結果を授業時に説明，講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説生活編(平成29年3月告示 文部科学省)
教科書「あたらしいせいかつ(上)，新しい生活(下)」 東京書籍

【参考文献】

授業において適宜紹介，資料配布する。

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は，実務経験のある教員による授業です。小学校現場での授業実践と教員指導の経験を活かし，具体的な活動や視覚的提示を行いながら授業を展開します。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|---|---|----|
| 1 | オリエンテーション，「私にとっての生活科」 | 小学校低学年の生活科で学んだことや印象をまとめておく。（1時間） | |
| 2 | 生活科の目標・内容とその意味（グループワーク） | 小学校学習指導要領解説生活編から，生活科の目標と内容を調べておく。（1時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 3 | 生活科の課題と学習指導要領の改訂（ディスカッション） | 小学校学習指導要領解説生活編P5「生活科改訂の趣旨」から，生活科の成果と課題を調べておく。（1時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 4 | 生活科の内容と体験活動 「自然探索フィールドワーク」 | 野外での自然探索に必要なものや図鑑を調べ，準備する。（1時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 5 | 生活科の特色と教育的意義（ディスカッション） | 小学校学習指導要領解説生活編P10～「教科目標の趣旨」から，生活科の特徴を調べておく。（1時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 6 | 生活科の内容と体験活動 「思考ツールの活用」（グループワーク） | 「思考ツール」とはどのようなものを調べ，活用法を考えておく。（1時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 7 | 生活科の内容と体験活動 「自然のものづくり」（制作） | 教科書（上）P80・81をみて，制作物を考え，ドングリなどの材料や，はさみ・ボンドなどの用具を準備する。（4時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 8 | 生活科の創設と時代的背景（グループワーク） | 生活科が創設された時代や背景について調べておく。（1時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 9 | 生活科の教育理念（グループワーク） ・小テスト「生活科の目標」 | 生活科の目標について，要点となるキーワードを覚える。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 10 | 生活科の内容と体験活動 「動くおもちゃ作り」（制作） | 教科書（下）P56～58をみて，つくるおもちゃを考え，紙コップ・輪ゴムなどの材料や，穴あけ・ソロテープなどの用具を準備する。（3時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 11 | 生活科と他教科とのかかわり（グループワーク） ・小テスト「生活科の内容」 | 生活科の内容について，要点となるキーワードを覚える。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 12 | 生活科と見方・考え方，資質・能力（ディスカッション） | 「見方・考え方」「資質・能力」とはどのようなものが調べておく。（1時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 13 | 生活科と幼児期・中学年以降とのつながり（グループワーク） | 小学校学習指導要領解説生活編P82を読み，幼児期・中学年以降とのつながりを調べておく。（1時間）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 14 | 生活科と総合的な学習（ディスカッション） | 生活科と総合的な学習の共通点や相違点を考えておく。（30分）／資料・ワークシートを見直し整理する。（30分） | |
| 15 | まとめ，生活科と学力 | これまで用いた資料・ワークシートを見直し整理しておく。（30分） | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： KIS08
授業形態： 講義
科目名： 子ども家庭支援論
担当教員： 伊達 ルミ(DATE Rumi)

【授業の紹介】

この授業は保育士資格習得に必須の授業科目です。実務経験のある教員が長年保育所などの現場で培ってきた家庭支援の経験を活かし具体的な事例を示しながら授業を行います。家庭支援とは、私的領域であった家庭内の子育てを社会全体で支えるようになった背景について理解し、職業使命感と倫理観を高めます。そのうえで保育所・こども園・幼稚園などの保育施設を利用する親子のみならず、地域の親子までを視野に入れた支援のあり方に関する専門的知識を身に付け、保育実践向上へと導いていきます。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|---|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 1. 教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っている。 |
| | | 4. 子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できる。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | L0値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 使命感・倫理観 | 5 |
| | | 専門的知識と実践力 | 5 |

【到達目標】

この授業を受けることにより教育及び保育や福祉に携わる支援者としての倫理観の基本を養うことができる。また現代社会における様々な子育て情報を知り、実際に現場で働く保育者や教育者に求められているものを理解することができ、今後そのことをもとに実践していくことができる基礎作りとすることができる。仲間と語り合う中で様々な価値観や考え方があることなども理解することができる。

【成績の評価】

毎回の学習シートの記入・提出(30%)、第14回 家庭支援のまとめ1・・・まとめテスト(60%)、第15回 家庭支援まとめ2・・・レポート作成(10%)の合計点で評価し、単位認定をいたします。第1回目に詳しく説明いたしますので、履修意思のある人は必ず出席して下さい。提出物は、コメントを付して返却することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- ・子ども家庭支援論 保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす 守巧(編著)「佐藤恵・齊藤崇・齊藤勇紀・松井剛太」(著書)萌文書林2021
- ・保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)
- ・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
- ・幼保認定型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)
- ・保育と子ども家庭支援論 編集石動瑞代 中西遍彦 隣谷正範 株式会社みらい

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。保育施設などでの日々の子育て支援の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|----------------|---|----|
| 1 | 子ども家庭支援の必要性 | 予習として子ども家庭支援について調べておく。（2時間） 復習として授業の内容などを合わせなぜ子ども家庭支援が必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（2時間） | |
| 2 | 子ども家庭支援の目的 | 予習として子ども家庭支援について調べておく。（2時間） 復習として授業の内容などを合わせなぜ子ども家庭支援が必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（2時間） | |
| 3 | 保育の専門性と家庭支援 | 予習として保育者と子ども家庭支援について調べておく。（2時間） 復習として授業の内容などを合わせ保育者として何が 필요한のかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（2時間） | |
| 4 | 子どもの育ちの喜びの共有 | 予習として子どもの育ちや発達について調べておく。（2時間） 復習として授業の内容などを合わせ保育者として大切なことを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（2時間） | |
| 5 | 子育ての向上に資する支援 | 予習として家庭における子育てについて調べておく。（2時間） 復習として授業の内容などを合わせなぜ子ども家庭支援が必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（2時間） | |
| 6 | 保育士に求められる基本的態度 | 予習として保育者の資質とは何なのかについて調べておく。（2時間） 復習として授業の内容などを合わせなぜ子ども家庭支援と保育者との関係性が 필요한のかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（2時間） | |
| 7 | 家庭の状況に応じた支援 | 予習として子どもにとっての様々な家庭について調べておく。（2時間） 復習として授業の内容などを合わせなぜ子どもを取り巻く家庭の姿を自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（2時間） | |
| 8 | 地域の資源活用 | 予習として子どもに関する地域とはについて調べておく。（2時間） 復習として授業の内容などを合わせなぜ子どもと地域との関係を自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（2時間） | |
| 9 | 社会資源について | 予習として社会資源について調べておく。（2時間） 復習として授業の内容などを合わせどのような社会資源が子どもの育ちに必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（2時間） | |
| 10 | 子育て支援施策 | 予習として子育て施策について調べておく。（2時間） 復習として授業の内容などを合わせどのような施策が出されたのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。 | |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------|--|----|
| | | （ 2 時間 ） | |
| 11 | 子ども家庭支援の内容と対象 | 予習として実際の子ども家庭支援について調べておく。（ 2 時間） 復習として授業の内容などを合わせ子ども家庭支援の内容を自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（ 2 時間） | |
| 12 | 保育所などを利用する家庭への支援 | 予習として保育所などでの子ども家庭支援について調べておく。（ 2 時間） 復習として授業の内容などを合わせ施設ではどのような子ども家庭支援が必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（ 2 時間） | |
| 13 | 地域の子育て支援及び要保護児童への支援 | 予習として要保護児童について調べておく。（ 2 時間） 復習として授業の内容などを合わせ要保護児童への対応の必要性を自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（ 2 時間） | |
| 14 | 家庭支援のまとめのテスト | 予習として今まで授業などで学んだ子ども家庭支援について学びなおしをしておく。（ 3 時間） 復習として子ども家庭支援の大切さを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（ 2 時間） | |
| 15 | 家庭支援の現状と課題についてのレポート作成 | 予習として子ども家庭支援の大切さについてまとめておく。（ 2 時間） 復習として子ども家庭支援が必要なのかを自分なりにまとめ、他者へ説明ができるようにしておくこと。（ 2 時間） | |
| | 定期試験(実施しない) | | |

科目ナンバリング： KARA7

授業形態： 演習

科目名： 子どもの健康と安全

担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi), 谷本 公重(TANIMOTO Kimie)

【授業の紹介】

本授業科目では、保育所保育指針・幼稚園教育要領及び関連する各種ガイドライン等を踏まえ、子どもの健康や安全に係る実施体制や保健活動の計画及び評価、保育における子どもの健康安全管理の実際、子どもの感染性疾患と予防対策、個別的な対応が必要な子どもへの対応などについて学ぶとともに、乳児の抱き方や体温測定、身体計測などの健康状態の観察方法、包帯法などの応急処置と事故防止、安全管理について演習により具体的に学び、理論と実践力を修得します。

関連科目として「子どもの保健」が既習であることを前提とします。

この授業では、Google Classroom(クラスコード：scynspa)を使用して参考資料などを配布することがあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

| 要件年度 | 要件所属 | ディプロマポリシー |
|---------------|-------|-----------------------------------|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 3. 子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を有する。 |

【学修成果との関連】

| 要件年度 | 要件所属 | 名称 | LO値 |
|---------------|-------|-----------|-----|
| 201904～202404 | 発達科学部 | 専門的知識と実践力 | 10 |

【到達目標】

1. 保健的観点に基づいた保育環境や援助を他者に説明できる。
2. 発育状況・健康状況の把握について他者に説明できる。
3. 保育における衛生管理、事故防止、災害対策等について他者に説明できる。
4. 乳幼児の養護について具体的に理解できる。
5. 体調不良時の対応や感染症対策について具体的に理解できる。
6. 子どもの状態に即して個別的に適切な対応が理解できる。

【成績の評価】

学習態度(10%)、演習記録などの提出物(20%)、定期試験(70%)によって総合的に評価する。なお、提出物は、評価して後日返却する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

- ・小林美由紀(編著), 榊原洋一, 森脇浩一(編集協力): 授業で現場で役に立つ! 子どもの健康と安全演習ノート 改訂第2版, 診断と治療社, 2022.

【参考文献】

- ・小林美由紀(編著), 森脇浩一(編集協力): 授業で現場で役に立つ! 子どもの保健テキスト 改訂第2版, 診断と治療社, 2021.
- ・田島美穂(編集): 平成29年告示 幼稚園教育要項 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本, チャイルド本社, 2017.

【実務経験】

有り

【実務経験と授業科目の関係性】

谷本は、看護師として病院での臨床経験を、磯部は、小児科医として臨床経験を有しており、豊富な経験を踏まえ、具体的例を示しながら講義・演習を行います。

【科目等履修生の受入】

有り

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|----------------------------------|---|---|
| 1 | 保育における保健活動の計画（防災も含む）及び評価、発育状況の把握 | 「保育所保育指針」を確認し、必要に応じて専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所（p131-144）を確認し、自分なりにまとめて再構成し、他者への説明ができるように、ノート等に記載しておくこと。（予習と復習で1時間以上） | 担当：谷本 公重、 磯部 健一 |
| 2 | 乳幼児の身体計測と評価の実際） | テキスト該当箇所（p6-15）を確認し、p18の課題4 カウプ指数の計算と評価を求めて授業に臨むこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で1時間以上） | 担当：谷本 公重、 磯部 健一 |
| 3 | 子どもの保健と保育の環境 | 「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」を確認し、必要に応じて専門用語の意味等を調べてノート等にまとめておくこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で1時間以上） | 担当：谷本 公重、 磯部 健一 |
| 4 | 乳幼児の養護（3歳未満児の抱き方・寝かせ方・おむつ交換） | 乳幼児の成長発達（発達の原則、粗大運動、微細運動、排泄の発達）について確認し、必要に応じてノート等にまとめておくこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で1時間以上） | 担当：谷本 公重、 磯部 健一 |
| 5 | 乳幼児の養護（3歳未満児を対象とした授乳・調乳・離乳食・幼児食） | テキスト該当箇所（p88、94-98）を確認し、必要に応じてノート等にまとめておくこと。授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を確認し、ノート等にまとめること。（予習と復習で1時間以上） | 担当：谷本 公重、 磯部 健一 |
| 6 | 乳幼児の養護（特に3歳未満児の乳幼児の清潔） | テキスト該当箇所（p89、98-102）を確認し、必要に応じてノート等にまとめておくこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で1時間以上） | 沐浴演習を行います。各自、バスタオルを持参のこと。 担当：谷本 公重、 磯部 健一 |
| 7 | 体調不良や傷害発生時の対応（一般看護、包帯法など） | テキスト該当箇所（p50-98）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認し、自分なりにまとめて再構成し、他者への説明ができるように、ノート等に記載しておくこと。（予習と復習で1時間以上） | 担当：谷本 公重、 磯部 健一 |
| 8 | 感染症対策 | テキスト該当箇所（p73-57）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業時間内で資料を配布するので、授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認しノート等に記載しておくこと。（予習と復習で1時間以上） | 担当：磯部 健一 |
| 9 | 健康・安全管理の実際（衛生管理、事故防止及び安全対策） | テキスト該当箇所（p23-33）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業時間内で資料を配布するので、授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認しノート等に記載しておくこと。（予習と復習で1時間以上） | 担当：磯部 健一 |
| 10 | 災害への備えと危機管理 | テキスト該当箇所（p34-39、138-142）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業時間内で資料を配布するので、授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認しノート等に記載しておくこと。 | 担当：磯部 健一 |

【授業計画詳細情報】

| 回 | 授業計画 | 授業時間外の学習 予習内容（時間）／復習内容（時間） | 備考 |
|----|-----------------------------------|--|----------|
| | | （予習と復習で1時間以上） | |
| 11 | 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（食物アレルギー等） | テキスト該当箇所（p107-116）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業時間内で資料を配布するので、授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認しノート等に記載しておくこと。（予習と復習で1時間以上） | 担当：磯部 健一 |
| 12 | 子どもの応急処置 | テキスト該当箇所（p50-55）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業時間内で資料を配布するので、授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認しノート等に記載しておくこと。（予習と復習で1時間以上） | 担当：磯部 健一 |
| 13 | 子どもの救急処置及び救急蘇生法 | テキスト該当箇所（p60-70）を確認し必要に応じて、ノート等にまとめておくこと。授業時間内で資料を配布するので、授業の際に配布した資料及びテキスト該当箇所を再確認しノート等に記載しておくこと。（予習と復習で1時間以上） | 担当：磯部 健一 |
| 14 | 健康安全管理の実施体制（母子保健・地域保健と保育及び地域との連携） | 演習内容については事前に資料を配布するので、予習をして授業に臨むこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で各回1時間以上） | 担当：磯部 健一 |
| 15 | これまでの講義の要点の整理と質疑応答 | 講義内容の重要なポイントを資料として配布する。質疑応答を行うのでまとめたノートを持参すること。（予習と復習で各回1時間以上） | 担当：磯部 健一 |
| | 定期試験(実施する) | | |